

法輪大法義解

李洪志

まえがき

法輪大法の輔導の仕事をよりよくするために、研究会と各地の輔導站の要求に応じて、私が輔導員の会議で法を説き、法を解いたものを、私の審査決定を経て、現在、正式に出版しました。

当時、会議に参加した人の中に、また他の省、市からの少数の輔導員がいました。私が法を説き、法を解いた後、一部の人が録音に基づいて文字に整理しました。しかも、一部の地方でこれを互いに伝写し、複製しています。私が法を説き、法を解く時、すべて特定の環境、特定の条件と具体的な対象の中で行なっていたので、これらの要素を離れて伝写されたものは、理解において、私の説いた大法と異なる意義が生じ、人に誤解されやすいので、大法の伝播には不利なのです。

出版発行した『法輪大法義解』は輔導員内部の読み物です。各輔導員は法輪大法を伝える時、自分に責任を負い、学習者に責任を負い、社会に責任を負い、大法に責任を負わなければなりません。宣伝と問題に解答する時、受け入れる対象の大法に対する理解の程度と受け入れる能力に基づいて、適切に大法を広めなければなりません。

李洪志

目録

1. 長春法輪大法輔導員のための説法
2. 北京法輪大法輔導員会議での提案
3. 広州で全国一部分の輔導站責任者に対する説法
4. 北京法輪大法輔導員会議での法を正すことに関する意見
5. 再版の言葉

長春法輪大法輔導員のための説法

李洪志

一九九四年九月十八日

在席の皆さんはすべて輔導員と中堅の人であり、法輪大法の創設において、特に長春法輪大法の創設において極めて重要な作用を果たしています。多くの煉功場の学習者がたくさん問題を提出しました。我々の輔導員や中堅の人が一部分の問題に対し解答しにくく、或いは解答できません。これには二つの原因があります。一つは法に対する理解が不足しているからです。実は我々は講習会においてすべて説きましたが、法を十分に理解できさえすれば、何でも解答できるはずで、これがその原因の一つであり、しかも最も主要な原因です。もう一つは学習者から提出された一部の具体的な問題に解答しにくいことです。輔導員は直接学習者と接触しているので、多くの具体的な問題には、あまりよく解答できません。

私はずっとこのような態度を抱いています。つまり、法は私がすでに普遍的に概括的に説きました。あなた自身の修煉の問題に関してはこの法に従って行なえばよいのです。もし何もかも解き明かしたら、あなた自身が修めるものはなくなりますので、私はこれ以上多く説かないことにしました。さらに説いたら、私があなただを持ち上げたのと同じことになります。残っているのは幾らかの具体的な問題です。しかし一部の学習者はやはり聞こうと思っており、どうしても安心できないのです。私に聞くことができないから、我々の輔導員や煉功の時間が比較的長い古い弟子に聞きます。しかし輔導員や古い弟子が自らぶつかったことのない問題であればやはり解答しにくいのです。

私はなぜ皆さんと一緒に集まって煉功するように要求したのでしょうか？ 問題にぶつかったら互いに切磋琢磨し、一緒に検討すれば、これらの問題も解決できるからです。自分一人で煉功する場合、問題にぶつかったら解決できず、非常に困惑します。煉功場において、皆さんと一緒に検討してみれば、多くの問題が解決できます。実は一つの問題をしっかり把握して、つまり心性から探せば、どんな問題でも解決できます。しかし、やはり一部の具体的な問題は輔導員にとって確かに解決しにくいのです。これらの問題を解決するために、私は今回の会議を開くことにしました。これも長春の輔導員にとって特別なことであり、ほかの各地ではまだこのような機会はある

りません。今回帰ってきて処理すべき問題がたくさんあり、学習者は皆これを知っているから、できるだけ私を邪魔しないようにしています。電話が鳴るだけでも、酷く私を邪魔するかもしれないので、多くの学習者は電話をかけることも控えています。このことを私は知っています。皆さんに集まってもらったのは皆さんのために幾らかの問題を解答するためです。総輔導站から届けられた一部の学習者の体験談と纏めてくれた幾つかの問題を、私は読む時間がありません。なぜなら、私は第三冊目の本——『轉法輪』を修正しており、やるべきことがまだたくさんあるからです。

今日、皆さんのために問題について解答するのは、主に皆さんが今後仕事をする上での便宜をはかるためです。ここまで話が及びましたので、私はもう一つの問題を話します。つまり、在席の輔導員は責任を持たなければならず、動作の指導に責任を持つだけではまだ不十分で、法理をしっかり理解し、本当に身に付けなければなりません。多く本を読み、多く録音を聞くべきであり、少なくとも一般の学習者より理解できて、はじめて本当に良い輔導員になることができます。法に対する理解は必ずしっかりしなければなりません。学習者に何かの問題があれば、少なくとも一般的な解答ができるように、指導作用を果たせるとまで言えなくても、だいたい分かるように説明できなければなりません。真に高い次元への功を伝えることは、つまり人を済度することであり、即ち本当に修煉することなのです。もし、このように考えてみれば、これは寺院の中、或いは山の奥で専修することと何の違いもありません。

我々のこの法は主に常人社会の中で伝え、大部分は常人の中で修煉しています。そこで我々は修煉者に対して、常人の中で修煉する表れは常人とほぼ一致するようにと要求しています。はっきり言えば、我々の煉功場の責任者は寺院の中で修煉する住職、方丈と同じです。これはただたとえ話で、我々に官職を与えたり、資格を与えたりする人はいません。我々はつまりこのような修煉形式を採っています。考えてみてください、それは同じことではありませんか？ 多くの修煉者を良く率いることができれば、それは功德無量の事です。良く率いることができなければ、私に言わせれば、それは責任を果たしていないのです。このような目的で皆さんに集まってもらったのです。総輔導站の責任者はこの問題を私に話したことがあり、「もう一回講習会を行なったら如何ですか？」と話しましたが、私が思うには、この法をあまりにもはっきり説きすぎると、反って皆さんの修煉によくありません。それは常人の中の道理になってしまい、我々は常人の中で如何に修煉するかという問題を説く必要がありません。後に私がこれらの紙に書かれている問題を皆さんに解答した後、残りの時間に皆さんは何かの問題があれば提出してください。何かの知識を探求しようという問題を提出しないでください。国家の政策に及ぶ問題も提出しないでください。我々が修煉の過

程でぶつかった典型的な問題、主にそのような問題に解答するので、皆さんは提出してください。

我々は輔導員と世話人だけが会議に参加するように通知しましたが、今後通知を受けていない人を絶対に連れて来ないようにしてください。来る人が多すぎると、事が運び難しくなります。すべて輔導員なので、少し高く、少し具体的なことを話して、輔導員が今後の仕事をやりやすくなるようにと思っていました。しかし、在席の中に新しい学習者があり、一回の講習会にしか参加しておらず、ひいては一度も講習会に参加したことのない人もいます。突然こんなに高くて奥深いことを聞くと、非常に受け入れ難く、彼には良い作用を果たすことができず、かえって彼の思想の中に抵抗する気持ちを生じさせやすく、これによってこの人を駄目にしてしまうこととなります。

輔導員は責任を持たなければならず、新しい学習者の動作が正しくなければ、彼らに正しい動作を教えるべきです。一部の古い学習者は動作がすでによくできるようになり、少し正確でないところがあれば、煉功が終わった後、彼に教えたらよいでしょう。入静の邪魔をしないように、煉功の途中で彼を邪魔しないようにしてください。新しい学習者に対して、必ず輔導しなければなりません。質問をする人がいれば、辛抱強く説明してあげなければなりません。我々の煉功場のすべての学習者はこの責任があり、普く衆生を済度すべきです。普く衆生を済度するとは何でしょうか？ 衆生に法を得させることこそ本当に普く衆生を済度することなのです。人が聞きに来たら、あなたは説明しなくてそれでいいのでしょうか？

輔導員は煉功を必ず専一にしなければなりません。専一に煉功できない学習者に対して、注意してあげたり、助けてあげたりしなければなりません。どうしても専一にできず、彼が自分のものを放下できなければ、彼に離れて別の功を練りに行くように勧め、我々の学習者を妨害させないようにすべきです。彼がどうしても離れなければ、それも仕方ありません。彼は練っても得られず、これは悟性が良くないのです。我々佛家は慈悲から出発するので、彼を懲らしめようと思ってはいけません。嚴重に法を正すことを破壊していなければ、手を下してはいけません。

人に病気を治療してあげたり、或いは病気を治療するために人をわれわれの煉功場に連れてきたりする人がいますが、これは大法を破壊することです。これは一つの非常に嚴肅な問題であり、誰もこのようにしてはいけません。もしこのように行なったら、もう私の弟子ではなくなります。もし輔導員がこのように行なったら、すぐ更迭しなければなりません。断固としてこの二つのことを根絶しなければなりません。

輔導員は仕事に責任を持つべきであり、煩わしい仕事でも積極的に取り組むべきです。一部の年を取った輔導員は、法に対する理解が足りず、自分は良いと思っても、はっきり説明できません。その場合、助手をつけて輔導員の仕事に協力させた方がよいでしょう。法に責任を負うべきで、あなた個人の損得ではなく、あなた個人の損得も法と緊密に関わっているのです。輔導の仕事をする時、個人のさまざまな考えを混ぜ入れてはいけません。さもなければ個人と団体の修煉を妨害することになります。輔導員の煉功動作はできるだけ正確にし、できるだけビデオテープの動作と同じようにするべきで、大体同じでなければなりません。僅かな違いは免れがたいもので、絶対に一致して同じ形にすることは不可能です。大体一致していれば構いませんが、違いが大きすぎてはいけません。特に輔導員の場合、あなたがそのまま人に教えると、ずれが生じます。

これから問題に解答します。

弟子：形神俱滅はどのような状態ですか？

師：形神俱滅は一つの古い名詞で、我々はそれを形神全滅と言います。俱という字の発音は良くなく、滅とはつまり散らしてしまうという意味で、俱と聚は同音で、聚は、即ち集まることになりますので、我々は今後、それを形神全滅と呼びます。もちろん本の中に書いてあるのはやはり形神俱滅ですが、この本は過渡期の読み物に属します。我々の第一冊の本である『法輪功』は書き上げた時、低次元の気功と類似する部分がありました。第二冊の本、つまり『法輪功』（改訂版）は、気功よりかなり高くなりました。私は今、私の説いた全部の法を整理しており、将来書き上げたら真に修煉を指導する大法とします。新しい本の中では多くの名詞が正されることになります。

形とは、即ち有形の身体を指すのであり、我々の肉眼で見えるこの物質空間の身体だけを指しているわけではありません。各空間にもあなたの身体が存在しており、皆有形なもので、皆物質的存在であり、極めてミクロ的な次元まで皆身体が存在しています。言い換えれば、どれほどの空間があろうとも、どこにも人の身体があります。形神全滅とは即ちこれらの身体が全て存在しなくなるという意味です。

神とは、即ち人の元神を指しています。主元神にしても、副元神にしても、各種の生命体にしても、形神全滅になった時、それは非常に恐ろしいことです！ 全宇宙の中でこれより恐ろしいことはなく、全て滅びることになり、何もかも無くなってしま

います。もちろん、まだ無限のミクロの物質の存在があり、私は真空でも物質が存在すると話したことがあります。我々の現在の物理学の研究はただ中性微子というレベルにしか達しておらず、最小の物質は中性微子だと認識しています。これは物質の本源物質まで、生命の最も微小の本源物質まではほど遠く、遥かに遠いのです。超ミクロの物質、最も原始的な状態にまで壊滅された時、我々はそれを形神全滅と言います。また最も原始的な状態に戻ったので、それはもう存在しなくなり、かなり高い次元にいる大覚者もそれが見えなくなったのです。同時に思惟も無く、完全に散乱した最もミクロ的な形式になってしまい、かつて高次元で大法に罪を犯したらこのように処理されるのです。人類の壊滅もこのようなことであり、人類がすでに最低の次元まで落ちてきたので、さらに悪事を行なったらこのような問題に直面することになります。つまり宇宙の中から徹底的に消滅され、思惟も無くなり、物質も殆ど無くなり、最も原始的な、最も原始的な状態にまで消滅されるのです。

弟子：男佛や女佛の性別は修煉者の肉身の性別でしょうか、それとも主元神の性別なのでしょうか？

師：人が出世間法まで修煉できた時、すでに羅漢果位の修煉に入っており、つまり初果羅漢になったのです。その時すでに佛だと言ってもよいのです。実際、あなたはすでに佛体での修煉なのです。羅漢は初果羅漢、正果羅漢と大羅漢に分けられています。各次元の距離はかなり開いていますが、しかし大菩薩は佛陀だと言えます。羅漢果位の修煉に達したときに悟りを開いたら、男女に関わらず皆男身の形象を現します。あなたは常人の中で修煉しており、あなたの肉身の性別は変わりません。あなたの肉身は時に男性になり、時に女性になるのならば、それはおかしいことになります！ 昔、羅漢果位まで修煉して圓滿になった人がいますが、圓滿は境地に達したことと同じではありません。もし人が修煉して羅漢果位にまでしか圓滿できず、更に高い次元へ修煉できなくなったら、そのまま定められることになります。彼は一旦功を開いたら、男性でも女性でもすべて男身の形象を現します。彼の身体は彼が修煉して出来た佛体であり、羅漢果位においては皆男体を現すのです。

本来の元神は、男性あるいは女性であるかも知れません。彼のその身体は、高エネルギー物質により転化されたものであっても、或いは彼が修煉して成就したその金剛不壊の体であっても、或いは涅槃の時、佛が彼に与えたその佛体であっても、羅漢果位においては皆男身の形象を現します。菩薩の境地に達したら皆女身の形象を現しますが、元神の性別は変わりません。佛の境地に達した時、やはり身体を持っていますが、その身体は高エネルギー物質で構成したものになります。更に高くなってもやは

り身体を持っており、つまり異なる空間の身体（佛体）です。佛の境地に達したら、性別が主元神の性別に戻り、男佛は男佛で、女佛は女佛になります。

弟子：本体と佛体を修める意義は？

師：我々がここで言っている本体は低次元での修煉における一つの概括的な名詞であり、あなたの各空間の身体を指しており、あなたの肉身もその中に含まれています。

弟子：正法を得て、正果を成すことは、圓滿とみなされます。ならば、我々はどの程度まで修めたら圓滿になれるのでしょうか？

師：圓滿は我々が言う果位の高低とは違い、あなたが羅漢果位にまで修めれば、あなたはすでに佛体の修煉なのです。過去は如来しか佛と呼ばれなかったのですが、現在、佛は比較的多くなりました。区分すればつまり如来も一部の佛を管掌し、それらの佛は如来の次元に達しておらず、菩薩を超えれば、佛と呼ばれ、大菩薩も佛と呼び、ひいては羅漢、菩薩をも佛と称します。皆佛家だからです。ですから、皆さんに教えませんが、あなたが羅漢果位まで修めたら、すでに佛体修煉の段階に入っており、つまりこういう意味なのです。しかし、あなたはすでに佛体をもって修煉する段階になりましたが、必ずしも圓滿になったとはかぎりません。人の根基は違い、忍耐力も違います。菩薩果位にまで修煉できる人がいれば、佛果位にまで修煉できる人もおり、更に高い、如来を超える果位にまで修煉できる人もいれば、羅漢果位にまでしか達することができない人もいます。しかし、どの次元に達したとしても、すべて三界から跳び出したので、全部果位を得たと言えます。つまり、あなたがすでに正果を得たのです。それでも、必ずしも圓滿になったわけではありません。例えばあなたに菩薩果位で悟りを開き、圓滿成就するように按排してあげましたが、あなたが羅漢果位に達しても、まだあなたの最終の修煉の目的に達していないなら、圓滿にはなっていません。つまり、このような関係なのです。あなたが払った分だけ、修煉した分だけ、それ相応に得られます。あなたは圓滿にまで修煉できていませんが、あなたはすでに果位を得ています。しかし、あなたはやはり圓滿にまで修煉できていないので、まだ次元の問題が存在しており、まだあなたの修煉の最終の目的に達していません。

弟子：返本帰真と正果を得ることとの関係は？ 本と真との意味は？

師：返本帰真は常人の中で言われる返朴帰真とは異なります。我々の言った返本帰真とはあなたの先天の本性に戻り、あなたの本性、あなたの本質、あなたの本来の姿に

返ることです。あなたが常人社会の中に落ちてきて、すでに本来の姿が覆い隠されています。常人社会の中で白黒をさかさまにし、是非をさかさまにしており、あなたは返る必要があります。帰真は道家の名詞で、我々が修煉しているこのものは非常に大きいので、すでに佛家自身の範囲を超えており、一部は道家の言い方です。道家は修煉して成就したら、真人になり、つまり佛に成就します。彼らは真人と呼び、真正の人なのです。

弟子：私が永遠に修めていく願を立てたことと、先生がわれわれに按排してくれた道とはどういう関係なのでしょう？

師：あなたは永遠に修めていく願を立てましたが、この永遠というのは絶対的ではないでしょう。正果を得ず圓滿にならずにいつまでも修めるのですか？ 修めるには目標がなくてはならず、高次元を目指して修めていくことは、あなた自身の立てた願に基づき、さらにあなたがどれくらいの高さまで修煉できるかを結び合わせて、師父があなたのために按排するのです。皆非常に科学的なのです。あなたは本来鋼なのに、鉄として按排されたら、それはいけません。あなたが菩薩果位にまで修めることができるのに、羅漢果位に按排されたら、これもいけません。非常に正確に見ており、それは見当違いは少しもありません。

弟子：宇宙の中に全く同じものはありますか？

師：修煉方法は一人の大佛が一つの法門を主宰しており、どこでも同じです。しかし修煉の方法は同じではなく、われわれの今日のこの法輪と同じようなものではありません。しかし、旋回しているものは他にもあります。地球も回転しており、密教は意念で一種の輪を推して回します。このようなものは他にもあり、長春のある気功師も太極を旋回して練っていますが、我々のものと違い、彼は内へ収めるだけで外へ放たず、われわれのと同じではありません。惑星は恒星のまわりを回っており、電子は原子核のまわりを回っており、皆旋機が存在していますが、内涵には千里の差があります。二種の同じものは存在するかもしれませんが、極めて極めて少なく、私はまだ見たことがありません。

私が皆さんに話したように、大覚者たちは今日のこの事を按排したので、それならば宇宙の演化過程の中で一切の事はすべてこの事のために道を開かなければなりません。宇宙の形成の初期にはすでに最後の大事のために按排をしていました。そうであれば、多くの事はすべて今日の末劫の時、最後の一回の正法を伝えるために按排し

たのかかもしれません。なぜ今世紀のこの年代に歴史上において未曾有の気功ブームが現れたのか、私に言わせればそれは偶然のことではありません。なぜ様々な功法が現われたのか、これも偶然ではありません。これらの事は常人の考えているような簡単な問題ではありません。

弟子：法輪と法輪世界とはどんな関係ですか？

師：法輪世界は法輪世界の如来が主宰している非常に歴大で美妙的な世界です。法輪はただ法の功の一面の体現であり、まだほかに法の一面の体現があります。法の一面の体現では、私の説いた法以外に、更に高い法と形態を我々は公開しておらず、公開することも許されません。功の一面では、私はすでにその図形を描き出しましたが、まだほかにその法の一面があり、功の一面はすなわちこの形式なのです。我々の学習者は将来正果を得て、果位を成就した後、自分で法輪を修煉し作り出すことができるようになり、一つだけ修煉し作り出すことができます。あなたはかなり高い次元に至ってもただ一つの法輪しか持つことができず、それはあなた自身の体現であり、それは私があなたに植えつけたその法輪に替わり、下腹部に位置し、それはあなたの真正の果実です。しかしながら法輪はまた法の体現であり、彼は分身できます。あなたが神通を使えば、彼は分身できます。あなたも幾つかの法輪を放つこともできますが、私が今日修めたそのような形式のそれほど多くの独立体になることはありえません。

皆さんが知っているように、このものはそれほど大きく、それほど貴重で、幾代もの方が作り出したものです。あなたは一つの修煉の過程で私が修めたこれほど大きなものを修めて出そうと思っても、それは不可能であり、絶対不可能なことです。皆さんは一つの法輪を修めて出すことができます。それは問題がありません。この法輪は威力がとて大きいので、もしこの空間に持って来ることができれば、法輪が動くと、それは大変なことになります。それはすごい威力があります。あなたが将来、修めて出したその法輪でも、この空間で回ると、一陣の巨大な竜巻が吹くようになるでしょう。その威力が非常に大きいのです。なぜ法輪を常人社会で顕現させないのですか？なぜこの空間に透過して作用をするようにさせないのですか？その威力は本当に大きすぎるからです。法輪は別の空間で作用をしても十分にあなたを保護することができます、非常に大きな作用をしています。

弟子：法輪は宇宙の縮図であり、法輪世界は宇宙と同じ大きさですか？

師：そうではありません。法輪世界は我々のこの宇宙の非常に高い次元にある一つの

単元世界です。宇宙は相当歴大なのです。新しい学習者が在席しているから、一部のことは話しにくいのです。彼らは受け入れられません。我々のこの歴大な宇宙の中には、無数の小宇宙があります。人類は一つの小宇宙の中に存在しています。しかしこれらの小宇宙の中には無数の銀河系があります。如来の次元の佛は一つの小宇宙を見てもその果てが見えません。大宇宙はどれほど大きいのか、過去には人類に知られてはいけないうことであり、それは途轍もなく歴大なのです。人が修煉する過程で、身体は外へ拡大することができ、つまり身体の容量が増大し、身体の容量は次第に大きくなり、心も広くなり、思想は昇華し、次元は向上していきます。常人のこちらにある身体はこのような変化が見られず、常人と同じです。圓滿の時になったら、体が一体になります。合体したその一瞬、あなたが常人の中でその法力を体験する暇がないうちに、すぐ連れて行かれます。それは常人に対する妨害があまりにも大きいからです。皆このようにします。私がよく話したように、修道者は深山の中で長期に修煉して、人々は彼らの能力が非常に大きいとっていますが、実は彼らの能力は非常に小さいので、はじめて彼らに世間で神通を開放することを許したのです。しかし、現在人に示す者も非常に少なくなりました。彼らも常人社会を破壊してはならず、さもなければ自分自身もだめになることを知っています。

弟子：講習会に参加したことがなくても法輪を修めて出せますか？

師：この問題について私は何回も話したことがあります。本を読んでも同じです。本当に大法に従って修めさえすれば、あなたは一人で最も僻地に住んでいても、それも問題はありません。私の本の中には私の法身があり、一字一字は浅い次元から見ればすべて法輪ほど大きなもので、あなたが何かを考えれば、彼はすべて察知できます。同様に、本当に修煉さえすれば必ず得られます。自分で本を読んで煉っても、煉功場に行って古い学習者と一緒に煉っても、どちらでも結構です。本当に修めさえすれば必ず得られます。皆さんが知っているように、釈迦牟尼は世を去ってからすでに二千年あまり経ちましたが、末法の時期になる前に修煉して成就した僧侶はたくさんいましたし、かなり高い次元まで修めた人もいます。先生の傍で、親授を受けなければ修煉できないというわけではありません。

弟子：この空間にある私が修めて法輪世界に行ったら、別の空間にある多くの私も、同様に修めて法輪世界に行けますか？

師：そうとはかぎりません。もし彼らがよく修めたら、あなたと一体になり、あなたの護法として存在できますが、あなたが主導し、彼は護法として副元神と似ています。

もし彼がよく修めなければ、彼も独立した生命体なので、彼はだめになります。あなたが修めたらあなたしか得られず、修める人しか得られないのです。

弟子：法輪大法は漸悟なのですが、我々はいつ漸悟の状態に入りますか？

師：我々の多くの学習者はすでに漸悟状態に入っています。多くの学習者はよく修めています、声を上げず話さず、それは彼らが言わないだけです。私はハルビンで講習会を開いたときにこう話しました。四千あまりの人がここに座っていますが、どれだけの人が修めて成就できるのか、将来どれだけの人が道を得られるのか、私はまだ楽観しておらず、皆さんが如何に修めるかにかかっているのです。四千あまりの人が一度に佛になり、四千あまりの人が全員漸悟状態に入るとするのは、それは不可能なことです。煉功場に来て法輪大法を煉る人の中に、どれぐらいの人が漸悟状態に入ったのか？ 本当に堅実に修めているのか？ 異なる漸悟状態に入りますが、あなたが漸悟状態に入ったら、すぐ神通が大いに現れるということではありません。

ここでついでに一つの問題を話します。我々の多くの人はずでに漸悟状態に入っていますが、彼はいつも恐れています。何を恐れているのですか？ 現在人類社会の執着心はあまりにも大きいので、この方面については私が強く強調しており、機能が出たとしてもそれにかまわずに、天目が開いたとしても追求してはいけないと言いました。しかし皆さんに教えますが、あなたの天目が本当に開いたら、あなたに追求する心がなければ、見てもかまいません。あなたの神通が出たら、人のいないところで運用してみても問題はありません。この一点について皆さんにはっきり言いますが、それを執着心と見なさないでください。あなた自身の法であり、あなたは自分自身の法を運用してみても、これは執着心と違うのです。現在すでに漸悟状態に入った人がいますが、彼は自ら恐れており、いつも緊張していますが、使わなくてもいけません。多くの方は天目が開きましたが、彼はいつも幻覚だと思っており、これではいけません。開いたら、見られるなら見ても結構で、かまいません。執着と体験とは違うことです。

弟子：現在三花聚頂に達した人はいますか？ 正果を得た人はいますか？

師：現在多くの方はすでに三花聚頂を超えています、圓滿に達した人は今はまだいません。皆果位の中で修めており、異なる次元の果位の中で修めているのです。

弟子：我々が今から一生懸命に煉功して心性を修めるなら、一年半の時間の中で出世

間法修煉に達することができますか？

師：時間の制限はなく、修めるか修めないかはあなた個人の問題です。どれくらいの高さまで修められるか、忍耐力がどれくらいあるか、耐える力はどれくらいあるか、すべてあなた個人の問題です。先生の指定した時間内に修めて抜け出ると言っていますが、あなたの心性はそこまで達することができますか？ 心性は昇華して上がれますか？ 法に対する認識はそれほどの高さまで達することができますか？ あなたは常人の中での執着心を放下できますか？ 個人の利益の前で、人と争い闘うことにおいてあなたは放下できますか？ これらはすべて個人が修める問題であり、あなたに決めてあげる人はいないし、時間の制限もありません。羅漢果位まで速やかに修めて上がる人がいれば、一生かかって修める人もいます。すべてあなた自身の忍耐力、自分に対する要求の厳しさによります。これはすべて個人の問題です。

弟子：我々は自分自身を守れるところまで修めた後、まだ上を目指して修めたければ、どうすればよいのでしょうか？

師：先ほど私はすでに話しました。釈迦牟尼はすでに世にいなくなりましたが、彼の弟子はまだ上へ修めることができます。仮に先生が本当に世にいなくなっても、私の法身がまだいるでしょう。私は本当に消えたわけでもないし、形神全滅になったわけでもありません。

弟子：難を逃れるために煉功する人がいますが、彼らの結末はどうなりますか？

師：いかなる求める心を抱いて煉功に来て、すべて正果を得ることはできません。しかし、人の法に対する認識においては、認識の過程を与えるべきです。多くの煉功者は病気を治療するために入って来たのですが、ある認識の過程を通してはじめて高次元のものがあることを知りました。我々は今日高次元において法を伝えており、講習会に参加したばかりの人はまだどういうことかが分からず、突然高次元へ修煉する功を伝えているのを聞き、我々の説法を聞いているうちに、彼は徐々に認識できたのです。このような過程の存在を許すべきで、これは確かに必要なのです。彼は病気を治療するための心、難を逃れるための心、どんな心を抱いて入ってきたにしても、その心を放下してから、はじめて修煉の目的に達することができます。病気治療や健康維持の目的に達するためであっても、彼が難を逃れる考えを抱いて来たのなら、それもいけません。

難は自分自身が作ったもので、生々世々で自分がやった良くない事によって作った借りであり、返さなければいけないのです。あなたが修煉の過程の中で嘗めた苦は自分で作った業力によって現れた関ですが、それは良いことでもあります。我々はそれを利用して、あなたの心性を向上させます。それは良いことではありませんか？ 修めて佛になることもできれば魔になることもできます。それはこの道理なのです。業力の存在があって、迷いの中ではじめてあなたに修煉させることができます。

弟子：他の空間の多くの私は肉身という次元の空間に存在しているのですか？

師：そうではありません。我々に見えない他の次元の空間に存在しています。同等の次元の空間においては、我々人類はこの身体を持っているほかに、もう一つの空間にも人の身体があります。その空間にある人は我々こちらの人よりずっと強いのです。彼らには名と利がありませんが、情があります。ですから、彼も色身を帯びています。形象は我々とほぼ同じですが、我々よりも少し美しいのです。彼らの身体は漂うことができます。彼らは歩かないので、足はほとんど見えません。あちこち漂うのです。このような空間があります。これは同等次元の空間です。

私は皆さんにもう少し空間の問題を説明します。我々の現在の科学者は研究して、電子が原子核を巡って回転しているのを発見しました。その運行はわれわれの地球が太陽を巡って回転するのと似ているのではありませんか？ それは同じことではありませんか？ 我々は今その電子の上になんがあるか見えるような顕微鏡を持っておらず、もしあなたが見えるなら、あなたはその上に生命体があるのを発見できるかもしれません。私が話したように、これらのことはすべて我々の今日の物理学の認識に符合していますが、しかし我々の現在の科学手段はやはり極めて限られているのです。

弟子：多くの学習者は周囲の環境、病気、黒い気に極めて敏感であり、これはどういうわけですか？

師：この部分の学習者は皆功が出る状態に近づいており、まだ気を煉る低いレベルから抜け出せていません。気を煉る最高形式において、すでに乳白体状態に入った時にこのような体現があるはずですが、しかしそれは非常に短い過程であり、気にする必要がなく、恐れる必要もありません。自然に任せればよいのです。あなたが過剰に恐れるなら、それも一種の執着心です。気にしないで、すべてを必然と見做して、自然に任せてよいのです。この次元を通り過ぎたら、あなたはもう感じられなくなります。功が出たらあなたの身体は功に覆われるようになります。これらの黒い気、病気はあ

なたの身体に侵入することができなくなるので、感じなくなります。

弟子：一部の学習者は心性が絶えず向上していますが、座禅する時に結跏趺坐ができず、無理やりに重い物で押さえたり、縄でくくりつけたりしていいですか？

師：私の知っているところでは、昔一部の和尚は座禅の時、石ローラーや石臼で押さえることができました。石ローラーを使うにしても、石臼を使うにしても、すべて自分の意志であり、彼は人に頼んでしてもらうのです。しかし道士は違います。道家は弟子を一人か二人しか取らず、しかもその中の一人しか真伝が得られません。弟子に対する要求はとても厳しく、度々弟子を叩くこともあります。耐えられるかどうかにも関わらず、何としてもあなたに乗り越えさせます。そのため、彼は一般的に強引な方法で、弟子の足を縛りつけ、両手を背後に縛って、自身で縄を解すことができず、身体を横にしても解すことができず、痛くて気絶する者もいます。昔このようにする人がおり、その時の修煉は非常に苦しかったのです。

我々は今日このように要求しません。なぜなら我々のこの一門は人心を真っ直ぐ指して修めるからです。ですから、我々は人の心性の向上を最も重要なことと見做しているのです。形体上の修煉は第二のものだと見做しています。あなたはできるだけ耐えて足を組む時間を延ばすべきです。しかし厳しく規定してはいけません。なぜでしょうか？ 皆さんも知っているように、釈迦牟尼の時代には戒律がありましたが、釈迦牟尼在世中には経書は無く、如何なる文字も残っていません。釈迦牟尼が世を去ってから、後人が釈迦牟尼の言った言葉を思い出してそれを整理して経書としたのです。釈迦牟尼は在世中にたくさんの修煉の規定を制定して、これを戒律として文字で残しています。しかし我々には今日法があり、戒律はありません。修めるかどうか、修めることができるかどうか、基準に達しているかどうかは、皆法によって量られるのです。ですから我々は修煉するには厳しい規定を定めてはなりません。皆さん考えてみてください、末劫時期になって、根本からだめになり、済度の範囲に含まれず、消滅されるべき人がいます。講習会を開いた時、このような人が講習会に入った可能性があり、無理矢理連れて来られたかもしれません。あなたが彼にそのようにさせれば、骨折するかもしれません。ですから我々は厳しく規定しません。自発的な方法を探り、あなたが耐えられるなら、できるだけ耐えてください。しかし、皆さんに教えますが、本当に修めたければ、真に法の威力を感じた人は皆修めることができ、あなたは頑張ってみてもかまいません。問題はないはずですよ。

弟子：宇宙には果てがありますか？

師：宇宙には果てがあるのです。しかしこれらのことを探求しないでください。この果てはあまりにも大きく、如来の次元において指している宇宙の果ては皆小宇宙の果てです。この小宇宙でも、人類は言うまでもなく、如来佛でさえ見ても際限がなく、計り知れないのです。それはとてもとても歴大なのです。

弟子：『文芸の窓』の中には一匹のうわばみが李洪志先生のために道案内をしていたと書かれていますが、それは本当のことですか？

師：これは『文芸の窓』が文芸作品の角度に立って創作したものです。その学習者は二回授業を聴きましたが、深く理解できませんでした。一回目の授業を聞いた後、彼はすでに書き始めました。彼は非常に感動して、この法は非常に素晴らしいと思って、書き始めたのです。二回目の授業を聞く時、彼は何かを書こうと思いながら聞いたのです。皆さんが知っているように、静かな心で聞いてはじめて会得することができます。彼はやはりよく会得できなかったので、我々が見たこの文芸作品の形式に書き上げてしまいました。文中の一部の事は芸術的に加工されたものであり、そのうわばみの事は存在していません。観音菩薩は私の師父だと書いていますが、それも存在しない芸術加工です。しかし、彼の目的は良いので、この法を広めたいだけで、動機は良いので、この点は肯定しなければなりません。彼の理解は限りがあるため、このような作品を書いてしまいました。文芸作品なので、彼は元々文芸の角度に立って書いたのです。小説なので誇張してもよいし、伸縮性もかなり大きくあります。それを我々の学習の指導の材料としなければ結構です。その中で書いた五戒、十悪十善の内容はすべて原始佛教のもので、我々は戒を講ぜず、修めるか修めないかの基準は我々がすでに法の中で説明しました。

弟子：「玄法至極」と「旋法至虚」との区別は何ですか？

師：玄法至極とは、我々が言ったのは一つの概括的な名詞です。これは法を伝える初期の理解の問題です。この「玄」ではなく、回転の旋であるべきです。我々の法は元々圓融の法であり、ですからそれは回転しているのです。法輪はすなわち輪のような表現形式です。旋法至虚は、間違いがなく、かなり高い境地に達することができ、極点に達するという意味です。旋法至虚は、我々修煉過程の中の一つの名詞であり、我々のこの功の中の呪訣でもあります。

皆さんが知っているように、その呪訣は覚者、あるいはこの一法門の中で修煉する

覚者、あるいはこの一法門の中で成就した覚者を招いてあなたのために護法となり、あなたを加持するという作用を果たすことができます。宗教の中でも呪文はやはりこのような作用を果たしています。呪訣を唱えれば功が伸びるという言い方がありますが、それは全く不可能なことです。それはただ以上のような作用を果たすことしかできません。至虚とは、とても高い次元に至ることを指すのです。人々の見えない境地は虚界と呼ばれますが、それはこの意味でしょう。道教の中にはこの名詞がよく見られますが、太極がまだ形成される前に太虚と呼ばれていました。つまりそれはとても高くとても原始的なのです。

弟子：座禅の時、時間を延ばすために、繰り返し口訣を唱え、千回以上唱えると、法輪を変形してしまうことがありますか？

師：口訣を唱えると良い作用があります。千回以上唱えても法輪を変形させることはありません。もちろんあなたが功を開き悟りを開いた後に分かるようになりますが、かなり高い次元に達したら、口訣を唱えてはいけません。あなたが唱えればその震動はあまりにも大きいので、あなたがずっと唱えると、ゴーンゴーンという震動で人につらい感じを与えてしまいます。

弟子：ある学習者は煉功してから、頭が割れそうになったのですが、なぜでしょうか？

師：「割れた」なら正しいです。我々は頂を開くことを講じるので、「割れた」ことは正しいのです。割れる時「パツ」として、あまり大きな感覚のない人もいれば、割れる時ゆっくりで、とても辛い人もいます。しかし物事は二つの方面から見なければなりません。執着心を放下せず、良くないものを招いてきて捨てたくない人がおり、煉功の時に法はそれを除去するので、それはあなたに頭痛を起こさせ、あなたに正法を修めさせないために、このような状況が現れる場合もあります。肝心なのはあなたが修められるかどうか、法によって量り、それらのものを放棄できるかどうかのことで

弟子：ある人は煉功すると頭に冷汗が出て、ショック状態のようになりますが、どうすべきでしょうか？

師：この現象はありうることです。我々の講習会でこのような人もおり、どこの講習会でもいます。なぜでしょうか？ 身体を浄化して病を除く時、皆強い反応があります。しかし煉功場ではこんなに猛烈な反応はないはずで

かれるからです。もしこの人がかなり良いのなら、これは正常なことだと思います。もしこの人が自分を厳しく要求せず、でたらめにやり、この功を練ったり、あの功を練ったりして、安定せず、心性が高くないという場合には、問題になるかもしれません。彼を暫く休ませ、他の功を練ったことがあるか、あるいは何か誤った事をしたかどうかを確かめてみましょう。その反応の勢いが過ぎてから再び練ってみましょう。現在煉功に来た人が皆真に修煉する人だと保証できないからです。

弟子：ツボ按摩をするのはいいですか？

師：我々はツボ按摩などをやりません。世間法修煉段階で人のために病気を治療してはならず、このようなやり方はありません。真に修める人には病がなく、私の法身がすべて取り除いて、やるべきことは全部してあげました。ツボ按摩などは必要ありません。修煉者の業力は按摩で消去できるものですか？ あなたが他人に按摩をするなら功を帯びるはずであり、我々はこのようなことを薦めません。もし医者であれば問題はありません。それは常人の中の職業だからです。

弟子：人の副意識は人の一生に伴いますが、彼はどのような作用をしていますか？

師：人の副意識は主に人が無意識の状態下で悪い事をしないようにするのです。人の主意識がとても強い時、彼は左右することができません。

弟子：私は坐禅する時、かなり長い時間座れる時もあれば、十分間しか座れない時もあります。どうしてでしょうか？

師：それは正常な現象です。足を組むことも業を滅することであり、その心志を苦しめ、その筋骨を勞せしめることです。如何に筋骨を勞せしめるのか？ それは即ち煉功時間を増やして、足を組むときの苦痛に耐えることで、主にこの二つの方面に現れます。その筋骨を勞せしめること自体は業を滅して向上する過程です。足を組むことは業を滅することではありませんか？ しかしこの業を一気に足に押し付けることではありません。それは一塊一塊のようなもので、一塊がやって来たら、痛みが強くなり、消去されたら、楽になります。足を組むときに往々にして暫らく辛くても楽になり、また辛くなります。皆このようなのです。あなたがこの塊の業を消去したら、その時は長い時間組むことができます。しかし業がやってきた時、あなたは足を組むとすぐ辛くなるかもしれません。しかしあなたが耐えられれば、足を組む時間は以前と同じぐらいの時間組むことができます。ただ痛くて辛いだけです。

弟子：飲酒は煉功者が煉り出した生命体を体から離れさせることができますか？

師：そうです。喫煙も同じことを起こします。そのようなものにくすぶられると、それはあなたの身体から離れます。その時何もかもなくなり、他人から見ればあなたの身体に功はなくなっています。以前にも話しましたが、真に修煉したいと思うのなら、これぐらいの執着心すらも放下できないのですか？ 修煉を児戯としてはいけません。これは極めて厳粛な問題です。我々は人類が何か大きな厄介なことに遭い、命を守るために修めることを言いませんが、我々はこの事を言わず、これを以て一種の動力としてあなたを押し進めて修煉させることもしません。我々が言っているのは、本当に修煉すればあなた個人の永遠の問題を解決できるのではありませんか？

佛教の中では六道輪廻を説いていますが、その説によれば、人は常人类社会の中で時間はかなり長く感じますが、しかし時間が更に長い空間から見れば、人類の時間はかなり速く進むのです。二人の人がそこで会話をしている時、振り返って見るとあなたが生まれ、また二言三言話しているうちに振り返って見たら、あなたはすでに寿命を終えて亡くなっています。人はなぜ人体を持っているこの段階で修煉に励み、人体が保たれるように努力しないのですか？ 佛教の言うところによると、六道輪廻に入れば、あなたがどんなものに転生するかも分かりません。動物に生まれ変わったら、何百年か何千年経ってからはじめて再び人身を得られます。もし石に生まれ変わったら、その石が風化しなければ、あなたは出られず、万年たっても出られません。動物には修煉をさせません。しかしそのもの自身は先天の条件を備えて修めることができます。これは自然環境によりもたらされたのです。しかしそれには高い功が出ることは許されません。高い功が出れば、それは即ち魔になるのです。それは人の本性を備えていないからです。そういうわけでそれを殺さなければなりません。動物が高く修めたら殺さなければならず、雷もそれを撃ちます。それはなぜ憑依しようとするのですか？ それは人体を得ようとしており、人体を得てから正々堂々と修めることができるようになります。以前はこのようでしたが、それは人体を得てから修煉を許されますが、現在では人体を得たとしても許されません。あなたが修めよう、法を得ようとするれば、頭を白紙の状態にして常人の中に来て得なければできません。現在これはすでに変えてはならない規定になっています。覚めたままで常人の中に来てはいけません。頭を白紙状態にして悟りながら修めることしかできません。何でも分かれば、誰でも修めに行くのではありませんか？ 佛も次元を高めるために、常人の中に来て苦を嘗めたいのですが、それでも頭を白紙状態にしなければなりません。覚めたままで何でも見え、何でも分かるならば修めない人がいるのでしょうか？ それでは向上の問題が存

在しなくなるのです。この意味は修煉はとても厳粛なことで、如何なる執着も修煉に影響すると皆さんに教えているのです。

弟子：更年期が過ぎた高齢の女性は、生理がなくても、修められますか？

師：更年期を過ぎた高齢の女性は、生理がなければ、修煉の進み具合が遅いかもかもしれません。一部の高齢の女性は確かに緊張感を持つべきです。彼女たちの一部の人は急がなければなりません。急ぐようにと言われたら、一生懸命に動作を煉るようになりますが、心性を修めることが最も重要だと知るべきです。希にこの方面で少し遅れる人がいますが、正常な進み具合なら皆生理が来るはずです。

弟子：学習者はどこかに痛みがあり、頭痛、腹痛……なぜでしょうか？

師：煉功中のさまざまな反応も正常なことです。業を消去するには辛くないはずがありません。病を取り除くのも辛いのです。一部の学習者には功が出る頃、この功はあなたの身体に付いており、機能は万種以上にもとどまりません。一つ一つの功はすべてエネルギーがかなり大きく、密度がとても高く、威力がとても強い高エネルギー物質です。それはあなたの身体の中でちょっと動いてもあなたは辛く感じるはずですが、しかも異なる形態の功、異なる形態の機能、異なる形態の術類のものが、あなたの身体の中に現れて、それが動くときあなたは辛く感じるはずですが、あなたがそれを病気と思えば、またどうやって修煉するのでしょうか？ あなたが本当に法に基づいて修めれば、それはすべて正常なことだとあなたには分かるはずですが。

以前ある人は身体に憑き物が憑いていました。ある気功師は彼に、あなたの身体にはうわばみがついていると教えました。彼はそれでいつもうわばみがついていると感じます。私は彼に今もういなくなったと教えました。彼はそれを信じず、まだ身体の中で動き回っていると思っています。そうすると、憑き物があるとあなたが思うと、そのうわばみが憑いていたときの状態が彼の身体に現れてきました。彼のその心を取り除かれるまで、この状態は変わりません。それはあなたのその心を取り除くためなのです。もしそれが一種の執着を形成してしまえば、取り除き難くなります。その人はかなり長い時間がかかってやっと取り除きました。

弟子：如何に機能に対応しますか？ 例えば天目で何らかの物や光が見えたら、それを見るほうがよいのか、それとも見ないほうがよいのでしょうか？

師：見えるなら見てもいいのです。煉功の時に静かに観察すれば、これは執着ではありません。

弟子：一部の学習者は天目が開いていくつかの景色を見ましたが、輔導員は機能がなく見えません。

師：見えるか見えないかは異なる人が異なる次元で修煉して達した漸悟状態によるものです。漸悟に達したとしても、あなたの功が高いから高く開き、彼の功が低いから低く開くとは限りません。それは違います。天目の次元の高さは人の功の次元の高さを決めることはできません。自身の要素、条件、多方面の原因によりあなたがはっきりと見えるかどうか、あるいは見ることができるかが決められており、これは多方面の原因により決められたことです。それは人の修煉が良いか悪いかを意味しているわけではありません。必ずこの点に注意してください。私は天目が開いたので、私は他の人より功が高いというのは、誤った認識です。

我々の長春ではこのような人が現れたのではありませんか？ 彼は天目が開いたので、自分が誰よりも高いと思いました。この人の身体には憑き物があり、あの人には何かがあると言いつらして、すべて彼自身が想像したものです。我々の煉功場ででたらめに行ない、最後に彼は誰に対しても不満を覚え、私よりも高いと言うようになりました。ですから、我々は天目が開いたかどうかで誰がどれくらい高い次元にまで修めたかを量ってはいけません。正常な状況下では相応した状態が現れてくるのです。我々の中に特別良い人はいますが、まだ彼に見せておらず、相当高くまで修煉してからはじめて彼に見せるのです。ですからこれをもって良し悪しを量らないでください。

今後、皆さんは私を見かけても、見かけなくてもよく、先ほどの質問で、先生がいなくなったら我々はどうすればよいのですか、と聞きました。釈迦牟尼が当時在世中に、師尊、あなたがいなくなったら、誰を師としますか、と聞いた人もいました。釈迦牟尼は戒を師とするといいました。我々は法を師とします。心性の高さを以て修煉の良し悪しを量る基準にすべきであり、機能の多さを基準にしてはいけません。さもなければ皆機能を追求するようになるのではありませんか？ 機能はあなたの修煉の過程の中に付随して現れたものです。世間法で修煉して現れた機能は皆人の本能です。それは人の思想が複雑になるにつれて、次第に退化しました。

あなたの修煉につれて、それが自然に現れてきます。あなたが返本帰真して、元へ戻る時、はじめて人の本性が戻ってきます。彼にいくらはっきり見えたにしても、私

の見た次元を見ることはできません。彼にいくらはっきり見えたとしても、宇宙の最高の真理まではまだまだ遥かに遠いのです。彼に見えたのはただその次元の体現であり、それを真理としてはいけません。人が修煉の過程の中で、ある次元のことを評価の基準にするのは正しくないのです。「法には定法なし」とは、即ちこの道理です。ある次元の体現を真理としてはいけません。法には定法はなく、ある次元の法はその次元でしか作用しません。ですから、彼はある次元のもの、その次元の状態を見て、かなりはっきり見えたなら歓喜心が生じてしまいますが、しかしそれはとても浅い次元のものであり、くれぐれもこのことを覚えておいてください。

弟子：子供が修煉する際、五式の功法は必ずやらなければならないのですか？

師：子供の場合は多く煉功できれば多くてもよく、少ししか出来なくてもそれでよいのです。修煉の主要な目的は人の心性を高めることです。ですから、子供に対して心性に関することを多く教えてあげれば、子供に対して良いでしょう。私は年齢がとても小さい時、全然外形のものを煉ることができず、主として心性を修めたのです。今日の一部の子供を、普通の子供として扱わないでください。一部の子供はたいへん素晴らしいのです。当初我々がこの事をやると決めた時、すでにかなり高い次元の人がついて来ました。私が来た時、各次元の中からもついて来た人がおり、彼らは私が間もなくやろうとすることを予測できました。特に最近この時期になって、我々のこの小宇宙と銀河系の中からやって来た人がかなり多くいます。少し前は、彼らは予測できなかったのですが、私が出山の直前になって、彼らは知り、どんなことが起きるのかが見えたので、たくさん付いてきました。何のために来るのでしょうか？ 法を得るために来たのです。彼は以前の法がすでに崩壊したことが分かり、あらためて修煉するためにやって来ました。彼らを一般の人と見なさないでください。彼らはかなり素晴らしいのです。しかし誰の子供もこういうことではなく、一部分の子供はかなり素晴らしいのです。

弟子：自分がどの次元まで煉ったかを、どうすれば知ることができますか？

師：我々の一部の学習者はすでに漸悟の状態に達しており、また一部の学習者は次第に漸悟の状態に達するようになります。達しても、達していなくても、あるいははっきり見えても、はっきり見えなくても、煉功場で煉功した後、互いに切磋する時、みんなに話してもかまいません。あなたが顕示心を持たずに話せば、我々全体の修煉に有益なのです。天目でものが見えても話してはならず、話したら天目は閉じられてしまうと言う人がいます。これは昔の煉功ではすでに普遍的に認識されたことですが、

彼が話したから天目がなくなるというわけではありません。皆さん考えてみてください。気功を普及するあの時期に煉功者の中に徳を特に重んじる人がいたのでしょうか？ 本当に修煉する人は極めて少なく、彼は徳を重んじることを知らないのです、何かが見えたらすぐ話してしまい、自分の執着から、顕示心が現れるので、当然ながら天目が閉じられてしまったのです。

また一部の人は言うべきことや言うべきではないことをすべて話してしまい、そのため彼の天目は閉じられてしまいました。これがその原因です。もし法に対する認識を高めるために、互いに交流するならば、私に言わせれば、それは何の問題もありません。この点についてはっきり区別しなければなりません。もし彼の天目が閉じられ、傷つけられたら、それは彼が常人に言うべきでないことを言ってしまい、あるいは顕示心を帯びていたからです。煉功者の顕示心は執着心の体現ではありませんか？ ですから閉じなければいけません。当初一部の人の天目が閉じられた時、彼に機会を与えているのです。彼がはっきり見えたり、はっきり見えなかったりする時、見えたり、ときに見えなかったりする時は、つまり彼に注意しているのです。しかしそれらの人はどうしても悟れず、最後に完全に閉じられてしまいました。傷つけられた人もおり、ひどく傷つけられてしまったのです。

弟子：正果を得ることと圓滿は、どの次元ですか？

師：この問題に関して私はすでに話しました。正果を得るということは、羅漢果位に到達したらもう正果を得たのです。圓滿とは修煉が終ることです。通常では正果を得るとともに功を開いたことを指し、すなわちこの二つのことを同時に修煉し終わると圓滿なのです。

弟子：その後如何に修煉しますか？ 常人とどう違いますか？

師：まだ常人の中で常人と同じように苦に耐えなければなりません。あなたが羅漢果位を得たとしても、常人の中の何でもない子供があなたを罵っても、あなたが常人の中で修煉しているので、引き続きあなたの心を取り除かなければなりません。一部の人は、根基がよい人は、彼の心はすでにかなり取り除かれましたが、再びあなたにもう一度繰り返させるのです。一般の修煉、正常な修煉では、一通りで圓滿になりますが、一部の人には二度繰り返させます。あなたが高いところへ修めようとするならば、三度繰り返させて、すべて修めて乗り越えましたが、もう一度あなたに繰り返して修めさせます。もっと高いところへ修めようとするなら、この問題が現れるはずで、あなた

やはり常人の中で修めなければなりません。もしあなたが羅漢果位を成就したら、あなたに迷惑をかける人はおらず、常人の中で誰もがあなたに迷惑をかけず、あなたがこの環境を離れるならどのように修めるのでしょうか！もしあなたに迷惑をかける人が常人ではなく、常人の中で佛や、菩薩、羅漢らが現れて、あなたにトラブルを作ってあなたの執着心を取り除くということは、それはありえないのです。師父があなたにこれらの事を作り、これらの事を按排し、すべての難を按排するにしても、やはり常人を利用して行なったり、常人を使ってあなたを妨害したりして、常人の環境の中で向上させます。

弟子：一部の学習者は講習会に参加してから、また他の功法に参加しましたが、まだ引き続いて法輪大法を修煉しようと思ったらどうすればいいのでしょうか？

師：このような人は往々にして悟性があまり良くありません。我々は修煉は縁に従うと言いました。人は得ようと思うから、彼は法輪大法を学びました。彼に学びに来させる人はいません。彼は法輪大法が良くないと思うようになり、学ばなくなりました。彼は後でまた法輪大法がいいと思って、また学びに来たくなり、それならあなたが学べるなら学びに来てよいのです。うまく修められるかどうかは彼個人の問題です。我々の法輪大法に入って真に修める弟子になれるかどうかに関しては、われわれは彼に厳粛に言わなければなりません。つまりあなたがわれわれのところで修めるなら、それ一つだけを修煉し、法輪大法に専念して修めなければなりません。さもなければあなたは何も得られません。ここで専一でなく、むやみに練るなら何もなりません。我々は善意で彼に言えばよいのです。しかし、あなたが我々のところで煉功してはいけいけいと言っているはいけません。我々には何の権力もなく、人に命令する資格はありません。人に勧めることしかできず、善を勧め、善を勧めるのです。

弟子：各地で講習会を行なう状況や全国での法輪大法の情勢はいかがでしょう？

師：現在法輪大法の講習会を行なうことは、とりあえず全部断っています。断った理由は私が今処理する必要なことが沢山あり、各方面の事も処理しなければならないからです。これからどうするかに関しては、現在はまだ考えていません。処理し終わってから、処理した状況により決定します。法輪大法の発展状況を言うと、私は皆さんに教えますが、現在我々の法輪大法は人から人へと伝わり、法輪大法を学ぶ学習者の人数はすでに相当多くなり、私に言わせれば数十万人もいるでしょう。私が各都市に行き講習会を開く時、当地の各市、県から来た人もおり、人の来ていない県は殆どありません。彼らは帰った後、あちこちに行き伝え、このように伝わっているのを、

発展はすでに非常に速くなっており、人数は非常に多くなりました。湖北省のある県の町では、最初学ぶ人は二人しかいなかったのですが、現在千人以上に発展しました。このような事例はたくさんあります。煉功場に行って煉功する人がいれば、煉功場に行かないで煉功している人もおり、具体的な数字はとてもつかみにくいのです。

弟子：かつて精神病や癲癇を患った人は煉功できますか？

師：私は皆さんに注意しておきますが、このような人をわれわれの煉功場あるいは我々の講習会に連れて来ないでください。もしかすると、我々の法を破壊することになりかねません。もし講習会であるいは我々の煉功場で彼に発作が起きたら、人々から法輪大法を煉ったから病気になったと言われてしまいます。そうなれば、あなたは我々の法を破壊したのではありませんか？ なぜなら、我々には一つの前提があり、人のために病気を治療してはいけないからです。ただし我々には一つの条件があり、本当の修煉者に対しては、小さな病気なら、即時に解決することができます。大きい病気にかかった人、身体にあまりにも多くの良くないものを帯びている人は、自分の考え方を変えてからはじめて、取り除くことができ、修煉したいと決心してからはじめて彼のために業を取り除くことができるのです。もちろん、一部の人はまだ修煉する意思がないうちに、すでに処理してあげました。本を読み始めたとき、すでに処理しました。なぜでしょうか？ 彼の根基がとてもよく、彼は元々得るべきだからです。このことは皆一律に見てはいけません。家族の中にこのような病人がいて、大法が良いと思うなら、彼に学ばせてもよいのですが、彼に家で学ばせたらよいのです。我々は先に明言しておきますが、私が勝手にこれらの常人の問題を解決してはいけません。彼が修められるどうか、彼自身によるほかありません。修められないなら、あなたも彼に修めさせないでください。一旦問題が現れたら大法を破壊してしまうことになり、私がこれらの常人の問題を解決してあげてもいいのですか？ 私は治療してあげないから、彼はあちらこちらで扇動して、法輪大法を煉って精神病にかかって、先生は治療してくれないと言いつらして、私に泥を塗ります。いずれにせよ、我々はすでにはっきり言いましたが、彼を講習会に入れず、煉功場にも来させません。癲癇の人なら一般的に問題はありません。講習会で我々は癲癇の人は講習会に参加してはいけないと明確に言ったことはありません。一般的に我々の係員は彼に入ってほしくありません。彼が考え方を変えていないうちは、発症しやすいからです。発症すれば我々に影響をもたらします。癲癇の人は精神病の人と違い、彼は単一の問題であり、ただ頭の中に一つのものがあるだけです。その良くないものを取り出されたら良くなります。一般ではこのような状況です。

弟子：全体の向上についてどのように理解しますか？

師：全体の向上とは、つまり完全無欠の向上ということです。我々の修煉過程の中で、あなたの身体のあらゆる生命体とあなたが修煉してできた生命体は皆あなたと一緒に向上します。われわれは全体の調整を講じますが、全体的に皆さんのために、学習者のために身体を調整します。全体の向上は主にあなたの心性が上がってきたら、あなたの功も同時に上がってくることを指しています。先ほど話したことと同じです。ある人は、なぜ生理が来ないのかと聞きましたが、あなたの心性が上がってきたら、功も上がってくるのです。業力のあまりにも大きい人は身体を調整しても、一部分がついて上がることができず、遅れる可能性もあります。つまり全体的に向上しなければならず、その先決条件としてはまず心性が向上しなければなりません。ただ身体を変えたいとか、劫難から逃れたいと思うなら、それはいけません。修煉で自分自身を変えようとするれば、心性を修めることから始めなければなりません。次元の高さを決める功がなければ、つまりあなたの心性の高さが変らなければ、何を話しても無意味なことです。

弟子：一部の学習者から提出した問題ですが、魔の大法に対する妨害について如何に対処すべきでしょうか？

師：皆さんに教えますが、我々の正法を伝えることにもし反対する人がなければ、それこそおかしいことです！ 皆さん考えてみてください、私が今日もしこの事をやらなければ、私は一番楽です。私が皆さんのためにこの事をしているから、私が遭った妨害とあなたたちが遭った妨害が、皆この法を阻害し、人に法を得させないのです。人があと一步というところに至ると、法を得ようとするれば、魔は許さず、あなたを阻害しようとしています。その魔は、あなたは私に借りがあり、私がまだあなたに返してもらっているのに、あなたが法を得たら、私に返すべき借りはどうするのかと考えています。その魔はあなたを恨むのです！ 各方面の要素はみな阻害の作用をしています。はっきり言えば、すべては自分でもたらしたことであり、人はみな業力があります。昔、イエスは、人間よ！ 汝には罪があると言いました。彼が人間には罪があると言ったのは、業を罪と称したからです。実際はこうなのです。自分が良くない事をしたので業力をもたらしました。それは罪ではありませんか？ それは各方面に阻害の作用をします。あなたが正法を得たので、もちろんあなたを妨害します。つまりこの原因です。ですから、われわれが遭ったこれらの事はすべてわれわれの心性に対する試練です。法輪大法を学んだら如何に良くないとか、あるいはあれやこれやのことを言う人もいますが、それもあなたが固い意志を持っているかどうか、本質か

らこの法を認識できるかどうかを試しているのです。あなたがまだ本質からこの法を認識していないならば、あなたはどうか修めるのですか？ あなたが悟りを開く前に、法に対して固く信じていることができるかどうかという観念がずっと存在しており、どの門派においても同じです。本質的なものにおいてあなたがまだ固い信念を持っていないければ、それではあなたは何かを修めるのでしょうか？ ですからこの方面の試練と妨害があります。

私が講習会を開く時、必ずたくさん別の気功講習会も同時に始まります。私がもしそこで講習会を開かなければ、そんなに多くありませんが、私が講習会を開くと、一気に多くの邪な気功も集まって来て講習会を開きます。なぜでしょうか？ つまりあなたがこの事をやろうとすれば、それと相応して魔の妨害もやってきます。即ちこのように按排されているのです。どの門に入るのか、正法を得るのかそれとも邪法を得るのかはあなた次第です。あなたがどの門に入りたいのか、あなたが決めることです。言われたように、人が修めることは非常に難しいことであり、しかもこうであるべきなのです。非常に難しいのも当たり前のことです。なぜなら、我々の一切はすべて自分をもたらしたからです。しかしこの難の中から人の心性、悟りが現れます。向上できるかどうかは、さまざまな方面の原因により、相補って成し遂げられます。弁証法的にこれらの事を見るべきであり、ですから彼にはこれらの妨害があるはずで

我々の長春にこのような人がいました。彼は、私は佛だ、あなたは他の人に従って学ばなくてもよい、私はどうのこうのと言いました。各方面の妨害、甚だしきに至っては私の個人の名誉に対する破壊もありうるのです。あなたがそれを受け入れるかどうか、信じるかどうか、どのように対処するかを見るのです。それはさまざまな手段を使って破壊しに来るはずであり、あなたの心を動揺させるためです。あなたが揺るぎなく信じるかどうかを見るのです。

ある人は私が一心に正法を修め、あれこれのことに動揺しないと申しました。実際は、我々の多くの学習者はすでに法の威力を体験し、自らの変化もかなり大きく、私の説いたこの道理も分かっています。それでも、彼がまだ動揺するなら、それは悟性の問題ではありませんか、悟性は確かに非常に低いのです。つまりこういう道理です。ですからこれらの妨害は、私に言わせればそれも正常なのです。修煉はまさに荒波は砂を洗うように、砂をすべてふるい落とししたあと、残ったものこそ真の黄金です。どれぐらい黄金が残るか、それは皆さんが如何に修めるかによるのです。

弟子：法輪大法の宣伝資料を多く作って、煉功場で宣伝するために使っては如何でし

ようか？

師：我々の法輪大法の宣伝、功を伝える方法は、すべて現在の気功の宣伝方法と違うのです。皆さんが知っているように、我々は何らかの事を誇張したこともなく、何かの事を持ち出して見せびらかしたこともありません。如何なるこのようなこともありません。他の気功師はもし一人の病人を治したら、彼はあちこちにこれを宣伝し、ずっと聞く人がなくなるまで宣伝をやめないのです。我々にはこのような事はありません。我々の学習者は何千、何万人もおり、彼らは皆病気がなくなりましたが、我々はこれを宣伝したこともなく、これらの事をわざわざ持ち出すこともありません。もちろん、初期のころ、皆さんは新聞で何らかの情報を見たことがあります。なぜでしょうか？ 初期のころ、我々が通常の気功の形式で伝え出したので、最初からこんなに高いことを説いたら、人々は受け入れられないのです。ですから我々もこのような初歩的なものから次第に人々に認識させる過程を歩みました。皆さんも知っているように、我々が初期に長春で講習会を開催した時、私が説いたものもかなり高かったのですが、しかし、いつも気功を口にしていました。我々は今日、高次元へと功を伝えるので、これらのことはもう言わなくなりました。これも人々に次第に認識させる一つの過程なのです。

弟子：自動車工場は十万以上の従業者がいる企業なので、うまく展開できなければどうしましょうか？

師：我々のこの法輪大法は、自動車工場において本来比較的うまく展開していました。皆さんはそれらの魔を知っているでしょう。それらの妨害はかなりすごいのです。それはつまり魔なのです。しかし我々はすでに話しましたが、これらの事は皆相補って成り立つものです。どれくらいの人々が修められるのか、どれくらいの人々が修められないのか、それは個人によることです。妨害がないと言うならそれはどうして可能なのでしょうか。妨害をする人がないと言うなら、それではあなたの修煉はあまりにも易しすぎるのではありませんか？！ 大道がこんなに平坦で、上へと修めるのに、いかなる難もないのなら、これは修煉ではありません。そうではありませんか？ 魔難があってはじめて人は修めることができるかどうかを見分けられます。はじめて人の各種の執着心を取り除くことができます。しかしこの魔は確かに非常に大きいのです。それは相当大きな破壊作用を果たし、たくさんの人を台無しにしました。果たした作用はすでに一般の魔の作用を超えました。これらの事はかなり高い次元においても知られており、高級生命も皆知っています。どう処理しますか？ これらのことに関しては私の同意が必要になります。私は人に一度機会を残したいのですが、今見たとこ

ろではこの機会はまだ残してはいけません。将来自動車工場では大法を学ぶ人がきっと多くなっていくはずですよ。

弟子：一部の学習者は講習会に参加しようとしていますが、ずっと参加できていません。朝晩の煉功場の学習者はどうしたらいいのでしょうか？

師：一部の学習者は講習会に参加しようとしていますが、私のこの講習会はずっと行なっている、また十年続けていてもまだ参加しようとする人がいるはずですよ。我々には多くの古い学習者がおり、さらに私の本や録音テープと録画テープがあり、すべて法を伝播し、人を済度し教化する作用を果たすことができます。実は、皆さんはすでに主力の作用を果たしています。特にこの期間において、あなたはきっと一人の主力です。私が直接伝えなくても得ることができます。そうではありませんか？ こうである以上、皆さんがこの方面の仕事ができるだけ多く担当すべきだと思います。他の人を助けて、特に学ぶために煉功場に来た人に対して、輔導員は更に責任を負うべきだと思います。あなたの責任は小さくなく、簡単に人に呼びかけるようなことだと見なしてはいけません。できるだけ多く法を会得し、多く法を学び、より多くのものを習得すべきです。

私は一つの問題点を特別に強調したいと思います。つまり我々の煉功場で、望ましくない反応が出たり、変な状態が現れたり、気違いのようになりたりする人は、必ず他の功を練ったり、他に追求しているものを放棄していないのです。これは間違いのないことです。絶対に間違いのないことです。このような人は百パーセント他のものを練っており、あるいは家で他のものを祀っており、放棄していないのです。これは一つの場合です。もう一つは法輪が変形した問題です。これも他の功法を混ぜて練って、あるいは意識の中で混ぜたことによって起こった問題です。この二つの場合は、私は皆さんに教えますが、間違いなくこのような原因によって起こった問題です。この二つの場合だけは普通私の法身がかまうことはありません。彼は他の功を練り、混ぜて練るので、我々法輪大法の人ではありません。私の法身は彼にかまわず、法も彼に与えません。それらのでたらめな魔は彼が法輪大法を煉り始めたことを見れば、もちろん彼を妨害し、危害を加えるのです。彼は気違いになって、法輪大法を破壊しかねません。このような問題が現れることがあります。このような人もいます。彼は一心に法輪大法を修煉していますが、意念の中あるいは動作の中ではいつも何かを感じてみたい、何か他のものを加えてみたいと思っています。以前他の功を練っていた時に少し感覚がありましたが、今回法輪大法を煉ったら、そのような感覚はなくなりました。彼はまだそのような感覚を求めています。これは執着するものを追求してい

るのではありませんか。彼が以前のものを加えると、法輪は変形してしまい、法に問題が現れます。絶対にこういう状況です。

弟子：人生の本当の意義はより楽に生きるためですか？

師：次のような考え方を持っている人もいます。つまり私は何のために修めて佛に成就するのかと言っています。これは佛に対する認識が非常に乏しいことを物語っています。何のために佛を修めるのかと言っています。笑い話ではありません。彼は確かに知らないのです。何のために佛を修めるのですか？ 一つには永遠に人身を保つことができるようになります。二つには永遠に苦しまず、永遠に美しく生きていくことができます。人の一生は非常に短いのですが、人身が保たれることはその一面ですが、その他には彼は苦しまないのです。あなたの生命が生じた所はかなり高い宇宙空間にあります。宇宙空間から来たのですから、本性は善良なのです。自分が悪いほうに変わってしまったから、一步一步ここに落ちてきて、壊滅されるのを待つばかりです。それはこのような過程です。何のために元に戻るのでしょうか？ 本当はあなたが生じたところは高層空間の中にあるので、それこそ最も美しいところで、あなたのいるべきところですよ。

大覚者の言葉で言えば、人はまるで泥沼に落ちているようで、皆ここで泥水をかきまぜているのです。しかし人が来たとき皆このようであり、まだ悪くないと思っています。人は皆とても良いと思っています。泥水の中でかきまぜているのに、まだ気持ちが良く、悪くないと思っています。我々は一つ例を挙げますが、人を罵ることはありません。例えばあの豚は、豚小屋の中で寝ていて、糞尿の泥の中におり、その境地での感覚では、それは悪くないと思っています。人が常人の境地の中にあり、彼が一旦昇華して上がってきて、振り返って見れば、とても耐えられることはありません。つまりこういう道理です。人は常人の中で泥をかきまぜており、いたる所でとても汚いと言われていますが、つまりこういう意味です。この汚い環境の中で彼は自分が他人より少しきれいだと思って自慢していますが、実際は泥だらけの身体を泥水で洗っただけに過ぎず、私に言わせればさほどの違いはないのです。

弟子：人生の本当の意味はよく修煉して、佛になることですか？

師：佛になることではなく、返本帰真なのです。よく修煉して元に戻る事が、本当の意味です。高級生命の立場から見ればこうなのです。しかしあなたが常人の中に行くと常人の中の学校の先生に聞けば、彼はこのようにあなたに教えるはずはありませ

ん。なぜなら常人は常人の中の事情をあまりにも重く見ており、彼にはそれらの宇宙の真相が見えないからです。人類は現在西方から伝来したこれらの知識を詰め込まれてあまりにも絶対化しており、かえって人はますます物質化してしまいました。現有の理論を用いて一切を量り、人類はこの常人の中にますますひどく陥っています。

弟子：夢の中であちこちトイレを捜して、やっと一カ所を見つけましたが、目覚めたらすでに漏れていましたか？

師：皆さんに一つの例を挙げましょう。武当山は真武つまり玄武、道家でいう玄武大帝の修煉の場です。武当山での玄武の修煉物語を読んだことがあります。それは彼の修煉の過程を語っています。その中の一節に彼のことをこう書いています。彼が長年修煉して、四十年あまりの歳月で、すでにかなり高い次元にまで修煉できました。ある日夢の中で、夢幻の中で魔が彼を妨害しに来て、美女に化けて、全裸になりました。彼がふらふらしている時自制できず、情を起こしました。その後、彼は非常に悔しくて、とても後悔しました。彼は自分の修煉はまだ見込みがあるのか？こんなに長年修めてきたのに何にもならず、自分の心を律することもできず、もう駄目だと思い、自棄になって山から下りてきました。下りていく途中に、おばあさんが針を磨いているのを見かけ、鉄棒を針にしようと磨いていたのです。当時、古代の人は皆この方法で針を磨いていたかもしれません。

彼は、おや、あなたはなぜこんなに太い鉄棒を磨いて針にするのですか、とおばあさんに聞きました。おばあさんは時間を長くかけて磨けば必ず針になると彼に教えました。真武は心から感動しました。このおばあさんは針を磨く時に碗の中に水を入れていました。水は一杯になって溢れているのに、まだその中に入れてあります。彼はおばあさんに、水が溢れているよと言いました。彼女は満ちたら自然に溢れると言いました。実は彼女は彼に暗示しているのです。一人の人が修煉の過程の中で、それをあまり重く見ないようにという意味を彼に教えたのです。一回うまくできなくても、次回はきつとうまくできます。人体には皆このような本能があるので、満ちたらそれが漏れるのです。彼女は彼にこの意味を示したのです。この話の中に一つの物語を語りましたが、あまりまとまっておらず、あまり適切ではないようです。しかし皆さんに教えますが、この事はその通りかもしれません。先ほど質問を提出した人のことは、このようなことかもしれません。

弟子：站樁あるいは座禅をするたびに、煉功状態に入ると、すぐ煉りたくなくなりませんが、やめたらまた後悔するのですが？

師：それは自分の心から生じた魔の妨害です。常人の心には魔（思想業力の妨害）が生じることがあるのです。なぜでしょうか？ あなたの心の中、思想の中に生じたそれらの良くない思想物質は皆抵抗の作用をするのです。あなたがよく修煉できたら、このような悪い物質は消滅されてしまいます。ですから、それは承知せず、あなたに煉らせないのです。なぜあなたは煉功する時いつも動揺するのですか？ 思想の中で、煉るのをやめよう、こんなに苦しいと思うからでしょう。あなたに教えますが、その思想には原因があるのです。外からの魔の妨害がないとしても自身からの魔の妨害があるはずで、それらの良くない物質による作用です。如何なる物質も他の空間においては皆霊体です。

私はこのような話をしたことがあるのではありませんか。あなたがよく修煉できたらそれが消滅されてしまいます。それを消滅してはじめてあなたはよく修めることができ、はじめてその悪い考えを取り除くことができます。座禅の時入静できない人がいます。雑念がずっと湧いてきます。それはあなたにそれらの物質が存在しているからです。それも生きています。それはあなたの思想の中で以前生じたものであり、妨害の作用をしています。あなたがよく修煉できたら、それは消滅され、消滅されればされるほど少なくなり、最後には全部消滅されます。それではそれが承知しますか？ あなたが修煉すれば、それは妨害します。

思想の中で師父を罵り、我々の大法を罵る人もいます。しかし必ずはっきり分らなければなりません。それはあなた自身の主意識が罵るのではなく、思想業という悪い物質があなたの思想に反映して生じたのです。一旦この問題が現れたら、すぐそれを抑えなければなりません！ 主意識は必ず強くならなければいけません。修煉を邪魔する意識が現れたら、すぐ排除します。こうすれば、私の法身はあなたの思想がしっかりして動揺しないのを見れば、あなたを助けてそれらの大部分を消去します。ですからあなたはこのような体験があるはずで、

弟子：修煉の次元はすでに決まっていますが、大法無辺なので、もっと高い大佛に修めて成就できるということは本人が達した次元を指しているのですか？ 例えば羅漢に達してから再び願を立ててあらためて修めることもあるのでしょうか？

師：一人の人は羅漢果位まで修めて、羅漢果位で圓滿することを定められていましたが、それはだめで、私はまだ高いところまで修めたいと思うなら、あなたに本当にその能力があれば、あなたは再び願を立てて、もっと高いところへ修めることができる

のです。昔このような人がいましたが、非常に希です。なぜあまり見られないのでしょうか？ 人に修煉の道を按排する時、按排したその次元はすでに彼自身の状況に基づいて按排したので、各種物質の多少は自分の耐える能力によって決められているからです。ですから一般的に大きな違いはないはずです。しかし特別にいい人も希にいます。彼の持っている一部のものは隠れており、一定の次元では見えないのです。修煉が一定の次元に達すると、その師父はもう自分の力で導くことができなくなったと見て、自ら去っていきます。それからまた別の人が来て導きます。このような状況もあるのです。更に高い次元へ導くことは、自分が言う必要はなく、彼が自らあなたを更に高い次元へ導くこととなります。

弟子：ある日の夢の中で李先生の夢を見ました。先生は、あなたの状況はちょっと特殊だと言われました。その意味は、私はどこかの方面において駄目であるかも知れないということのようです。その後、李先生は私のために身体を調整されて、私は下腹部、足の裏にサーっとした流れを感じました……。

師：これはとても簡単なことです。これはあなたが修められないということではなく、あなたが修める過程でまだ他の要因があることを意味しています。これは一般的に法身が解決できます。この状態は夢ではなく、確実に接触したのです。あなたは昼間に定力が足りなくて、定の中で見えないので、夢の中で見ました。それはかまわないのです。夢の中で私と接触することは正常なことです。

弟子：よりよく修煉するために、日常の生活の中で真、善、忍を心の中で念じるのはよろしいですか？

師：日常生活の中で真、善、忍を心の中で念じるのは、問題ありません。これは構いません。煉功の時には念を動じさせないようにしてください。

弟子：「長春夕刊」の報道によると、今年の夏チベットである人が経を講じ、大小の二百あまりの活佛が参加しました。どのようにこの事を見ますか？

師：和尚も、ラマ僧も人間です。彼らが何かをやりたいならやればいいのです。彼らがやった事は佛がやったのではなく、佛がやらせたのでもありません。常人はこれらのことを重く見えています。修煉者ははっきりと分かるべきです。経を講じることと同じで、修行者の一種の宗教活動にすぎません。そのうえ、末法時期には講じられることはもう何もないのです。その他にもう一つの問題に触れますが、皆さんが知ってい

るように、和尚にしても、ラマ僧にしても、国家の政治、法令に干渉してはならず、常人の中の事に干渉してもいけません。そのようなデモを行ったり、独立運動を行ったり、皆さん考えてみてください、修煉者としてこれをすべきでしょうか？ これは常人の執着心ではありませんか？ 常人のことをあまりにも重く見すぎたのではありませんか？ これらのことは、修煉者の取り除くべき執着心ではありませんか？ 私は我々法輪大法のところは浄土だと言いました。これは間違いのないことです。われわれは学習者に対する心性の要求が非常に高いのです。我々は学習者に心性の修煉を重んじることを要求しています。英雄や模範人物は、常人の中の英雄や模範人物にすぎず、我々の要求では、あなたが常人を超えて、完全に個人の利益を放棄し、すべて他人のためにするのです。その大覚者は何のためにするのですか？ 彼はすべて他人のためです。ですから、私の学習者に対する要求はかなり高く、学習者の向上も非常に速いのです。

一つの例を挙げて説明しましょう。私が先ほど言ったこの話は決して行き過ぎではありません。全国各地の各業種でどんな大型の会議を開く時にも、落とし物を捜すのは非常に難しいのです。もちろん希に良い人もいますが、それは非常に少ないのです。われわれ法輪大法の講習会では落とし物は全部見つかります。どこの講習会でも同じです。何千人もいる講習会で、毎回の講習会で拾った腕時計や、金のネックレス、指輪、お金、多いものから少ないものまで、さまざまな金額、千元以上のもあり、拾ったらすぐ届けてくれます。私が会場で放送したら、落とした人が取りに来ます。このようなことは、雷鋒を見習うあの年代に見たことがあります。学習者も最近では長年見たことはなかったと話しています。講習会が終わってから学習者は皆自ら心性を要求し、他人と社会に責任を持ち、厳しく自分を律することができます。私が言ったわれわれのところは浄土であるということは正しいのではないのでしょうか？

弟子：ある学習者は何かの自然の功の本をめくってみました。本の中で自分の功を賞賛し他人を批判して、法輪大法を貶す内容があります。この学習者は二頁めくった後、本の中にこの功の動物の影が動いているのが見えたので、入静に影響したのでしょうか？

師：我々はずでに言いました。これらのものを読んではいけません。あなたは何のためにそれを読むのですか！ 真剣に修煉する弟子はこれらの偽もの、邪なものを全部焼却したのに、あなたはまだそれをめくり、この差はあまりにも大きいのではないのでしょうか？ あなたは求める心を抱いてそれを見ていたのではありませんか？ でたらめなものを見ないでください。本当の功法は、公に伝えておらず、これらのこと

に関わらないのです。気功を普及する気功師は、やるべき事をすでにやり終えたのです。現在、今日この功が現れ、明日にはあの功が現れても、それらの気功は、ほとんど偽物です。外で、正法を伝えることを妨害したり破壊したりしているのです。

ことの分かる気功師は、皆伝えなくなりました。今でも伝えているのなら、法を妨害するのではありませんか？ やるべき事をやり終えて、大きな功績を立てました。今も更に伝えるならば、妨害になります。ですから金銭のため、売名のため、利益のための偽気功師はすべて魔です。彼自身が自分は魔であることを知らないのです。われわれは講習会で絶対に言わなかったのですが、主に一部の人が受け入れられないことを配慮していました。実は、ほとんど魔が妨害しているのです。

弟子：学習者が入静して煉功する時、いつも邪な考えが現れますが？

師：そうです。これも私が先ほど言ったことで、以前自分が良くないことをした時に生じた各種の考えが物質として存在しており、これらの物質が作用しているからです。あなたがそこに座って煉功する時それらの良くない考えは、人を罵りたくなったり、悪い事をやりたがったりして、あなたを操って考えさせます。つまり以前思想の中に生じた悪い物質がまだ作用しているのです。先生を罵る場合もあります。あなたは心配しないでください。あなたはできるだけそれを抑制し、排斥すれば、それは消滅されるはずです。必ずこのような良くない考え方を排斥してください。一旦現われたら心配しないで、それはあなたが先生を罵りたいのではなく、思想業力があなたの大脳に反映しているのです。

弟子：学習者が入静して煉功する時、いつもある功にはイタチの憑依があると他人に言う学習者がいます。夜この学習者が夢を見たら、彼に香を焚くように教えた人がいましたか？

師：今後これらの話は直接別のでたらめな功を練る人に言うべきではありません。われわれの一部の学習者はとても仲のよい友達がいて、彼が練っているのがその憑依した功であれば、あなたは彼に説明しても構いませんが、できるだけ側面から話しましょう。あなたが多くの見知らぬ、しかも憑依した功を修練する人のところに行きその功が良くないと言ったら、もちろん彼らはあなたを攻撃し、一緒に非難し、場合によっては聞きづらい言葉を言うかもしれません。われわれはこれらの厄介な事を避けるべきです。われわれは善を勧めるように話します。彼が認識できればいいのですが、われわれはできるだけこれらの事を避けるべきです。本当にその功の門に入ってしまった

って、その中から出ようと思わない人は、すでに邪道に入ったので、彼の本性はすでに迷ってしまい、少なくとも悟性が駄目になったのです。改めることができればもちろんいいのですが、改めようとしなければ、無理に勧めてもだめです。要するにやり方に少し注意すべきであり、これらの事に注意すればいいのです。邪なものはあなたを傷つけることはできません。

弟子：カレンダーを複製する人が原価で学習者に譲っており、一銭も儲けないのなら宜しいですか？

師：これらの事を私はこう考えているのです。たとえこの学習者が非常に良く、皆のためにこの事を行い、原則的には背くこともありませんが、しかしその中には金銭のやり取りの問題があります。たとえ原価でも金銭に関わっています。私の考えではできるだけこれらの事を避けて、金銭に触れないでください。なぜなら、あなたが金銭に触れているうちに、時間が長くなると心の中でバランスが取れなくなる可能性があるからです。いつもこれらの事をやっていたら、次のような考えが生じるかもしれません。つまり私はこのままでは採算がとれないとか、私の交通費はこの中から捻出すべきではないかとか、他に少し損失があったので算入すべきではないかと考えてしまいます。これによって人の各種の心を助長することになります。段々とこの事に対して把握できなくなるので、くれぐれもこれらの事に注意しなければなりません。

なぜ皆さんにお金に触れさせないのか、皆さん知っていますか？ 釈迦牟尼は二千年五百年前、人にお金と物に触れさせないようにするために、皆を連れて深山に入って修煉していました。ただ一つの托鉢用の碗しか持っていませんでしたが、この托鉢用の碗に関しても一度法を説き、托鉢用の碗に対しても執着してはいけないと注意しました。これらのことは適切に処理できなければ強く人を妨害し、人の修煉に影響するので、くれぐれもこのような事に注意しなければなりません。イエスもその年代に人々を連れてどこかに着いたら、そこで食べ物をもらって、お金に触れさせなかったのではありませんか？ 私はこの事に言及しましたので、この例を挙げました。あなたたちはまだ深く理解できないかもしれません。私は必ず正しく歩まなければなりません。私もあなたにこのようにさせてはいけません。長い歳月が経ってから、人々が李洪志の時期にこうした人がいたと言うなら、それではこの法はまだ伝えることができるのでしょうか？ とっくに駄目になってしまい、時間が長く経たないうちに駄目になってしまいます。写真がほしい人がいますが、ほしいなら、あなたは自分で複写して自分で現像すればいいのです。しかしできるだけ学習者の範囲に限定した方がよいのです。将来これらのものは、われわれは社会で公開して発行するかもしれません。私の

カレンダーまでも出版物の統一番号がつけられたのです。将来われわれは統一的にこれらのことを管理して、くれぐれも自分で勝手にやらないでください。適切に処理できなければ大法を傷つけることになりかねません。

どのように販売するのでしょうか、それは原価で販売してもいけません。くれぐれもこのような心が動いてはいけません。何の役にも立ちません。自分が修煉して向上し、他人を助けるなら、必ずしもこのような形式を採る必要はありません。皆に法を知らせ、皆に少しでも法を伝えれば何よりもいいのです。人の心性の向上は外形のものよりずっと重要です。これらのことは統一して法輪功研究会が管理します。総站、分站、輔導站は皆お金に触れてはいけません。われわれの法輪功研究会はどんなことをするにも皆私の同意を経てから彼らは始めてやるのです。いろんな名目でも無断で行なってはいけません。それは権利を侵すことであり、社会の法律も許さないことです。

弟子：ある人はしっかり心性を修めようと思っていますが、日常生活の中で彼の心に触れることがなく、試練のような夢を見たこともありません。先生は彼を見守っていないのかと本人が心配していますが？

師：そうではありません。一人一人が各自に持っているものとその本人の状態は皆同じではありません。彼の持っているものは複雑なものであるかもしれません。皆さんに一つの例を挙げましょう。これはある特定の人を指しているものではありません。僅かな人はわりと高い次元からやって来たので、彼は苦を嘗める必要はなく、彼はこの法に同化しに来たのです。同化し終わったら彼の修煉はそれで終わったのです。僅かな人、極めて少ない一部分の人はこのような人です。ただし、あなたの言ったこの状況ではないかもしれません。私はただこのような状況があるということだけを言っています。たくさんの人にはさまざまな要素が存在しているかもしれません。あなたが苦を嘗めるか嘗めないかにかかわらず、この法に同化し、この法を学ぶことこそ極めて重要なのです。

弟子：少なくない学習者が夢の中で見た師父が教えた功は五式の功法の中のものではありませんが、どうすればいいのでしょうか？

師：五式の功法の中の動作でなければ、それは魔があなたに教えたので、皆偽りのもので、絶対私にあなたに教えたものではありません。今日皆さんに伝えたのはただこの五式の功法だけで、これらの功法で十分にあなたの身体を変え、あらゆる術類と有形

のものを煉り出すことができます。真にあなたの次元の高低を決定するその功は、煉り出すものではありません。それはすでに足りています。夢の中での練功は、頭の中で気付いたらやめてください。練るならこれは心性がまだあまり堅実ではありません、もし堅実であるなら念が動くとすぐ気が付くべきです。

弟子：圓滿にならないうちにこの世から去って行った人はどうなりますか？

師：圓滿にまで修めることができず、圓滿に達していなくても、彼はその果位にいて、果位を得たら、すでに成就したのです。しかし世間法から出ていないのなら、それは確かに問題があります。世間法から出ていない場合、三界内において異なる次元の空間に彼の行くところがあります。彼はある次元まで修めたらその次元に行けるので、それも得るべきものを得たのです。もし、彼がそれではいけません、私はよく修めなかったが、願を立てて来世も続けて修めたいと思うなら、それでは彼は来世にまた修煉の状態の中に入って、また続けて修めるように安排することができます。しかし一つの注意すべきことは、把握できなければ非常に危険です。またよく修める事ができなければ、やはり下へ落ち、元より悪くなる可能性があります。もしよく修めたら、元より良くなります。つまりこのような関係が存在しているのです。

弟子：心性を修煉する過程で、いつも自分がやり間違えることを恐れて、いつも法により量っていますが、やはり何かにぶつかります。これでよろしいですか？

師：やることをすべて心配していますが、そんなに執着しなくてもよいと思います。この関係は非常に対応しにくいのです。考えすぎれば執着になりますが、考えが足りなかったら、間違った事をやってしまう心配もあります。そんなに頭を緊張させる必要はないと私は思います。われわれは何かをする時に、一般の事ならやれば良いか悪いかはすぐ分かるはずですが、あなたにはこの事が終わったらまたあの事が出てくるような、そんなに多くのことがあるはずはありません。常人の中の事は考えなくてもそれは良いことか悪いことか分かるはずだと私は思います。突然に現れた事なら、それは良いことか悪いことかを考える必要があります。いつもそんなふうに考え、どんなことをしてもそんなふうに考え、些細なことでも考えてしまうことは、私に言わせればそれは心が執着しすぎたのです。正々堂々と修煉して、大事に着目すべきです。もちろん修煉の過程の中で、自分が認識できなかった事をやり間違えてよく把握できないなら、それはあなたがまだそこまで修煉していないからだとは私は思います。一部の事はあなたがまだ認識できない場合、それほど執着してはならず、この心を取り除くべき時が来たら、自然に認識できるようになるはずですが。

弟子：性命双修の功法であれば元嬰と重なり合うのです。これは正しいですか？

師：つまり性命双修をすれば、改変した本体と修煉してできた元嬰は、その時になると全部あなたの元神と合体して一体になるのです。

弟子：肉を食べることは業力が生じますか？

師：肉を食べることそのものは業力がなく、殺生の概念も存在しません。肉を食べるそのものは執着心ではなく、肉を食べることは肉の美味しさに対する人の執着心を助長するのです。

弟子：一人一人の身体に持っている徳は限りがあり、修められる功の高さが定められています。功を開き悟りを開いた後、まだ徳を積んで向上することができますか？

師：徳は限りがあるので、功を開き悟りを開いた後は絶対に向上できないのです。功を開いた後、この人は何でも見えて、何でも接触でき、何でも分かるようになるので、もう悟性は存在しません。何でも分かっただけで苦しみに耐えて高く修めることができるなら、それでは修めない人はいないでしょう。佛さえも更に上へ目指して修めるはず。なぜ彼の修煉は非常に遅くなるのでしょうか、つまり彼はもう殆ど苦しみを嘗めることはないからです。彼は特殊な貢献ができた時だけ、ほんの少しだけ向上できます。この中にはこのような関係があります。徳が足りないと言うのなら、徳が足りなければまだ業力があります。苦しみを嘗めれば、業力を転化できるので、徳に転化できます。もし本当に続けて修める事ができれば、自分はまだ修められる、まだ修めたいと思えば、親戚や友人の業力を取って来て、あなたが消去してあげれば、それも徳に変わります。しかしこれは非常に難しいことです。これは人の心性、心の容量に相応して成り立つことです。その一歩になると、すでに満杯になり、もう入れられなくなります。このような状態が現れます。更に苦しみを嘗めると、容量が足りないことによってその人は悪く変わり、落ちてしまい、修煉が無駄になってしまうかもしれません。

弟子：釈迦牟尼はすでに功を開きましたが、なぜ四十九年間法を伝えてからはじめて如来に達したのですか？

師：非常に高い次元から来た人は、如来を何倍も超えていて、彼が修めるなら、功を開いてから、四十九年も必要とせず、その半分の過程あるいはもっと短い過程を歩め

ばかなり高い境地に達することができます。これは彼の根基と関係があり、彼のいる次元とも直接関係があり、彼が前世にいた次元とかなり大きく関係しています。一人一人状況が異なります。

弟子：釈迦牟尼は四十九年間で如来の次元に達したのですが、誰が彼に功を演化してあげたのですか？ 彼は頓悟に属しますか、それとも漸悟に属しますか？

師：彼は頓悟に属するのです。彼は人を済度しに来たので、修煉に来たのではありません。誰が彼に功を演化してあげたのでしょうか、誰も彼に功を演化してあげませんでした。下りて来てこのような事をする人はすべて、下りる前に、多くの大覚者と共にこの事を討論して、自分が参与して自分の今後やる事を決めます。決めておいてから、計画通りに歩み、何時になったら功を開き、何時になったら圓滿になり、何時になったら終了するなどは、すべて決められていたのです。彼はわれわれの言っている功を開き、悟りを開くようなことではありません。あなたはあまり理解できないかもしれませんが、つまり彼は一度に自分の記憶を開いて、以前の自分が修煉したものを思い出しました。彼はそれを持ち出して人に伝えたのです。釈迦牟尼が当時伝えた法、宗教の法、佛教の法は高くないと私は言いましたが、これは釈迦牟尼が高くないということではありません。釈迦牟尼は自分のものを全部伝えてはいません。彼は二千五百年前に原始社会から抜け出たばかりの人に対して伝えたので、それは彼の法のすべてではありません。

弟子：座禅する時だけ功を演化するのですか？ それとも心性が向上すると同時に演化しますか？

師：座禅中、煉功中、苦しみの中、難を受ける中で、すべて功が演化し、心性が向上する過程で次元の高さの功が伸びているのです。

弟子：観世音は佛になったと言う人がいますが？

師：人の言ったでたらめなことを信じてはいけません。皆さんに言いますが、末法の時期に至った人類社会は、覚者たちは皆手を引いて関わらなくなり、彼らに関わることも許されなくなりました。手を引いて人類社会に関わらなくなっただけでなく、末劫の中で彼らの境遇もかなり困難になり、自分のことさえ手に余っているのです。これらのことによって、彼らのいる次元でも問題が現れました。私は皆さんに以前このことを話したことがあります。現在他人のことを構う人はもういないと言いま

た。これは大げさに言っているのではありません。皆さんに教えますが、これらのことは紛れもないことです。あなたが佛を拝むにしても、各種の宗教の像を拝むにしても、その上には何もありません。ごく希に一つの影がそこに存在しているかもしれませんが、しかし彼は話ができるほか、もう何もできなくなりました。今は末劫になり、この時期になったらこのようになるのです。

現在人々が認識した観音菩薩は即ち数年前人々が拝んでいた観音菩薩です。彼女の功は実際如来佛より、阿弥陀佛よりも少し高いので、大菩薩自身は佛でもあります。しかし、彼女はまだ如来の境地に達していません。ところが彼女が持っている功の中には如来を超えるものもあります。彼女が修めたのは菩薩であり、彼女は彼女のことを行なっており、この中にはたくさんの高くて深い道理があり、これ以上もう話してはいけないのです。これらは人類に知らせるべきではないからです。これはわれわれが想像したようなことではなく、常人のような上下階級の関係でもなく、まったく違うことです。

弟子：法輪世界の羅漢や菩薩は他の世界の佛よりも高いと言う人がいますが、本当にそうですか？

師：これはそう言えます。一部の世界の佛が他の世界の佛より高いという言い方は、正しいのです。次元は佛の世界での位置を決めているからです。如来の次元にいる佛は、もしたくさんの佛の果位に達した人を導いているなら、これらの人にもやはり高さの違いが存在しているのです。法輪世界のすべてにこのような現象が存在しています。法輪世界の羅漢、菩薩は他の世界の佛よりも高いと言いますが、確かに法輪世界の次元は非常に高いのです。われわれが今日伝えた法はとても大きく、法輪世界の中に限って伝えたものではありません。私が人に知らせるべきものは法輪世界ですが、法輪世界を超えたものは人に知らせてはならず、人に知らせることは許されないからです。多くの人はずでに感じましたが、この法はこれほど大きいものです。それほど多くの大覚者もこの法に同化するためにやってきており、これは一般の法ではなく、とても高くまで修煉者を導くことができます。これは間違いのないことです。すべての修煉者はみな法輪世界に限られるということではなく、これも間違いのないことです。釈迦牟尼、阿弥陀佛も彼の入門の中で修煉する人はみな彼のところに行き、あるいは別のどこかに行くと言ったことはありません。彼の範囲を超えたら、別のところに行くかもしれません。

弟子：羅漢に達した時の功の高さには基準があるのですか？ 初果羅漢は心性と功の

高さにより決められたのですか？

師：羅漢の次元は異なる佛の世界で確定された不変の基準です。学習者の心性の高さは彼の功の演化形式と同じなのです。すべてこの一步に達しなければならず、全部高エネルギー物質によって取り替えられ、それに相応して成り立つのです。これらのごとについて私はかなり重く強調しました。これらの問題について輔導員は皆説明できるはずですよ。世間法を出てからの修煉は佛体修煉ではありませんか？ 出世間法修煉なら、あなたはすでに佛体であり、佛体は高エネルギー物質に完全に取り替えられた身体です。世間法を出て浄白体になったら、それはすでに全身が高エネルギー物質に取り替えられた透明体ではありませんか？ 更に前へ修めれば、それはもう佛体になったのではありませんか、つまり初果羅漢に入ったのです。こういうことです。

弟子：身体の中にできた生命体、例えば龍などは六道輪廻の中にありますか？

師：六道輪廻の中にも幾らかの生物があり、六道輪廻以外にも動物の存在があり、より高い次元の中にもあります。それは一般的に修めて上がったのではなく、その自然環境の中で生じたのです。高次元において修煉する人の身体に生じた龍などの生命体は当然あなたのもので、あなたの圓滿に従って高い次元に行くことになるのです。

弟子：身体の中に出来た生命体は修煉する法門によって決められているのですか？ 修道者はもし専一にすることができれば、佛を修めることができますか？

師：これは決まった規定がなく、あなたは佛を修めていましたが、その後また道を修めることになっても、それでも構いません。ただその一門の師父は最初、あなたを手放さないのです。どうしても戻らないなら、彼もあなたに構わなくなります。あなたが確固たる意志でそれを修めることに決めたら、彼もあなたに関わらなくなります。もし二股をかけて修めるなら、それはいけません。どの法門の師父もあなたに構わず、これは心性の問題であり、二つの法門を破壊する問題です。

弟子：邪道を修めるように決められているものがありますか？

師：います。専ら末法の時期に出て法を破壊するものがあり、さまざまな形式を用いるものがあります。公に法輪大法を攻撃し、私を攻撃するものがあり、われわれの学習者は皆これを識別できます。このような魔は恐ろしくなく、偽気功も恐ろしくなく、われわれの学習者は識別できます。現在皆さんは少なくとも冷静にそれは本物かそれ

とも偽物かを考えることができ、分かっていたら、以前のように盲目的に学びに行かなくなるのです。

最も識別しにくいのは、次のような魔であり、その破壊力はかなり大きいのです。それも法輪大法を学びに来て、法輪大法は素晴らしいと言い、他人よりも感動的に語り、感じ方も他人より強く、また何らかの形象が見えました。それから彼は突然死んでしまい、あるいは突然反対の道に走り、こうして法輪大法を破壊するのです。このような人は最も識別されにくく、識別されにくいから破壊力は最も大きいのです。その破壊形式はこのように安排されたので、彼がこのようにすることは決められているのです。彼は影響が大きい方法を選んで破壊を行ないます。私が先ほど言った破壊力が大きな魔はこの類に属するのです。

弟子：地藏菩薩は佛に成就できますか？

師：大菩薩はすでに佛と称することができます。大菩薩、あなたが言ったのは地藏王ですか？ 地藏菩薩は佛とも呼ばれており、つまりこの意味です。しかし彼は彼のすべきことをするのです。

弟子：人の元神はどのように来たのですか？

師：このことについて私はすでに話しましたが、原始生命は宇宙の中の各種の歴大な物質運動の作用の下で生じたのです。

弟子：噂を伝える人がいますが？

師：これらの噂に耳を貸さないでください。特に私の法に影響があること、我々の法の形象を破壊することは、誰も伝えないでください。あなたのところに来たら止めて、人々が皆このようにすれば、それは伝えられることがなくなるのです。

弟子：他人の功績と過失を論じることは業を作るのですか？

師：常人の中の良し悪し、功績と過失は、煉功者として淡泊であるべきだと私は思います。常人の中の事をあなたはそんなに興味津々と論じないでください。あなたはそれに興味を持って執着しているのですか、それともあなたは修煉したいのですか？ 常人の中にはこれらの事しかありません。私は言ったではありませんか、常人の中の

事はこれらのことに過ぎず、あれこれを話しても、それは皆常人が常人のことを言っているのではありませんか？

弟子：人が悟りを開いた後もう上へと修めることができなくなりますが、なぜ釈迦牟尼は菩提樹の下で悟りを開いてからもまだ上へと修めることができたのですか？

師：人が圓滿になったらもう上へと修めることはできなくなりますが、悟りを開いたら即ち圓滿になったのです。釈迦牟尼は当時半ば悟りを開いた状態にあって、彼の記憶は部分的に開かれましたが、まだ開かれていないものが沢山あり、彼はまだ知らないことが沢山あるから、はじめて上へと修めることができます。何でも知っていれば、彼はもう上へと修め難くなります。彼は四十九年間法を伝えているうちに修煉して如来の次元に達しましたが、それは彼が半ば悟りを開いた状態がすでに高く達していたからもたらされたのです。われわれが半ば悟りを開くのは、それほど高く達していないのです。なぜなら釈迦牟尼は人を済度しに来たからです。しかし私は僅かな人、やはり僅かな人に高く開かれる可能性があるかと強調したいのです。各人の状況は皆同じではないからです。

弟子：人が死んでから親族の関係がすでになくなり、元神はそれぞれのところに行きますが、なぜ先祖の徳と業力は下へと子孫に積み重なるのですか？

師：そうです。即ちこの宇宙にはこのような理があり、それも人を制約する一つの理です。あなたが業を造り、あなたが死んだら、あなたの子孫はこの業を償わなければなりません。ですから子孫のために福を作ろうと思って、彼は沢山の金を稼ぎ、自分はそれほど使えないが、子孫に残して楽な暮らしをさせたいと思うのです。彼は世間の事をかなり重く見ており、子孫の事をかなり重く見ています。更に彼は死後の名をもかなり重く見ており、いなくなった後の名をもかなり重く見ています。これらの要素が存在しているから、彼は業を積み、子孫に業を積み重ねるのです。

弟子：一人が佛になったら、その人の祖先たちも天に昇ることができると言われていますが？

師：人は、大きな善を行い、あるいはよく修煉できたなら、その父母はそのお陰で上へ済度されるかもしれません。しかしどの次元に済度されるか、それはその父母自身の情况及びわれわれの修煉の状況により影響されます。先祖が徳を積めば必ず福の報いが得られます。一人の人が修煉すれば、その先祖も徳を積むことができると言われ

ていますが、つまりあなたが佛に成就できれば、あなたの父母も大きな徳を積むことになります。しかし三界を出た者はあまりいません。彼はただ徳を積んだことになり、いい事をしただけです。あなたのような息子がおり、あなたのような娘がいるから、彼も徳を積んだのです。このような要素が存在しています。しかし父母もこれによって佛になれるということは、それはいけません。それは修めなければなりません。彼はただ異なる次元の天人として福を受けるだけです。祖先たちが皆天に昇ることができるというのは、でたらめな言い方です。

弟子：ある日の夜、寝ていたとき夢を見ました。父母は修煉者で、家に祀っているこれらの紙を破って火を付けました。私はやめるように説得しましたが、なかなか聞き入れないので、師父にお願いして助けてもらおうと思ったところ、師父が現れて状況を話しました。父母が一枚の紙を燃やすと、その紙は燃えました。その後その人は師父ではなくなり、屠殺業者の衣服を着て、手に拡声器を持って市場に立ち肉を売っている姿に変わりました。それを見て私は泣き出しましたが？

師：これは間違いなく魔の仕業です。これは人を罵ることを暗示しています。この魔の位牌が燃やされて、殺され、その意味は屠殺業者が人を殺したことで、つまりこの意味です。それは少し能力があるから、これらのものを演化して、人を惑わせることができます。なぜ今日これらの魔をきれいに片付けたのでしょうか？ 皆さん考えてみてください。まさに私が挙げたリンゴの例のように、人類社会はここまでに至り、人類だけではなく、物質とそれらの動物も、皆業を持って輪廻しており、しかもかなり大きな業を持っています。それらは修煉などを知っていますが、人類の事を絶対にこれらの動物に妨害させ、主宰させてはいけません。それらはこのような作用をしています。これはすでに天理に背いたことです。大逆の魔は殺されるべきであり、これも末法末劫時期の必然です。それは少し高い功を修めると殺すべきなのです。現在はかなり乱れています。

私は話したことがあります。人々が理に適っていると思うことは、高次元から見ればすべて間違っているのです。高次元にいる大覚者から見ると、人類社会は妖怪や鬼、魔に乱されて、それらは勝手に人の身体に持っているものを取ったり、人を制御したりしています。それらは良い事をしており、人のために病気を治療したと思っています。何の病気を治療したのでしょうか？ それらが病気を治療する時に、それらのものを人の身体に送り込んだのではありませんか？ これはすでに悪いことをしたのです。

弟子：以前われわれの発見したそれらの遠い昔の時期の動物に関しては？

師：今日の動物は進化してきたものだと言われていますが、私に言わせれば全く違います。大陸プレートの変化、異なる時期の周期的な演化により、生物の種を変えたのです。もし今の大陸プレートが沈んで、太平洋、インド洋、大西洋の中から新たな大陸プレートが上がれば、その上にまた新しい生物の種が存在し、新しい生物の種が生じるはずですが、それがまた沈んだら、また新しい生物の種が生じるはずですが、もしこの大陸プレートが別の大陸プレートに替わり、ある年代が経ってから、またこの大陸プレートが替わりに上がってきても、その上の生物の種は元の生物種ではなく、新しい生物種になるはずですが、このように変化しているのだから、人々は進化してきたものだと言っていますが、全く違います。進化過程のその中間段階のものがなぜ発見できないのでしょうか？ 発見したのはすべて二つの生物種の異なる存在形式だけで、中間の過渡期の形式は存在していません。

弟子：修煉者が佛に成就できたら、どの身体が佛になりますか？ 真体ですか？ それとも師父がくれたのですか？

師：過去、浄土宗で修煉する人は、身体の修煉を重んじないで、ただ心性の修行を重んじただけです。座禅して修行を行わない法門は特にそうです。その場合は彼の佛体は迎えに来た佛が演化してあげるのです。彼を迎えに来たときに彼に直接佛体をあげるのです。それらの真剣に座禅して修行する法門では、彼は自分で元嬰を修め出すことができます。しかも道家と佛家の一部の特殊な修煉方法の中では、自らの身体を変えて性命双修の目的に達し、また他のものを修め出すことができ、自分の主元神はそのすべてを主宰します。

弟子：元神は高エネルギー物質ですか？

師：このように理解してはいけません。あなたの元神は最もミクロ的な、最も微小な物質、最も本源の物質から構成されています。あなたの性格、あなたの特性は物質の本源よりすでに決められています。ですから、どれくらいの年月が経っても、生々世々に変らないのです。しかし本性は善良なのです。

弟子：キリストは彼の天国から来た人を済度しに来たのですか？

師：この言い方は間違っていない。欧州の人種、その最も原始の人種は皆彼らのそ

の特定の空間から来たのです。彼のところには彼のところの特殊な状況があります。

弟子：私が法輪大法を学ぶ前に、夢の中で先生に会いましたが、どうしてですか？

師：大法を学ぶ前に、私に会った人は多くいます。何年、何十年前にすでに私を知っていた人もおり、夢の中で私に会った者もおり、このような例は多くあります。またかなり昔に占い師に教えられた人もいます。さまざまです。これは異なる時空の反映です。

弟子：私の子供は先生に会ったことがあり、先生を知っていると断言していますが？

師：この子供の根基はかなり良いのです。子供の言ったことは間違っていない。一部の子供は目的を持って来ており、法を得るために来たのです。

弟子：徳と功、真、善、忍は同類の物質ですか？

師：真、善、忍は一般物質として認識してはならず、同じ概念ではありません。如何なるものも皆物質により構成されたのですが、それはこのような概念ではありません。それはわれわれ人間の元神のようなもので、それとわれわれ人間の身体はどんな物質から構成されたのかと言うなら、私が先ほど言ったその問題と同じで、それは適切ではありません。しかし如何なる物質も物体であり、真実の存在はその特性であり、法の体现でもあります。徳と功はつまり物質の形式で現したのですが、皆同類の物質ではありません。しかしすべては宇宙の特性である真、善、忍に同化しているのです。

弟子：葱、生姜、大蒜は食べていいですか？

師：われわれは今日常人の中で修煉しているのでこの問題を具体的に提出していません。しかしわれわれの専業修煉者の中で、将来の和尚はこれらものを戒めなければなりません。実際皆と一緒に集団で座禅して修めている人も、食べてはいけません。過去にはそれが人の修煉を妨害するので、この問題を提出しました。葱、生姜、大蒜は人の神経を刺激するので、常に食べたり多く食べたりすれば癖になり、食べなければほしくなって、執着心を起こすことがあります。これらのものを淡泊にすべきです。加熱してから食べれば問題はなく、匂いがいいからです。葱を炒めて調味の香りとして使っても構いません。われわれは実際の意味から見れば、当時釈迦牟尼が食べさせないのは、人の修煉を妨害し、放出した匂いが非常に刺激的で、入静を妨害するから

です。その時十人、八人の和尚が車座になって入静し座禅をしていたので、その匂いが放出されると、皆入静できなくなります。座禅して修行することはとても重要視されていたので、これらの類いの物を戒めることをとても厳粛に見ていたのです。

弟子：徳、功は真、善、忍と同類物質ですか？

師：徳は一種の白色物質で、一種の特殊な物質です。業力も一種の特殊な物質です。功は一種の昇華した徳の物質であり、宇宙のほかの物質を混ぜて形成したものです。真、善、忍は法であり、一種の特性で、一般の物質概念で認識してはならず、超物質なのです。

弟子：不壊の体はどのように理解しますか？

師：世間法を抜け出したら即ち不壊の体になったのです。佛体は壊れるものですか？彼は宇宙の中の最も豊富で最も良い物質で構成したので、宇宙が壊れなければ彼は壊れません。

弟子：法輪大法を修煉する人は、最終的に皆法輪世界に行くのですか？

師：私の法輪世界には入りきれません！ 真に正果を得て圓滿した者しか行くことができません。法輪大法を修煉すれば法輪世界に行くと言うなら、今はすでに何億もの人がいます！ 将来大法を学ぶ者はもっと多くなります。この生々世々の人もまた代々修めていくので、皆法輪世界に行くなら入りきれないのです。圓滿まで修めることができない人は高次元の美しい空間に行くことができます。われわれの学習者の中の大部分は異なる高次元から来たので、法を得てから自分の元の世界に戻ることになります。

弟子：私の孫娘は五歳で二期の講習会に参加したことがあり、夢の中でよく起きて煉功します。大人が彼女に話しかけても彼女は相手にしてくれません。これは正常ですか？ 彼女はまたよく先生から文字を教えてもらったり、絵画を教えてもらったりするのを見ます。また先生が虚空や彩雲の上におられるのを見ますが？

師：煉っているものが法輪大法であれば正常です。根基が良い子供ですね。くれぐれも子供にでたらめな功を学ばせないでください。子供を台無しにしてはいけません。このような子供は皆法を得るために来たのです。くれぐれも子供に悪いことをやらせ

ないでください。全国ではこのような子供は数多くいます。

弟子：新しい学習者を受け入れる基準は何ですか？

師：ありません。煉ることができれば煉っていいのです。もちろんはっきり言うべきですが、二種類の病気の人には修めてはいけません。これは私が提出したのです。つまり危篤患者は業力があまりにも大きいので、修煉ができません。精神病患者は思想業力があまりにも大きく、主元神がはっきりしていないので修煉できません。

弟子：常人の中で修煉する段階では体内の分子構造が変わらないのですが、それではわれわれが出世間法に入ったら体内の分子構造が変わるのですか？

師：修煉の過程で変えなければ、出世間法に入ってから、あなたはどのようにやって変えますか？ 世間法の段階ですでに一步一步と変えて向上し、世間法から抜け出したとき、ほぼ全部変わり終えたのです。

弟子：テレビで「達磨の物語」をやっていますが、学習者に見させないことは正しいでしょうか？

師：これは構いません。学習者はそれを物語として見るだけで、まねて学ぶはずはありません。現在人には法を教えるべきでなければ学ぶ気はまったくないのです。たとえ佛教のどの和尚でも今日ここに座って、いくら彼に言っても学ぶ気にはならないでしょう。われわれは講習会の時にすでに強調しましたが、禅宗法門はすでに存在しなくなりました。現在存在しなくなっただけでなく、六祖の慧能に至ってすでになくなりました。何百年の間にそれはとっくに無くなったので、残ったのは歴史だけです。その禅宗の和尚は今何を読んでいるのでしょうか？ 阿弥陀佛経までも捜し出して読んでおり、禅宗のものは無くなったのです。禅宗の法は世間にはもう無くなり、実は末法時期にはどんな法も無くなり、禅宗の法だけではありません。

弟子：一部の人には講習会に参加したことがありませんが、煉功に参加し、本と法輪バッジを買いましたが、その後また煉らなくなりました。本、法輪バッジは取り戻すべきでしょうか？

師：彼はすでに買ったので、変えることはできません。彼はお金を払ったからです。われわれには何かの行政的な管理方法もありません。当初私はこれらのものを持ち出

すべきではないと考えていましたが、学習者、弟子の要求で今持ち出しました。情況を見守るしかありません。

弟子：「頭頂抱輪」の時、頭はとても重くて上げられません。どうしてでしょうか？

師：これは気にする必要はありません。頭が重いことは必ずしも悪いことではありません。修めてできた功柱は重量もあり、感じるすることができます。もし上に大きな光の玉が出たらそれもあなたに押し掛かります。上にもし一人の佛が座っていたら、更にあなたに押し掛かります。上に何かものがあったとしても気にしないでください。煉功にはあり得ることで、すべて良いことです。人の頭上には様々なものが現れることがあります。気を煉るにしても一つの大きな気柱が現れるはずです。

弟子：夢の中でよく試練を受けます。その時の対処は目覚めた時よりも良いのです。これは副元神によることですか？

師：それはもちろん良いことで、副元神ではありません。副元神が事をやるならあなたに見させないので、あなたはそれを知らないのです。それはあなた自身です。

弟子：浄白体以上の次元まで修煉できた時、身体には冷たい、熱い、痺れ、腫れ等の感覚は無くなるのですか？

師：まだあるはずですが、それは異なる次元の異なるものによるあなたの身体での現れだからです。病気があるような辛い状態はますます少なくなります。何も感じなくなるということではありません。皆さんに教えますが、太上老君が話した言葉で、道家の本の中にもこの言葉が載っています。つまり「どれほど高く修めたにしても、なぜこんなに辛いのでしょうか？ それは常人の中にいるからです」とのことです。

弟子：法輪大法は宗教と矛盾していますか？

師：歴史上われわれは宗教に入っていません。現在われわれの大部分は常人の中で修煉しているので、宗教ではありません。宗教の目的は、一つには修煉であり、一つには人を教化して、良いことをするように導き、世の中で道徳を長く保つようにします。これは宗教がやった二つの事です。われわれが常人の中で修煉することはこのような作用を果すことができますが、われわれにはこのような宗教形式はありません。将来には専門の法輪大法を修煉する弟子がいますが、現在われわれはまだこの一步にまで

進んでいません。如何にこの問題に対処するのでしょうか？ 現在和尚にはすでに大法を修煉する者がおり、いずれにせよ、われわれのこの法は社会に有益で、人に有益です。われわれは政治に干渉せず、政府の政策に違反せず、われわれはこれらの事に関わりません。国家に対し常人社会に対し如何なる事に対しても不利益な事はなく、有益な事しかないのです。

弟子：私は座禅する時、よくエレベーターに乗ったように下へ滑り、自分がかかなり小さくなったように感じますが、なぜか分かりませんか？

師：これも正常なことです。なぜなら、元神はとても小さいもので、かなり大きくなることもできるからです。ですから人が煉功する時には身体は外へと拡大することができます。大地にすくと立っているように感じるような人もいれば、とても小さく変ったように感じる人もいます。これはすべて正常なのです。しかしもう一面があり、修煉者は一旦あまり良くない事をしたら下へ落ちるような感覚もあります。それは次元が落ちたので、身体の容量も縮んでしまいます。

弟子：最近の数カ月、私は夢の中でいつも何人かの周囲の親族と一緒に滑りやすいぬかるみでばたばたと忙しくしています。

師：これはつまり人が常人の中にいるということです。高次元の人から見れば、人類はとりも直さず泥をこね回しているのです。

弟子：法輪大法の中で正果を得るまで修煉できたら、必ず本体を持たなければいけないのですか？

師：われわれのこの法門が要求した圓滿は本体を持つことです。本体を持たず、この身体がこの形式に達していなければそれは許されません。なぜでしょうか？ われわれは皆達することができるからです。本当に修煉するならほとんど皆達することができます。あなたが果位に入って世間法の修煉から出れば、あなたの身体はすでにできしており、多くの人はずすでにこの段階に達していても自分では分かりません。なぜなら、身体の一部は鍵をかけて縛られているので、感知できないのです。あなたの修煉につれて益々あきらかになってきます。ただし一つの問題を説明しなければなりません。一部の人さまざまな原因によって限定され圓滿に達することができないかもしれず、異なる次元の中で天人（神仙）になることしかできないので、身体の変化は非常に少ないのです。実はこれは一般の人にとってはすでに高くて及ばないことであり、

美しくて求めることのできない大きな福です。一般の気功の中や憑依した功、邪法の中では決して達することはできません。

提出した質問は終わったようです。私が今日解答したこれらの問題は主にわれわれの輔導員と中堅が提出したことに対して説いたことです。もちろん、一部の学習者は講習会に参加したことがなく、あるいは一回だけ講習会に参加したことがありますが、来るべきではないのに来てしまいました。あなたがこの法を聞くべきではないと言っているのではなく、あなたが修められないとも言っているのではなく、あなたがまだこれらのものを受け入れることができず、これがかなり大きな問題に関わっているのです。あなたをやらせなければ、あなたは不満があるかもしれず、心性はまだ高くないので、変な文句を言うかもしれません。やらせればあなたは受け入れられず、疑いを生じてあなたの前途が壊れることを心配しています。いずれにせよ、聞いたあと信じられなければそれを物語として聞けばよく、どのような反発心も起こさないでください。

説いたこれらの法は主にわれわれのこれらの輔導員、中堅に対して説いたのであり、将来あなたたちが仕事を展開する中で役立ちます。一部の問題は共通性があり、学習者から提出されて答えられなかったことが、この機に少なくとも一部のことが分かったはずです。実は私の言ったように、この輔導員の会を開かなくても問題を解決できるはずです。例えば、私が済南の講習会で講義を終わってそこから離れる前に、多くの覚者は私にこう言いました。「この講習会ですべてのことを全部説きました」。その意味は常人に知らせるべきことは全部説いたということです。私に言わせればこの法に従って学び、完全に理解さえできれば、解決できない問題はありません。私が説いたこの法は、ただ私のこの一法門の中の事だけではなく、これは一つのとても大きいものです。もちろんわれわれが今日やった事は過去に伝えた功、やった事とは同じではありません。他の人は衆生済度を講じ、釈迦牟尼は動物さえも済度の対象にしているのです。釈迦牟尼は衆生済度を唱えるので彼は衆生を済度し、すべての生命に対して慈悲を与えるのです。なぜわれわれは今日このようにしないのでしょうか？なぜわれわれは人を済度するにもまだ選択するのですか？なぜわれわれの講習会に入るにもまだ条件を選択するのですか？それはこのすべての事は当初と同じではなくなってきたからです。一部の人はすでに極悪で救いようがなくなつたので、淘汰されるべきなのです。一部の人は残されるべきであり、一部の人は修煉して上られるかもしれないので、このような問題が現れたのです。

それでは、われわれはどのようにこの会議のことを生かすのでしょうか？言うべ

きことと言ふべきではないことに関してはどうに対処すべきでしょうか？ 皆さんはどのようにすべきかすでに分かっているはずで、私もこの問題を強調しません。一言で言えば、われわれのこの法に責任を負い、あなた個人に責任を負うことに基づけば、あなたは如何にやるべきかが分かるはずで、話はこれくらいにしましょう。

……われわれは討論をしてから、より一層大法に対する認識を深めることができ、我々の認識も統一できました。将来学習者に何らかのことを解答するとき、きっと役に立つと思います。これはその一つです。もう一つは、私はまだわれわれの責任者にこの事を言っていないが、つまり我々は集まって一緒に煉功するだけではなく、私の故郷で率先して皆さんを組織して、ある特定の時間に皆さんが集まって一緒に法を学んでみたら如何ですか。一講一節を順番に皆で読み、討論してみます。学習の時間は一緒に煉功することと同じように固定すれば良いでしょう。こうすればきっと良い効果があり、問題意識を持ち、こうして我々は将来、実際の問題にぶつかる時に法に基づいて対処することができるようになります。われわれが先例を作れば、全国各地の輔導站に対して良い先導の役割を果たすことができます。その後、全国各地が同じようにすれば、我々の認識を高めることに対してとても良いことです。ここでこのような提案をします。

法輪大法長春総輔導站が録音

北京法輪大法輔導員会議での提案

李洪志

一九九四年十二月十七日

皆さんははっきり見えるように、私は立って話をします。

長い間皆さんと会っていませんでした。功を伝えることに関するたくさんの事を処理する必要があり、これらはすべて常人があまり知らず、あまり理解できないことばかりなので、講習会の開催を一時停止することにしました。この時間を利用してこれらの問題を処理しており、現在ほぼ終わりの段階にきています。本来なら処理し終わってから、これらの事を片付けてから、私は新たに今後の功を伝える事を按排するつもりでした。しかし、今度広州で開かれる講習会は、当時慌てて決めた事で、新聞にも報道され、広告も出しており、しかもすでに多くの人から受講料を受け取りました。やむを得ず、私は手がけている仕事を中断して出かけてきました。つまり広州の講習会の前に、まず北京に来て少し準備の仕事を行います。それでこの機会を借りて皆さんと会うことができました。皆さんと会えて私は非常に嬉しく思います。

以前私はこのような一言を言ったことがあります。つまり現在の人々の道徳水準はかなり低下しており、各業種の中で一つの浄土を見つけるのは非常に難しくなっています。しかし、ここに来ると、私はわれわれのこの非常に和やかな場を見ました。われわれ法輪大法のこの所は、浄土であると私は胸を張って言えます（拍手）。同時に、私は皆さんのとても喜ばしい修煉成果も見ました。皆さんは皆向上を求め善に向かう心を持っているので、非常に喜ばしいことです。ですからこの雰囲気とわれわれの心の状態は一致しています。つまり、法を学ぶことは無駄にならず、皆一定の成果が得られました。私もこの大法を無駄に伝えておらず、これは私にとっても非常に喜ばしいことです。私が当初北京で法を説き、功を伝えに来たばかりの時、第一回目の講習会は今と同じぐらいの参加者しかいませんでした。しかし、しばらく時間が経って、今まで僅か二年間の間に、実際には私は正式にこの法を伝えてから一年しか経っていませんが、最初はとても低い気功の形式で法を伝えていたのです。われわれは今日になって、ただ北京この所だけで、輔導員はすでにこんなに多くの人数に達しました。これはわれわれのこの大法がすでにより多くの善良な人々に認識されていることを物語っており、この法の中で向上ができ、自らを修煉でき、これは非常に喜ばしいこ

とです。現在、われわれ法輪大法を修煉している人はどれくらいいるのかを具体的に統計しようとしても、なかなか統計しにくいのです。人から人へ伝えており、数え切れないほどです。ある地方では一つの県あるいは一つの市に一人か二人しか学んでいませんでしたが、現在千人にも達しました。たくさんの地区もこのような形勢であり、発展は非常に速いのです。

なぜこのようにできるのでしょうか？ 私が言ったように、われわれ法輪大法は人の心性を修煉し、人の道德水準を高めるように要求しているからです。しかも修煉して、なぜ功が伸びないのかの根本な原因を示しました。この問題をはっきり示したので、つまりわれわれは根本の問題を掲示しました。以前、私は言ったことがあります、修煉体験談の中で「先生のこの法が伝え出されてから、われわれの社会の精神文明の建設に対してとても有益です」と私に語った人がいます。もちろん私はすでに話しましたが、主な目的はこのことではなく、私はこの法を人々に残し、法を伝え出してもっと多くの人々に受益させ、本当に向上できるようにさせたいのです。われわれの佛家の言葉で言えば、つまり本当に昇華して上がって、圓滿になるということです。しかし、これによって必然にこのような結果をもたらし、人々の道德水準を向上させることができます。なぜなら、われわれのこの功法の要求は、根本的な問題を指摘し、人に心性の修煉を重視するように求めているからです。多くの人、多くの僧侶を含め、専修の道士も同じく、彼らはすでに如何に向上できるのかが分からなくなり、彼らはただ形式上のものを重視し、実質のものを重視していません。

人の心性は昇華できなければ、向上することはありえません。なぜならこの宇宙の特性は、心性を高めずに昇華して上がることを許さないからです。もし人がこのような程度に達することができれば、つまり異なる程度に向上することができれば、私に言わせればこの人は圓滿になれなくても、社会に対して有益なのです。彼はすべて知りながら悪事をするはずがなく、悪事をすれば自分にどんな良くない結果をもたらすかを知っているからです。こうして社会精神文明の建設、人類の道德水準の向上に対して、ある程度の効果があり、これは間違いないことです。われわれがこの功を伝えるには、人に責任を持ち、社会に責任を持つことを念頭にしており、われわれもこのように出来ています。一般の民衆の間でも、修煉者の中でも生じた影響は比較的良いのです。われわれもずっとこの法の要求を厳守してこのように行なっており、われわれのこの功法はずれもなく、ずっとこのような純潔な、純正な修煉状態を保持できています。

現在のこの形勢によれば、将来この功はもっと広く伝えられることになると思いま

す。近い内、来年になると思いますが、国外で功を伝えることは多くなるかも知れません。こうしてわれわれの国家で影響を生じただけでなく、実は国外での影響もかなり大きいのです。国外から帰って来た人は私に話した事ですが、彼らは米国でのある料理屋で食事を食べた時、その料理屋の中に法輪功を紹介するものが掛けてあることを見ました。彼は不思議に思い、店の人に事情を聞いたといいます。これはわれわれが知らない、まだ把握していない状況です。発展の勢いはやはり非常に速いかも知れません。根本の原因は、われわれが人の心性の向上を重視しているので、社会に対しても、異なる階層の人に対しても、異なる考え方を持っている人に対しても、皆法輪大法を受け入れることができます。これは私が先ほど言ったことで、ただ簡単に述べただけで、つまりわれわれ法輪大法は現在このような発展状況になっています。

これは輔導員の会議ですから、私はこの方面の事を話しました。各地の法輪大法の発展状況から見れば、皆異なる長所があり、さまざまな経験も得られて、大法の学習に対して、修煉の中でさまざまなよい経験も得られています。この間に私は家にいて、ずっと長春にいるため、長春の状況を比較的多く掌握しています。例えば、今長春では法を学ぶブームが引き起こされており、どのような法を学ぶブームでしょうか？ 今他の地区では、動作を煉ることを非常に重要なこととしています。もちろんそれは非常に重要なことで、性命双修の功法なので、当然欠かさないことです。しかし長春では、彼らはこの法をもっと重要な位置に置いて学んでいます。ですから彼らは毎日煉功し終わって、そこに座って本を読み始め、法を学び始めることを続けています。学び終えてから皆が一緒に討論し、一段ずつ討論をします。その後、彼らは本を暗記するように進みました。大法はこれほど素晴らしいもので（もちろんこれは学習者が言った言葉で、これは私が言ったものではありません）、以前多くの経書は明確に説いておらず、すべて曖昧に語っているのに、人々も皆それを暗記したと、彼らは考えました。もちろん他の理由も言いましたが、私はただその意味を述べており、つまり、こんなにいいものをわれわれはなぜ暗記しておかないのでしょうか？ いつでもわれわれが常人の中でいい人になり、向上できるよう要求されており、暗記できればもっといいのではありませんか？ そうすればいつでも対照できるようになるからと、彼らはそう思いました。こうして本を暗記するブームを引き起こしました。

現在長春では本を暗記している人は一万人以上います。彼らは今法を学ぶ時どんな状況になったのでしょうか？ つまりそこに座って学び始めると、本も要らず、初めから本を暗誦しはじめます。前の人が止まったら、次の人は続けて暗誦します。少しの間違いもなく、一字でも間違えないように暗誦し続けます。あなたが一段を暗誦して、彼が次の一段を暗誦して、このように続けて暗誦します。その後また本を写すこ

とにまで発展しました。もし一字でも写し間違えたら、初めからやり直して、全部改めて写します。目的は何でしょうか？ 即ち法に対する理解と認識を深めるためです。こうすれば学習者の向上に対してとても効果的なのです。なぜなら、彼はすでに思想の中に深い印象があったので、行動の中で何かの事をやる時、いつも煉功者の基準により自分を要求することができるから、確かに違うのです。

以前、私はこのようにわれわれの学習者に要求しませんでした。先ほど話しましたが、各地にもそれぞれの良い経験を得ています。私も長春輔導站到言っており、つまりあなたたちの経験を全国へ広めるべきだと言いました。これらの学習者はこのように法を学んでから向上はかなり速くなり、次元の向上も非常に速くて、それは必然の結果です。われわれの多くの人、皆さんは煉功者なので、在席の皆さんはみな輔導員なので、私は深いことを話しても、問題はありません。私の本の中の一文字一文字は、浅い次元において見れば一つの法輪であり、深い次元において見ればそれは私の法身であり、偏旁部首でさえ単独の法身です。あなたの口を経て読み出した時、それも違うのです。多くの人はずでにかなり良い功を修煉し出しており、読み出した字もすべて形象があるのです。口から出たものは皆法輪です。つまりこの本は一般の本ではなく、もちろん次元が足りない者は駄目です。本を読み、法を学ぶこと自身も向上しているのです。われわれは心性の修煉を重要視しており、理性から法を認識すること自身も向上なのです。

われわれは性命双修の功法であり、動作そのものは主に本体を変えることで、つまりわれわれの肉身と各空間に存在しているその物質身体の変化形式を変えることです。主にはこの意義です。まだ一部の術類のものがあります。本当に向上しようとするれば、私に言わせればそれは法において向上しなければなりません。もし心性が向上できなければ、法において向上を得ることができなければ、他のことはすべて机上の空論になります。なぜこう言うのですか？ あなたは次元が上がり、心性が向上できず、次元の高さを決める功が無いからです。心性の修煉がなければ功が得られず、このエネルギーの加持がなければ、あなたが自分の本体を変えようとしても、どのように変えるのですか？ それは最も重要なものを欠いているのです。このエネルギーの加持がなければ、あなたは何も変えられません。ですから法を学ぶことは極めて重要なのです。私が思うには、修煉の人は多く本を読むべきで、きっと皆さんの向上を大いに促進することができます。(差し挟む言葉：先生、大変お疲れさまです。お座りになってお話し下さい。たくさんお話しを頂きたいと彼らは言いました) 私にもっと多く話させたいようですね (熱烈な拍手)。

先ほど、主にわれわれ法輪大法の発展の形勢を話しました。「法輪功」という名前はわれわれが初期に北京で功を伝えた時の呼び方です。私はすでに話したように、気功は現代人が作り出した呼び名であり、実際には、気功とは即ち一種の修煉です。常人の中で普及しているのは、気功の最低形式上のものにしか過ぎません。ただ人体を変えて煉功に向かって進むことができるように、初期段階のものに過ぎないものが伝え出されましたが、実はそれは即ち修煉です。われわれの功法は直接高い次元で伝えたのです。近年来、気功の普及の中で、人々に気功を初歩的に認識させるための基礎をすでに築いたので、それらのものを再び説明する必要がなくなったのです。われわれは始めから高い次元で修煉という問題を話したので、これからこれを気功、気功と呼ばないようにしましょう。

われわれのこの法輪功は、まだ認識されていない時に、あなたがこのように呼んでも構いません。しかし私が思うには、われわれの功法は本来法輪修煉法、法輪修煉であり、あるいは法輪修煉大法と呼ぶべきです。ここで話していることは、つまりこの功法の呼び名の問題です。私はもう一つの問題を思いつきました。つまりわれわれの多くの学習者は、黙々と善い事を行なっており、社会においても、他の環境の中、職場においても、たくさんの善いことを行い、名も残さず報いも求めず、このような事例はたくさんあります。このことは私も知っています。あなたが言わなくても私も知っています。われわれが名を残さないことは、素晴らしいことです。しかし、皆さん考えてみてください。われわれこの功法は伝え出されてから、現在社会においてすでに人の心を善へ向かわせ、道徳水準を向上させるという現象が現れました。この状況が現れたことには、法輪大法の影響も大きな作用があったと私は思います。ですから私は、一部の人は善いことを行なった時、人に名前を聞かれても、返事もせず、名を残さず報いを求めず、功德を積むことですから、私は思うには、あなたは返事すべきです。あなたは、私は法輪功を修煉しているもの、あるいは私は法輪大法の修煉者だと言うべきです。こうすれば、社会に対しても、われわれの大法を広めることに対しても良い影響があるからです。人々は皆正法を求めに来られるならば、これは良いことではありませんか？ これは良いことだと私は思います。われわれのこのような影響のため、全国各地で功を学ぶ人はすでに相当多くなりましたし、その影響もすでにかなり大きくなりました。現在社会において誰かが少し善いことをしたら、人々は皆不思議に思います。一部の人は、どうして今になってまだ雷鋒が現れたのか、この人は本当に素晴らしい人間だと思っています！ われわれははっきり彼らに教えたほうが良いでしょう。

最近の一時期に、また幾らかの問題があります。例えば一部の学習者は修煉中にた

くさんの問題にぶつかり、なかなか解決できず、なぜこうなるのか？ これは何の意味でしょうか、というような問題です。われわれの在席の輔導員でも、あなたはもし信じなければ、私がここであなたに質疑をさせるならば、あなたはやはり多くの講習会で学習者たちが出したことがある質問を提出するでしょう。なぜこうなるのでしょうか？ やはり先ほど私が話したように、法に対する認識はまだ深くないからです。私は異なる次元のものを結び付けて説いたのです。ある人は一回本を読み終えたら、彼は非常に良いと感じますが、引き続き読んでいけば、また新しい会得があります。更に読み続けていけば、また新しい会得があり、字の意味も変わったように感じます。われわれの多くの人はこのような感覚がありました。本の中で私が異なる次元のものを結び付けて説いているので、あなたの昇華につれてあなたは異なる認識が得られます。これが即ち法です。あなたが本当に法をしっかりと学んで、法を以て対照することができれば、あなたはどんな問題でも容易に解決できるはずです。きっとこうなります。修煉の問題でさえあれば、すべて解決することができると思います。

かつて、済南の講習会で私は最も詳しく説きました。多くの問題をすべて解き明かしました。極わずかの問題はあまり細かく話しませんでした。意味は全部触れました。信じがたいかもしれませんが、皆さんは本当に入念に学ぶことができる時、どんな問題でも解答を得ることができます。ここが辛い、そこが辛いと言っている人がいるように、たくさん問題がありますが、多くの人は考えもしませんが、もしあなたが辛くなければ、私はあなたに構っていないこととなります。あなたが修煉したければ、いつも言っている言葉で言えば、そんな容易いことではないのです。はっきり言えば、人は皆業力をもっているのに、償わなくて済むことができますか？ あなたの業力を一気に消去してあげて、すぐあなたを佛に成就させればよいのでしょうか、あなたを特別に扱うべきでしょうか？ 私はただこの意味を言っています。どの人でも修煉を経てはじめて向上できるではありませんか？ その修煉過程は即ち業を消すことで、つまり苦を嘗めることです。あなたが苦を嘗めなければその業は消去することができません。ですから身体の苦痛は必ずしも悪い事と限りません。あなたが生活の中でぶつかった厄介なことでも、必ずしも悪い事ではありません。あなたが耐え乗り越えましたが、なぜか分からなかったかもしれません。

一つの例を挙げて言えば、過去佛教の中で言われたことですが、修煉するには、たくさん苦を嘗めなければなりません。あなたは知りませんが、これくらいの苦を嘗めるだけで何だというのですか？ 師父はすであなたを見守っており、たくさん業を消去してあげました。生々世々で悪い事を行ったことがない人がいますか？ 私に言わせれば今日の人、この一步にまで至り、殺生したことがない、大きな業を作

ったことがない人は非常に捜しにくくなりました。歴史を遡れば、その時、あなたがより悪い事を行った時、他の人はどんな大きな難を引き受けたのでしょうか？ それなのに、あなたは今日これくらいのことを受けただけで、もう耐えられなくなりました。もちろん道理はこのように言いましたが、多くの人には見えないはずですが。修煉のことを話しているのです、つまり悟性の問題を説いているのです。あなたは見え、それは当然の事です。あなたが全部見えたら、悪い事をするのではなく、修煉の問題も存在しなくなるのです。ですから人がこの一歩まで落ちてきたら、あなたに見させないことになっています。迷いの中に落ちて修煉するのです。

もう一つの問題があり、ここまで話が及びましたので、ついでに話します。われわれの多くの人には天目が開きましたが、異なる次元で天目が開いたのです。しかしそれほど高い次元に達しておらず、見えたものは物事の本質ではなく、その因縁関係が見えません。こうすれば、一つの問題をもたらすこととなります。つまり彼は勝手に話すかもしれません。彼が勝手に話すと、重大な結果をもたらすこととなります。ある人は、私はどうしてこの程度にまで修煉したのか、どうしてこうなったのでしょうかと言います。実は、彼が見たのは正確ではありません。一つ例を挙げましょう。天目が開いた多くの人には、あなたには憑き物がある、彼には憑き物がある、皆憑き物があると言っています。私は随分前にすでに言ったことがあります。法輪大法の学習者、本当に修煉している人には憑き物はないのです。私は全部片付けてあげました。それなのに、なぜ一部の人は動物の形象が見えたり、このような形象が見えたり、あのような形象が見えたりするのでしょうか？ 皆さんに教えますが、実はわれわれの多くの人には主元神、副元神と憑き物の存在形式を見分けることができません。彼が見たものはあなたの副元神の前世、或いはあなたの主元神の前世であるに過ぎず、このような情況に過ぎません。あなたがこのようにでたらめを言うと、他人に心理的な恐怖をもたらすことになるのではありませんか？ あなたは誰それには憑き物があると言いますが、実はそれは全く憑き物などではありません。

過去、佛教の中で六道輪廻を説いたことがあります。佛教にはまだこのような話がありました。つまり、人から人に転生した例は非常に少なく、動物から人に転生した場合が比較的が多いのです。もちろん、このような情況であるかどうかは別として、佛教の中でこう説いていますが、私はただ一つの例を挙げただけで、その意味を言っただけです。皆さんも悲観にならないでください。生々世々の中で何であったのか知るよしがあるのでしょうか？ 今日は輔導員の会なので、講習会に参加したことがない人は、もし信じなければ物語として聴いても結構です。昔の話によれば、人は向こうから転生に来た時、皆動物になりたいのです。動物は複雑な社会関係がなく、気楽

に生きられます。動物になりたくても容易なことではないようで、比べれば人になるのは、割合容易です。人は苦を嘗めなければなりません。即ちこういう意味です。しかし人は苦しいからこそ、修煉できます。他のものは修煉できないのです。修煉して上がったとしても邪法なので、高くまで修煉することは許されません。ですから天目が開いた人は、今後くれぐれもこの問題に注意して、でたらめに言うてはならず、あなたは正確に見えません。その他に、一部の事はあなたが感応できますが、感応したその信号はどこから来たのでしょうか？ 魔があなたに伝送したのかも知れません。ですから決してこれらの事に執着してはいけません。

われわれの学習者も天目が開いた人が高く、次元が高いと見てはいけません。これらのものを決めるのは天目の開いた次元に関わらず、人の修煉の次元によって開くことではありません。あなたは開いていなくても、あなたは彼よりずっと高いかもしれません。これは極普通のこと、この現象は個別のことではありません。われわれは人の修煉が良いか悪いかを見るには、その人の心性の高さ、法に対して理解できる程度を見るのです。先生がいなくなったら、或いは先生が功を伝え終えて皆が先生に会えなくなったらどうしましょうか、と言う人がいます。ある人はそれでは修められなくなると言いました。修められないはずはありません。皆さん考えてみてください、私は何のためにこの法を伝えたのでしょうか？ 釈迦牟尼は当時在世の時、彼は文字を残しておらず、残したのは後人の断続的に記憶した断片的な釈迦牟尼の話した事だけで、系統的なものではありません。皆さんが見た経書は即ちこのようなものです。その時は人々にこの程度のものしか知られてはならないからです。わざとこのようにしたのです。その中にはまだ一部の釈迦牟尼の説いたものではないものが混雑しています。今日我々のこの法は比較的明らかに説きました。釈迦牟尼は当時戒律しか残しておらず、釈迦牟尼は在世中文字を残しませんでした。釈迦牟尼は晩年の時に、修煉の過程において、人々が修煉できるため、修煉して上られるために、多くの戒律を制定しました。しかし我々は今日このようなものはありません。実際は釈迦牟尼が残した最も重要なものは戒律にほかなりません。

われわれは何かを戒める必要はなく、あなたに何をさせるかを規定する必要もありません。なぜでしょうか？ われわれは今日法を残しており、この法はあなたに如何にするべきかを教えることができるからです。ですから私が言ったのは、私がいなくなったにしても、あなたは私に会えなくなったにしても、「法を師とする」ようにすべきで、しっかりこの法を学ぶべきです。あなたが成就できるかどうか、やり遂げるかどうかは、すべてこの法にかかっています。もし李洪志は今日ある学習者を特に良いと思って、あなたを特別に扱い、あなたに功を与えて、あなたを上げらせようとす

るならば、皆さん考えてみてください。このような事をしたら、私が法を破壊しているのに等しいではありませんか？ ですから皆さんは誰であっても必ずしっかり修煉しなければならず、みな修める必要があります、着実に修めなければなりません。もちろん、われわれの一部の人は法輪大法に特別な貢献を行ないましたが、それも修めていることであり、ただ修煉の形式が違うだけで、彼は別の修煉方法なのです。こんなにたくさん話しましたが、要するに皆さんに真剣に法を学ばせ、真剣に修煉させるためなのです。

私が将来国内で功を伝える機会は今より多くないでしょう。ですから肝心なことは皆さんが如何にこの法をよく会得するかの問題です。法は皆さんに残しており、実は私の目的は即ちこの法を皆さんに残したいのです。私がずっと誰かが修めるのを見ている、私があなたの前にも、あなたが私の言った通りやらなければ、それは何の意味もないではありませんか？ 何にも役に立ちません。私は、私の法身があなたを見守る事ができると言いましたが、実は私は更に高い情況、更に大きなことをまだ言っていない。人は皆別の空間の身体があり、人にはある程度のエネルギーが備わったら、その身体はかなり大きくなります。私が別の空間で修煉した身体はすでに相当大きくなりました。どれほど大きいのでしょうか？ ある人は私に、先生がアメリカに行かれたら、私はどのように煉功するのでしょうか、先生は私を見守ることが出来ますかと聞きました。私はあなたを見守る法身がいると答えました。実はまだ別の一層の意味があり、私の法身はあなたを見守るだけではなく、相当大きな空間範囲、一定の宇宙空間範囲はまだ私のお腹の範囲を超えていないのです！ あなたはどこに行っても、常に私のところにいるではありませんか！ そういうわけで、あなたはただ修煉に専念すればよいのです。

もちろんまだ一部分の魔の存在があります。なぜこれらの魔の存在があるのですか？ 私は言いましたが、最近いくつかの問題を処理しました。その中にはこれらの事が含まれています。皆さんは考えてみてください、全国各地あるいはわれわれのどこかの煉功場でもよくこのような情況が現れており、われわれの法を破壊しています。私を罵る人がいれば、法輪大法は如何に悪いと言う人もいます。われわれの修煉をひどく妨害しています。しかし皆さん考えてみてください、これは良い事ではありませんか？ あなたの修煉の全過程においてずっと法に対する根本的な認識の問題、あなたは確固たる信念があるかどうかの問題が存在しています。ずっとあなたの修煉の最後の一步までも、まだあなたにとって法に対して確固たる信念があるかどうかの試練があります。この根本的な問題を解決しなければ、他の問題には話が及びません。まったく語る必要がないのです。そうではありませんか？ あなたが法に対して確固た

る信念を持っていなければ、法に従って行なうはずはありますか？ そうであれば他の事はすべて動揺するのではありませんか？ 彼はこのすべてがみな偽りのものだと思うかもしれません。故にその全過程にこのような問題が存在しています。ですからこのような魔の形式が存在してわれわれを妨害するのです。もしこのような魔がなければどうなるのでしょうか？ あなたのこの法輪大法の中にこれらの破壊がなければ、これらのものの妨害がなければ、それはあまりにも修めやすく、どのように人の向上する過程を確認できるのですかと言う人もいます。少し辛さがあって、体に苦しさがあって、普段出遭うそれぐらいの厄介なことだけであれば、それでは漏れがあるのではありませんか？ あなたが法に対して確固たる信念があるかどうかをどうして試みますか？ 人が修煉するには各方面においてすべて向上しなければなりません。動揺する心も一種の安定になっていない執着であり、執着心です。

ここでついでに私はもう一つの問題を提起し、もう一つの事をお話します。ここまで話が及んだので、皆さんが私にもう少し多く話してもらいたいと、私はそう感じています。私は講習会を開いた時に話した一つの問題、つまり業力に関する問題です。悪いことをやったなら業力を得て、良い事をしたら徳が積み、徳を得ることができません。私は後期の数回の講習会の時に、人には一種の思想業力が生じることがあると言及したことがあります。詳しく話しませんでした。ただおおまかに業力の存在について話しただけで、思想業力について詳しく話しませんでした。それではこの種の業力はどのような悪い作用を果たすのでしょうか？ 皆さんは全て輔導員なので、将来このような状況に遇ったら皆さんに説明できるようにしましょう。一部の新しい学習者は煉功する時、先生を罵り、法輪大法を罵り、思想が安定できません。

なぜこの状況が現れるのでしょうか？ しかも罵った汚い言葉は非常に多く、普段思いつかない汚い言葉も口から出てきます。甚だしきに至っては口から出なくても思想の中にそれを思い出すのです。多くの人はこのような過程を経験し、特に煉功の初期にこの問題が現れやすいのです。真に修煉し始めれば、多くの人はこの問題に遇はずです。そのため、「私はどうして先生を罵るのでしょうか？」と思う人がいます。その思想は「この法は偽りのものだ、彼に従って学んではいけない」という考え方を生じさせます。思想が安定しない人は、この考え方について行って、修煉をやめてしまい、信じなくなります。われわれはすでに話しましたが、この功法での修煉は人の主意識を修煉しており、あなた自身が自分を主導できなければ、誰もあなたを済度することができません。なぜわれわれは精神病患者を講習会に参加させないと強調したのでしょうか？ つまり彼自身は自分を主導できなく、自分を管理できないからです。そうであれば、われわれは誰を済度するのでしょうか？ われわれはあなた自身を済

度するのではありませんか？ だからわれわれはこの問題を強調したのです。

一部分の人は分別することができます。ある人は「私はなぜ先生を罵るのか？ 私はなぜ法を罵るのか？ 私はそれを制御しなければいけない」と思うようになりますが、長い間に精神が緊張状態に陥り、自分でなかなか制御できません。しかし私の法身は全部知っており、あなたにこんなに固い信念があるのを見て、あなたを助けてこの思想業力を消去してあげます。実はすべてその思想業力が悪さをしているのです。あなたが昔人を罵ったことがあります、あなたの昔のその良くない思想は皆湧き出ることができます。なぜこの状況が現れるのでしょうか？ 皆さんは考えてみてください、われわれが煉功するのは業を消滅することです。別の空間のすべての物質は皆生きているものです。私は以前このことを話したことがあります、講習会でこのことを話したことがあります。その業力も生きているのです。あなたが業を消滅しようとしますが、その業が消されると、それは死んでしまい、無くなってしまいます。それではそれは承知できますか？ あなたがそれを殺そうとしています、それは承知できるのですか？ それはすでに生き物なので、だからあなたに修煉させないようにします。修煉させないのは、それが生きていたいからです。あなたがそれを消さないように、それがあなたの頭の中に汚い言葉を反映して、あなたに法輪大法を信じさせないようにし、ひいては私を罵り、どんな言葉でも思いつくことができます。一部の人は分別がつかなくなり、誰かが自分を啓示しているのではないか、あるいは自分が本当に分かるようになったと思い、分別がつかず、そのままついて行ってしまい、駄目になってしまって、誰でも彼を済度できなくなりました。実はこの思想業力が阻害作用をしているのです。

それは一つの段階で、非常に短い段階です。あなたの信念が固くなってきたら、それを消去することができます、この業力を消去することができます。今まで講習会の時、詳しくこれを話していませんでしたが、近頃多くの方は私にこの状況を訴えました。皆さんは心配しないでください、あなたは私を罵っても、法輪大法を罵っても、それはあなた自身が罵っているわけではありません。きちんと分別しなければなりません。主意識がしっかりしなければ、それで駄目になってしまい、誰でもあなたを済度することはできなくなります。多くの地区にこの現象が現れ、ある人は「私はどうして先生に申し訳ないことをするのか？ 私はなぜ先生を罵るのか？」と思い、長春のある学習者が「私はどうして先生を罵り、大法を罵るのか？」と言って、私の写真の前で「先生、私はもう煉功できなくなりました。煉功したら思想の中で先生を罵り始めるので、もう修煉できません。先生に誠に申し訳ございません」と言いました。法輪大法に触れるとすぐ罵りはじめ、本を手にとるとすぐ思想の中で罵り始めます。最後に「こん

なに良い先生なのに、こんなに良い法なのに、私はたいへん申し訳ないことをしました」と言いました。もちろんこの学習者は、思想の中ではっきりしており、しっかり分かっているので、自分がこのようにしては先生に申し訳ないと自覚しています。後に彼が煉功の時にこの事を煉功場の輔導員に言いました。輔導員はすぐ総輔導站到報告しました。皆さんはこの情況に対して、これは魔の妨害だと彼に説明しました。実はこの種の業力自身も魔の一種の形式なのです。彼が煉功してすぐ魔を招いてしまうその間に、皆さんは彼を囲んで煉功し、彼を囲んで一緒に本を読んでみました。すると、彼の頭はすっきりしました。実際はこれで彼を助けて業を滅したのです。

もちろん、私の本はこのような作用があります。あなたは信じないかも知れないが、例えばある人は病気にかかったら、もちろん私は病気にかかったという言葉を使いたくはありませんが、実はその病気、その細菌とウイルスのような微生物など、すべては業力がわれわれのこの空間の身体での現れです。だから私の本を読めばそれを消去することができます、本を読む時に打ち出したのはすべて功であり、すべて法なので、業を消去する作用を果たすことができます。彼は頭がすっきりしたと感じ、とても良かったと思いましたが、帰ったら彼は元の状態に戻りました。なぜ元の状態に戻ったのでしょうか？ 実は彼の思想業力がわりと大きいので、この段階において他の人より多く償わなければならないからです。しかし彼は道理が分かったので、ずっと耐えてきました。暫く時間が経ってから、私の法身は彼を助けて業を消去し、残っている業が消去されて、彼もはっきり目覚めました。現在は非常に良い状態になり、何の問題もありません。このような問題が現れたら、皆さんはそれを精神的な問題、あるいは憑き物だと見なさないでください。そのような状況ではありません。

最後に私は少し希望を出したいです。皆さんの時間を更に多く使いたくありません。これは輔導員の会議ですから、皆さんは輔導站でまだ他の用事があるはずですが、皆さんは今後一つ学法のブームを引き起こすように希望しています。毎日の煉功を学法よりも重要だと思ってはいけません。毎日の煉功は続けなければなりません、毎日の学法も同様に続けなければなりません。本当にこの法をよく理解できて始めてあなたに修煉を指導することができます。何でも先生に聞きたい、何かあったらいつも先生の答えを待つ人がいますが、実はその法の中には何でもあり、あなたが学びさえすれば何でも解答を得られます。もちろんあなたが法に対して信じず、動揺するならば、私に言わせれば、それは即ち悟性の問題です。その他に、ここに在席する皆さんは全て輔導員であり、輔導員の仕事を担当しています。もちろん、皆さんはすべて無償で努めています。我々は皆さんに対してどうすべきか、如何にすべきかを強制的に要求することはありません。もちろん我々は輔導員に真剣に責任を持つことを要求してお

り、煉功は専一でなければならず、これは揺るぎないことです。我々は行政手段で誰かを制約する必要はなく、われわれにはその権力もありません。修煉は自分自身のことです。われわれは皆さんをまとめること、皆さんのぶつかった問題を解決できるように手伝えることを担当しているにすぎません。

それでは輔導員としては法に対する認識において一般の学習者より少し高くあるべきなので、多く法を学ばなければなりません。一部の学習者からの質問に解答できなければ、これも問題だと私は思います。あなたは学歴がなくてもかまいません。皆さんをまとめて法を学ぶ時、皆さんが本を読む時、皆さんが認識を交流する時、即ちあなたの向上を促進しています。私が長春にいた時、彼らは輔導員の会議を開いた時に、私がこう話しました。つまり、われわれの今日のこの修煉形式、常人社会の中で修煉するこれらの人は、常人と同じようですが、実質的には我々は煉功者なので、常人とは違います。それでは一人の輔導員としては、皆さん考えてみてください、あなたは皆さんをまとめて煉功をする時、あなたの責任は何ですか？ もし専門に修煉するならば、それは即ちお寺の方丈、住職です。皆さんは考えてみてください、我々はこの仕事をしっかり行うべきではありませんか？ 一人の修煉者として、あなたは修煉しなければならず、同時に皆さんの修煉に手伝わなければなりません。皆さんに対して特別に高く要求しているわけではありませんが、実際はこうなっています。皆さんはぜひともこの率先して模範となるような作用を発揮して、学習者をまとめ、この法輪大法をよりよく発展し輝かせ、人類に福をもたらすようにしなければなりません。これは我々が最低次元において話していますが、実際もこういうことです。

もう一つの状況があり、私は今思いつきましたが、先ほど皆さんに対して幾つかの要求を提出しました。その他に一部の人は仕事に専念せず、社会の仕事に何でもかまわなくなり、ただその劫難が来るのを待っています。更にこの劫難はいつ始まるのか、と私に尋ねる人もいます。私が講習会においてこの問題を話したことがあります。何の劫難ですか？ 皆さん考えてみてください、その劫難は誰に向けて来るのですか？ 善い人は劫難と関係なく、本当に劫難があるとしても、善い人はみな残されるのです。それは悪い人を淘汰するためのものです。ですから、あなたは修煉者として向上しているのに、それらのことに構う必要がありますか？ この難にしても、あの難にしても、あなたには関係がありません。これは本当に劫難がある場合の話です。しかし、今日私ははっきり皆さんに教えますが、この劫難はすでに存在しなくなりました。以前、地球の爆発や、衛星との衝突、大洪水などと言われていましたが、皆さんご存知ですか、この難は一つから一つへと続くように設定されていましたが、異なる次元で設定された難はみな過ぎ去りました。彗星が木星にぶつかることになり、地球にぶつ

かりませんでした。あの洪水もすでに過ぎ去りました。去年の洪水はかなり大きかったのですが、それは世界範囲のことで、すでにかなり弱くなり、それほど弱くなったものもすでに過ぎ去りました。多くの事はすでに過ぎ去りましたが、つまりそのような難はすでに存在しなくなりました。唯一存在するのは、我々はあいまいに言う必要はありませんが、唯一存在するのは将来一部分の人が淘汰されるかも知れず、それらのとても良くない人は、ある種の強い疾病の中で淘汰されるかもしれません。これは可能性があることです。ですから、一部の人はよくこのような話題を持ち出しますが、あなたはそのようなことを考えなくてもよいです。その災難はすでに存在しなくなりました。如何に修煉するか、如何に自分を高めるか、これこそ肝要な問題です。

私の話はここまでにしましょう。引き続いて会議を進行しましょう (熱烈な拍手)。

法輪大法北京輔導総站による録音

広州で全国一部分の輔導站責任者に対する説法

李洪志

一九九四年十二月二十七日

われわれの輔導站は相次ぎ各地区で自発的に設立されています。多くの人は他の地方で講習会に参加してから、この功法をととても良いと感じて、この功法を現地の人々に伝えたいと思い、公園で積極的に功を教えたり、あるいは他の方法で功を伝えたりして、法輪大法の影響がますます大きくなるようにしました。皆さんは多くのことを行ない、多くの貢献を成し遂げました。総じて言えば、より多くの人に法を得させたい、より多くの人に向上してもらいたい、より多くの人に受益させたいと思って、皆さんはみな良いことをしています。輔導站は相次いでたくさん立ち上げられ、将来はますます多くなります。こうなると、如何に管理するかの問題に直面してきます。これは将来の一つ重要な問題です。そのため、この時期に皆さんに集めてもらい、この問題について話してみたいと思います。

われわれの輔導站の管理について、以前からずっと明文の規定があります。皆さんご存知のように、法輪大法を学ぶことに関して、何かの行政手段を採って、無理やりに人を学ばせ、人に役職を与えて望みを満足させたり、いくらのお金を稼がせたりするようなことは、われわれには一切ありません。皆さんはすべて自ら志願して行ない、この法を学びたい、より多くの人に受益してもらいたいと思い、熱心にこの仕事に取り組んでいるのです。つまり、何の付加条件もなく、しかもこの仕事のためにたいへん苦勞しており、ただ人々のためによりよい事をし、無報酬で貢献しているのです。もちろん、無報酬というのは、常人の角度からの言い方で、私に言わせれば大法を広めることは功德無量のことです。われわれは以前すでに何回も規定を定め、本の中でも輔導站を立ち上げる条件を示しました。われわれが輔導站を設立するには、社会のどの職場や、会社や行政機関のようなものにせず、われわれはこのようにしません。これは我々の最も重要な特徴です。なぜこのようにしないのでしょうか？ それは人に何かの事業をやりたいという心を助長させやすく、この心を起こしやすいためです。それに、また幾つかの問題も関連しています。もしわれわれの輔導站は一つの職場のようになってしまったら、多くの問題に関わるようになります。例えば事務所の賃貸にお金、電話の設置にお金、水道料、電気代すべてにお金が必要です。そうしたら、この資金はどこから来るのでしょうか？ 皆さんはすべて無償で功を教えており、わ

れわれは会費も取らず、お金も徴収せず、完全に自らの意志によって無償で行なっており、われわれはそのようにしません。本当に修煉するにはそのようにしてはいけません。釈迦牟尼は当時法を伝える時、人にこの心を起こさせないために、弟子を連れて出家して、寺院の中に入って修煉していました。彼はこのように行なったのです。他の一部の宗教、例えば西方の一部の宗教はこのようにしませんでした。このようにしませんでした、実質上は名や利に淡泊になるように言及しました。つまり、我々が真に修煉し、向上したければ、この素晴らしい事を行ないたいければ、このことを経済団体にしてはならず、職場のようにしてはいけません。皆さんはくれぐれもこの事に気を付けてください。

その他、この中にはもう一つの問題があります。このことでお金を儲けたり、お金を稼いだりするなら、それでは完全にこの法を破壊してしまうことになります。法は人を濟度するものなので、経営や商売に使われてはいけません。また、以前多くの氣功師は病氣治療や健康相談を行ない、少しお金も稼ぎました。他の功派の中でこのように行なっているものもあります。それに、お金がなければ道を養うことができないと公に称える人もいます。実際これらはすべて間違っただけの言い方です。中国古代の修煉者はみな大金持ちだと思われているようですが、実は彼らは一文もありません。もちろん、われわれはあなたが金持ちになるのに反対しているのではなく、この問題に関して私はすでに話しました。あなたは職業として仕事をしっかりこなし、多くのお金を稼いでもかまいません。これは常人の中の事です。われわれは修煉過程の中で如何にこの法を守り、この法が変わらないようにし、ずれないようにしなければなりません。今日皆さんはこのように学ぶだけではなく、将来の歴史においてもかなり長い間残ることになります。皆この法を学び、この法に従うので、もし最初からしっかりしなければ、初めからすでにずれてしまえば、将来には完全に面目が変わってしまいます。皆さんが知っているように、私のところでは、私個人のこの方面で、できるだけしっかりし、如何なるよくない事、よくない現象をも生じないようにしています。将来各地の輔導站も同じで、あなたが行なったこれらの事は法輪功を代表しており、ある意味では法輪功の形象の体現でもあります。皆さんは必ず自らの形象、仕事のやり方に気を付け、法輪功に泥を塗らないようにしてください。もし会社を興し、お金を儲けるようにするなら、私に言わせればそれはもう法ではなくなります。金銭や物質、利益に関わると、あなたは多く儲けたとか、私が儲けたのは少ないとか、私が多く仕事をしたから多くもらうべきだとか、如何に清算するとか、社会ではあなたに分担金を求めるとか、等々のことが現れるはずですが、もし本当にこの形式になってしまえば、それは修煉ではなくなり、完全に一つの会社になってしまうので、これは絶対に駄目なのです。

我々は今日この法を伝え出すにあたって、伝え出すことができるのは、我々がしっかり把握し、それが変な形にならないように、ずれが起きないようにすることができるからです。もしわれわれが最初からしっかりできなければ、後世の人々によってどのように変わるかまったく見当もつきません。昔は李洪志がいた時にどのように行なったのか、今も同じようにしましょうと、後世の人々はそう思うでしょう。私がいる時には、皆さんの間違いを正すことができますが、いなくなれば、変な形になってしまうかも知れません。ですから、初めから我々はこうするように厳しく要求し、実体を行なわないようにしました。われわれの功派の管理において、輔導站はお金を貯えず、完全に無償で指導するのです。我々も団体、派閥を作らず、皆さんは無償で民衆、より多くの人々のためによい事を行なうだけです。

修煉したい人がいれば、我々は彼を指導し、我々自身も修煉者です。つまりこのような原則です。ですので、輔導站を設立しても、事務所や電話など、あれこれがほしいと思うべきではなく、このようにしません。こうしてはいけません。われわれの一部の輔導站は今ある条件を利用して、自宅や自分のオフィスを利用して、非常によく行なわれています。条件は如何であっても、どのように行なわれても重要ではありませんが、肝心なのは法に対する理解と法に対する認識なのです。堅い意志で修煉し続けていくことができるかどうかこそ、最も肝心なことです。如何に自分を高めるか、これこそ主要なことであり、他の事は全て二の次のことです。もちろん、仕事をやりやすくするために、我々にいくらか便利な条件を提供してくれる人がいますが、これは問題ないと私は思います。例えば、我々の学習者の中に、どこかの機関や企業、あるいはどこの会社で管理職の人がおり、あるいは企業の取締役をしている人がいて、その便利な条件を利用して、われわれに場所を提供して、皆さんがそこに集まって会議を開くことなどは、問題ないと私は思います。これは金銭の問題に関わりません。各業種にもわれわれの学習者がいるので、これらの事を解決できます。しかも皆さんは進んでこのようにしており、法輪功のためにいささかの義務を尽し、いささかの貢献を果たすことができ、非常に嬉しく思っています。各地にもこのような事が現れ、法輪功のために場所を提供し、便利な条件を提供するなど、皆さんは非常に積極的にこのような事を行なっています。

その他に、各地の輔導站は学習者の煉功のために、小さな新聞紙のようなものを作っています。例えば「法輪大法 長春にて」、「法輪大法 北京にて」、「法輪大法 武漢にて」等々です。この形式もかなりよいと思います。それは新聞とも言えず、宣伝ビラでもなく、ただわれわれの学習者の体験を掲載した内部資料です。これで皆さん

にやってもらいたい事がある時に、適時に皆さんに伝えることができます。しかも彼らが行なっているこの事は割合簡単にできており、一、二枚の紙だけで、少し上質に印刷できているところもあり、いずれも構わないことです。しかしこの費用を如何に解決するのでしょうか？ この中ではお金の問題に関わります。私の知っているところでは、おおよそこれらのものを作っている地区では次のような方法を採用しています。つまり、学習者の中の一部の人は商売をしており、現在多くの方は会社を営んでいます。あるいは勤め先でこのような仕事を担当しています。あるいは行政管理の仕事を担当しているので、このような便利な条件があり、勤め先に印刷工場があるので、このような便利な条件を利用して行なっています。あるいは企業家が便利な条件を提供してくれたお陰で、この事を行なっています。我々の輔導站はお金に触れておらず、他の人は我々を助けて作っています。我々はただ原稿を提供するだけで、仕上げたら我々が配ります。皆このように行なっているのです。私はこうしてもいいと思います。この事を必ず行なわなければならない、定期的に行ない、条件が整っていなくても何とかしてやらなければならないと思う人がいますが、われわれの原則としては、不定期にしてもよいのです。条件があれば定期的なものにしてもよいし、条件がなければ無理にしなくてもよいのです。

輔導站の管理について、すでに明文の規定があり、皆さんはこの規定に基づいて行なえばよいです。輔導站を設立することにも、要求があります。すでに皆さんに話しましたが、新しい輔導站を設立した際には、北京あるいはいくつかの大きな輔導站到報告すべきです。特に省あるいは大都市の輔導站は、その行政区範囲内の、例えば貴陽市輔導站は、貴州省内のことを担当すべきです。各県の輔導站は適時に彼らに連絡すべきです。もしすべての輔導站は全部北京に連絡するとしたら、このような便利な条件はないかも知れません。大都市付近の各県に対しても責任を持つべきであり、彼らの仕事の展開に便利な条件を提供すべきです。皆さんは法輪功に責任を負うことに基づいて行なうべきで、あなたが世話しなければ、彼は勝手に行動し、要領を得ておらず、実際にずれてしまえば、これは法輪功に対して一つの損失です。その他に、武漢のような大きな輔導站は、付近の幾つかの省を全部担当しています。これも非常によいと思います。彼らの経験は比較的によく、時間が長くなれば私も安心します。彼らの法に対する理解は比較的によく、仕事の展開も比較的によくです。基本的にこのような状況です。我々の輔導站はくれぐれもずれないようにしなければなりません。

輔導站の人員配置に関してメモを提出して聞く人がいます。人員はすべて自発的です。しかし一つの規定があります。つまり、輔導站の責任者は私の講習会に参加したことがある人でなければなりません。聴いたことが多ければ多いほど理解は深くなり、

聴いたことが少なければ往々にして深く理解できず、ひいては一部の内容がまだ分かっていない場合、人をずれた方向へ導きやすいのです。もちろん独自で多く聴き、多く読み、多く学ぶことができれば、分かるものが次第に多くなり、認識も深くなります。人を選ぶ時、熱心で、真面目で、邪な怪しげなことをしない人を選ばなければなりません。

その他に、法輪功の修煉は一般の気功修煉ではなく、高次元での修煉です。この事をするのはかなり難しいことです。人の身体を浄化し、本当にその人の心性の水準を向上させるのは非常に難しく、私は多くの功を打ち出して彼らの身体を浄化し、身体を整理して、たくさんものを彼らに植え付け、更に法を分かりやすく説き聞かせなければなりません。この事はとても難しいのです。私は非常に短い時間内でこれらのことを全部成し遂げることができます。彼らがもし自分で修煉するなら、この一步に達するのに何十年もかかるかもしれません。他の一般の師でも、一、二年の内にここまで達させることはかなり難しいのです。真に一人の人を導くのは容易なことではありません。一人の人を駄目にするのはただ一瞬のことで、非常に簡単にできます。ですから、われわれは一貫してこのように要求しているのです。

このような一つの規定があります。つまり、各地の気功協会に役職を持っている人ならば、彼にわれわれの輔導站の仕事を担当させてはいけません。しかし一つの特異な状況があります。例えば、ある輔導站の責任者のことですが、この人は非常に良く、彼は気功協会を脱退して輔導站の仕事を担当したいと思いました。彼が所属している気功協会はほぼ解体に近い状態であり、この人も非常に良く、自分でしっかりしています。これは唯一の極めて特異な例です。他の地区の気功協会の人たちはわれわれのこの法に対して深く理解できておらず、彼らの頭の中にあるのは、如何にお金を稼ぐか、如何に各功派を管理するかなどばかりで、以前の観念は彼の脳の中に深く残っています。こうして、彼がわれわれを一般の気功として管理すれば我々の学習者を駄目にしてしまうかもしれません。ですから、我々は最初から気功科学研究会の人はわれわれの輔導站の仕事を担当してはならないと指摘しています。我々の輔導站の責任者は皆われわれの研究会から選ばれたのです。大多数は私自ら任命し、指定したのです。これは我々大法がずれないことに対して直接関係しています。さもないと、一般の気功と同じように管理すれば、皆さん考えてみてください。そこにはでたらめな資料が沢山あり、その資料を持ってきて売ることができれば、彼は大喜びでしょう。これは金儲けの良い機会だ、沢山儲けられる、これも売ろう、あれも売ろうと彼は思うでしょう。彼の目的は金を儲けるだけで、故意に我々の功法を破壊することではありませんが、それは破壊の作用を果たします。その中の様々のでたらめなものはすべて

我々の学習者を邪魔することができます。それによって、一部の法に対する理解が深くない人はずれた道に入りやすくなります。更にでたらめな気功の本を持って来て売る場合もあります。他の功派はこのように行なっています。

現在、講習会を開く気功師が来たら、人々は冷静に考えるようになりました。以前のように講習会を開く気功師が来たら、何も考えずにすぐ参加に行くことはしなくなりました。現在皆さんは非常に冷静になり、本物か偽物かをよく観察するようになり、昔のようではなくなりました。それで、気功師が講習会を行なうことは非常に難しくなりました。彼は受講者をうまく集められない場合、我々の学習者を連れて参加させるようになります。彼は講習会を開講できて、金儲けもできたが、我々の学習者を駄目にしてしまいました。我々はこれほど大きな事をしてきて、これほど苦勞して行なったことなのに、彼は一瞬で我々の学習者を駄目にしてしまいました。もちろん一部の学習者に対してあまり高く要求できません。彼は法を勉強し始めたばかりで、法に対する理解はあまり深くできておらず、知らないうちに自分を台無しにしてしまうかもしれません。我々には以前から一つの規定があります。つまり、各地の省市でこのようなことをする輔導站の責任者がいたら、すぐに換えなければなりません。絶対そのまま留めさせてはいけません。

各地の輔導站の人や煉功場の輔導員の中に、我々の学習者を連れて他の気功師の講習会を聴きに行ったり、我々の学習者の中で他の気功の資料を売ったり、あるいは我々の学習者を連れて邪な事を行なったりする人がいたら、このような輔導員を一人も残らずに換えなければなりません。絶対残させてはいけません。残せばきっと問題になります。これはすでに重大な法を破壊する行為であり、内部から法を破壊することは、絶対に許されません。これに対しては厳格に、一人も残らずに換えなければなりません。

われわれの原則は緩やかな管理ですが、煉功に関する問題においては少しもいい加減にしてはならず、いかなる人に破壊されてはなりません。我々は組織の形式においては非常に緩いのです。あなたが煉功に参加したければ参加すればよいし、あなたが煉功に参加したくなければ離れてもよいのです。あなたが参加しに来たら我々はあなたに責任を持って、どうすべきかを教えてあげます。あなたが学びたくなければ、あなたのその心を誰が引き留めることができるのでしょうか？ あなたをここに引き留めたとしてもあなたがしっかり学ばず、いい加減なことを何でも勝手に話し、でたらめなことを行なうなら、あなたは内部から我々の法を瓦解し、破壊するのです。我々はこのようなことを許しません。学びたければ学ばばよく、法を認識できたら修めれ

ばよく、人の心が善に向かうのは自らの意識によることで、誰かに強要されることではありません。あなたは立派な人にならなければいけない、そのようにならなければいけないと言われても、あなたがそうしたくなければ、他の人はどうすることが出来ますか？ 本人が修煉したくなければ、佛もどうすることもできません。必ず自発的にするのであって、強要されることはできません。

もう一つのことですが、我々の多くの学習者は、その数は相当多いのですが、静かに本を読んでおり、毎日読んでいます。問題にぶつかる時も本を読んでいます。この点から見れば、われわれの輔導員よりもよくできています。ですから各輔導站はできるだけ皆を集めて多く法を学ぶべきです。特に各煉功場の輔導員は率先垂範の作用を果たすべきです。我々は輔導員に対して要求があり（一般の学習者であればあなたが学びたければ、学んだらよい）、専一に法輪功を修煉している人でなければなりません。そうでなければその部分の学習者は全部彼によって誤った道に導かれてしまうでしょう。輔導員になった以上、しっかり責任を負うべきです。われわれは輔導員の法に対する理解をより一層深めさせなければならず、常に多く本を読ませるべきです。もちろん、多くの輔導員はとても真面目で、熱心にこの仕事に努めていますが、しかし彼の知識レベルには限りがあって、場合には本を読むことも困難で、年もかなり取っていますが、それでも構いません、彼は皆さんに呼びかけて一緒に法を学ばばよいのです。皆さんに呼びかけて学び、本を読むとき、彼は聴くことができるではありませんか？ 皆さんが体験を交流する時、彼も皆さんと一緒に向上できます。学びさえすれば、誰でも向上することができます。法を学ぶことと動作を煉ることを結び付けて、同時に進行すべきです。

今多くの地区では動作を煉ることはよく集まって行なっていますが、法に対する学習があまり重視されていません。学習者が質問した時、輔導員は解決できず、説明できないから、ただ先生に聞くことを待つばかりで、先生がどこに行ったのかを捜しています。実は提出された質問は全部本の中で説きました。どうしても解決できなければ、皆さんを集めて録音を聴いたらよいです。多く聴くべきです。これらの問題は本の中にすでに解答があります。『法輪功（改訂版）』の中ではすでに概括的に話しました。真剣に学ばばすべて解決できるはずです。長春では法を学ぶブームが始まって以来、学習者は私に会っても聞くことはなくなり、私に会っても聞かなくなりました。そうでなければ、私が街に出かけると誰も私を知っており、故郷なので、街を歩くと、法を学ぶ人が多いので、私を知っている人はかなり多く、多くの人はいれこれ聞きたがっていました。今会ったら、ただ先生こんにちは、と挨拶するだけで、何も言うことはなくなり、聞くことは何もなくなったからです。本を暗記するようになってから、

学習者は事後に対照するのではなく、事前にやるべきかどうかが分かるようになりました。これは非常に素晴らしいことです。皆さんは法の学びを煉功にとって欠かさないこととして勉強し、しかももっと重要な事だと思うようになりました。各地も長春と同じように法を学び、法を学習するブームを起こすべきだと私は思います。そうすれば、多くの問題は容易に解決でき、自分でもこれらの問題を解決できるようになります。それに、輔導員を選ぶ時、あなたとの関係の良し悪しや友情などを顧慮してはならず、感情から出発してはなりません。あるいは一旦輔導員を決めた後、取り換えづらいついてはなりません。法に責任を持たなければならず、くれぐれもこのような事に注意しなければなりません。基準に符合してやれる人であれば、それでいいのですが、そうでない人ならば、あえて臨時に担当する人に任せても、いい加減にやらせてはなりません。私は以前このような問題を話したことがあります。つまり、お寺の中で修行する僧侶、お寺の長として住持、方丈と称される人、彼は專業修行者です。我々は常人社会の中で修めており、我々のこの法もすばらしく、高次元へと修めることができます。我々の煉功場の輔導員はお寺の方丈、住持と何の違いがありますか？皆さんに対して要求が高いというわけではなく、確かに功德無量のことなのです。煉功場でどれほどの人が修めて成就できるのか、たとえ一人だけ修めて成就できたとしても、この輔導員も功德無量なのです。これはとても厳肅なことであり、真剣に取り込むべきです。我々は最も便利な条件を用いて修煉し、皆さんを向上させますが、便利な条件であっても法に対していい加減に無責任なことをしてはいけません。将来、專業修煉の人が現れるかもしれず、このような可能性があるため、必要な条件を提供しなければなりません。

各地区ではこの間の煉功の中で、さまざまな問題に出遭ったかもしれません。皆さんはそれを提出してもよいです。煉功においても、仕事においても、どうすべきか分からないことがあったら、提出してください。私が皆さんに解答します。

弟子：法輪功の学習者が超能力の演出に参加する問題について。

師：これを私はまだ見たことがないですが、これは絶対に禁止します。絶対いけません。彼は専一に法輪功を修煉する人ですか？ 以前は？（挿話：この人は他の功法を学んでいましたが、功が上がらず、法輪功を煉ってから功が上がりました。彼は「三花聚頂」に至ったと言っています）われわれはこれらの人に教えるべきです。法輪功を修煉したければ、法輪功の要求に基づいて行なってください。彼は元々法輪功の要求に従って行っていないので、根本から法輪功の修煉者の基準に符合していません。しかもこの人には憑き物が付いている可能性があります。彼自身がこうするのがいい

と、自分で求める時、私の法身は何もしてあげられず、このような状況かもしれません。このような状況は別の角度から我々の法を破壊しに来たので、絶対に許されません。この人が本当に修煉を続けることができれば、我々の基準に従ってやらなければなりません。そうでなければ、我々は彼に如何なる条件をも提供しないください。彼は法輪功の修煉者ではありません。他の功法を練る人は法を学びに来たいなら学びに来ればよく、縁に任せればよいのです。人を学びに来させて、人を連れて学びに来て、あるいは学びたくないのに、皆が学びに来たから自分もついてきました。こういう状況であれば、あまり良いことではないと思います。一部の人は済度しても済度しなくてもいいので、われわれは縁に任せます。彼がどれくらいの人を連れて来たかを重く見るべきではなく、これらの人が法輪功を修煉できるかどうか、専一に修煉できるかどうか、重要な問題です。皆さんは帰ってから一つの法を学ぶブームを起こすべきであり、この要求は普遍的に実行できることであり、認識できることです。そうしなければ、こういう問題は将来ますます目立つようになるはずですよ。

弟子：我々は煉功の責任者を増やしてもよろしいでしょうか？

師：いいです。人を増やして、あなたたちが自分で選んで、一人か二人を増やしても構いません。必ず法に対する理解が比較的深い人、熱心にこの仕事を取り込む人を選択しなければなりません。

弟子：ある学習者は、私がすでに三花聚頂に達し、八月十五日、李洪志先生は私の「法身」を連れて行ったと話しています。

師：皆さん、気を付けてください！ このような事はすべて各種の執着心によってもたらされた幻覚です。このような人は、相次ぎ幾つかの地区で現れました。正にあなたが今話したように、彼はかなり危険です。彼は、私はすでに三花聚頂に達した、どれほど能力がある、最後には私はすでに佛になった、あなたたちは李洪志について学ばなくてもよい、私について学びましょう！ と言うかもしれません。そのまま進めば、最後にはこのような問題が現れます。このような人に対してすぐ指摘してあげるべきであり、彼にこれらの執着心を放棄させるべきです。こういう状況では、大変問題になりやすいのです。最初にはこれらの人はとても私を尊重し、私に血書を書いた人もいます。指先を破って血書を書いて、法輪功の修煉を最後まで続けると表明しました。結局、彼は自分が「佛」になったと、「あなたは李洪志について学ぶことをやめよう、私について学ぼう」と言い出しました。彼は落ちてしまい、名利を求める心、歡喜心、さらに魔の妨害により、自ら抜け出せなくなりました。人の前では彼はやは

り法輪功が良いと言っていますが、実際は、彼の行為は法輪功を破壊しているのです。これは正に私が話したように、「法輪功は本当に素晴らしい、法輪功を学んだら何でも気にする必要はなくなり、見てごらん私がこの本を持って車道を歩いても、車は私にぶつかることができない」と言う人と同じです。彼はこれで法輪功を破壊しているではありませんか？ 表面上では法輪功を擁護しているようですが、実質上は、法輪功を破壊しているのです。

弟子：この間、広州地区の気功科学研究会が行なった気功の実演の問題について。

師：一部の地区の気功科学研究会は体育委員会に属しているのです。体育委員会は気功を一種の体育活動としています。大衆的な体育活動として、時に各門派の各種功法と一緒に活動を行ない、まるで体操のようにしています。ある状況下で行なった気功活動なので、彼らはそれを一種の体育活動として考えており、良くない事として扱っていません。このような事に我々は参与したくないのですが、彼らがどうしても行ないたいければ、その意見を尊重する意味で、我々は学習者を連れて参加してもよいのです。体操をするように動作を実演すればよいのです。ただし注意すべきことは、我々はそれを何かの意味がある事としてするのではなく、やむを得ず、気功科学研究会の要求に応じて行なっただけです。これを学習者の皆さんにはっきり説明して、我々と一緒に一、二式の動作を実演して、彼らの体育活動を支持することを示します。特別な状況下でこのようにしても構いません。しかし一つの特例があります。つまり、もし他の気功師が場を組んで実演するようなことがあれば、我々は一切参加しません。単純な、体育活動のような行事なら構いません。これは皆さんがしっかり把握しなければなりません。

また一つの問題があります。今われわれの各地輔導站はみな法輪功を広めています。一部の地方では講習会の形式で行なっています。我々はやはり「講習会」と呼ばずに他の名称で呼んだほうがいいです。この事を行なう時、誰もこの法を説くことはできず、無論そうしてはいけません。もし誰かが演台に立って法輪功を論じたり、どのようにすべきだと話したり、この法を説いたりすれば、それは彼が邪法を伝え、大法を破壊しているのです。法輪大法は一つしかありません。もし彼が本を持って読むなら構いません。われわれの輔導站の責任者が誰かに本を持って読ませるのであれば、それは構いません。

その他に、皆さんを集めてビデオを見せてもよいです。これは全部の説法のビデオを指しています。第一講を見てから、止めて功を学びます。翌日に第二講を見てから、

また止めて功を学びます。

あるいは、録音を聴いてもよいのです。一講ずつ聴きます。それから専任の人が動作を教えます。これは問題ありません。動作は皆さんと一緒に学んでも構いません。われわれは今後このような形式を採用すべきであり、これは一番いい形式です。われわれは皆さんを集めて一緒に功を学んで、これは問題ありません。

それに、個々で学びに来る人は煉功場で皆さんと一緒に煉功すればよいのです。それから本を読み、録音を聴くようにすればよいです。このようにします。しかし、一つ気を付けなければいけないことがあります。われわれは断じてすべての功を伝える活動を如何なる営利的な性質のものにしてはいけません。我々は備わる条件に合わせて行なえば良いのです。料金を取ってはいけません。我々は教室を借りたり、会議室を借りたり、あるいは人が多い時に講堂を借りたりしても構いません。このようにしてもよいのですが、料金を取ってはいけません。我々はすでに断言しており、営利の仕組みにしてはいけません。くれぐれもこの点に注意してください。もし極めて特殊な状況があり、多くの学習者、多くの法を学ぶ人がいる場合、大きな場所が必要になりますが、なかなか貸してくれるところが見つからず、どうしても講堂を使用したいのですが、講堂を借りるには使用料を払わなければなりません。このような極めて特殊な状況では、北京に直接連絡してください。もし本当にこのような状況であれば、講堂を借りるだけの費用を取ってもいいです。一銭も残らないようにしてください。要するに、我々の手元には貯金をしてはならず、輔導站にも貯金をしてはいけません。如何なる営利活動をしてはなりません。この問題に関して、私はすでに皆さんに明確に話しました。これはとても厳粛な事です。我々の功派は正しい道を歩むことができ、この一点においては他の功派とは根本的な区別があります。

弟子：上海からの話によれば、ある講習会に参加したことのない法輪功の煉功者は、皆を集めて煉功する前に、「尊師李洪志を拝し、大法法輪功を学び、心性真善忍を修め」と唱え終えてから煉功し始めます。煉功終了時に「しっかり収めます、先生に感謝します」と唱えます。彼は先生に対する崇拜だと言っています。

師：彼は講習会に参加したことがありますか？（答え：そうです）あなたが言ったこの事はとても重要なことです。多くの地区の学習者は、彼は本を読んで、あるいは個別のものは録音を聴いてから、とてもすばらしいと思いましたが、どのようにすればよいか分からない場合、このような問題が現れるかも知れません。他の地区でも将来現れるはずで、皆さんはくれぐれも注意してください。このようなことを聴

いたら、あなたがどの地区の輔導站の人であっても、こうすべきではないことを、彼に教える責任があります。このようなことによって、法輪功を学んだことのない人を知らないうちにその形に連れて行ってしまいます。実際はこの人は講習会に参加したこともなく、あまり分かっておらず、この機会を借りて自分を表現したい可能性があります。しかしこの人に対して結論を下してはならず、将来彼は学習に参加した後、この問題に如何に対処すべきかが分かるはずで、これは確かに重要な事です。皆さんはくれぐれもこのことに注意してください。どの地区でこの事が現れたにしても、輔導站は聞いたら、彼に近い地区であれば、皆さんは電話あるいは他の形式を通じて彼を止めるべきであり、このような事を正さなければなりません。

上海のところは、将来私は行く機会があるはずで、私はずっとそう思っています。

弟子：ハルピン総輔導站が一部の輔導員を連れて長春へ学習に行った問題について。

師：ハルピンの状況はかなり良いです。一部の輔導員は長春に行って総輔導站の企画した修煉体験交流会に参加した後、彼らの認識もかなり向上できて、各種の活動を展開しており、この方面ではとてもいいのです。長春の総輔導站はすでに私にハルピンの状況を説明したので、私はすでに知っています。ハルピンの夏はとてもいい季節で、特に松花江の岸辺で皆さんと一緒に坐って本を読むことは、とてもいいことです。

弟子：先生を要請して大慶市で講習会を行なう事について。

師：講習会を行なう事についてはもう聞かないでください。将来私は統一に按排することにします。今、要請状がかなり多く、大慶からの要請状を私は二通見ました。去年ハルピンの講習会の時、大慶から学びに来た人もいました。

弟子：先生が講習会を行われたことのない地方で法を伝える問題について。

師：こうすればよいでしょう。今回広州で法を聴いた後、皆さんは帰ってから講習会に参加したことのない学習者を集めて一緒に話してみましよう。皆さんが録音を撮っている場合、皆と一緒に聴いてもよいのです。済南の録音テープもあり、とても良くできています。皆さんを集めて一緒に録音を聴いてもいいです。始めから終わりまでずっと録音を聴くばかりではなく、一段を聴いてから止めて、自分が理解できる程度のことを皆さんに話してみて、さらに皆さんから自分の理解を話してもらって、活発な雰囲気の中で行なってください。

弟子：賛助の問題について。

師：他人がいくらお金持ちであっても、いくら法輪功に賛助したくても我々は要りません。なぜでしょうか？ あなたが貯金してもいいなら、他の輔導站も貯金してもいいのではありませんか？ すべての輔導站が皆貯金したら、このまま続ければ、将来、お金の問題に触れると、すぐ人心が変わってしまいます。ですから我々はこのようにやりません。もしこの人が本当に法輪功のために貢献したければ、例えば資料の購入や、あるいは我々が法を学ぶ活動を展開する時に、彼に活動に有益なことをしてもらったり、実物として貢献してもらえば、これは構いません。

弟子：天目が開いている輔導員はどのように把握すべきでしょうか。

師：天目が開いている輔導員はどのように把握すべきでしょうか？ 普段皆さんの修煉がよくできている場合、彼らに何にも言わないほうが良いのです。まだ足りないところがある学習者に対して個別に教えてあげて、どこがまだ向上する必要がある、どこに問題があると、このように教えたらいいです。あなたがもし公に、あなたの法輪はどれくらい大きく、彼の法輪はどんな様子だと言うなら、皆さんは毎日あなたを囲んで、これを聞いてばかりになってしまいます。また自分がどれほど高く修めたかを聞く人がいます。くれぐれ勝手に言わないでください。教えてあげれば、その人は執着心が起こります。この点はしっかり把握しなければいけません。

弟子：煉功は職場で積極的な支持が得られていると言う人がいます。

師：多くの地区、寒冷な地区で、冬に煉功するのは大変苦しいことです！ 一部の職場は積極的に支持し、煉功場所を提供してくれています。このような例もかなり多いのです。われわれの影響はとていいからです。学習者は煉功を終えてからその場所をきれいに掃除し、雪が降った時、庭もきれいに掃除することもあります。われわれはどこでも素晴らしい行動をしているので、職場は自然に便利な条件を提供してくれます。

弟子：法輪功学習者が集まって修煉体験を交流することについて。

師：長春では録画を撮りました。学習者は心を打たれる話を語り、聞いている学習者もかなり感動して、涙がこぼれる人もいました。交流会は非常に充実しており、雰

気も非常に良く、皆さんも非常に喜びました。まさにあなたが先ほど言ったようにその場において、私本人がいない以外に、すべて揃いました。我々の講習会の時と同じく、その場は非常に強いのです。それはまさに法輪功の集結であり、法会と同じです。だから効果はとていいのです。将来学習者が多くなったら、このように修煉体験を交流したほうがいいでしょう。学法を通せば、とてもよく教育できます。功を学んだあとにどんな収穫があったかを学習者自身が話すのは、ある方面から見れば、我々が話すよりも生き生きとしているのです。

弟子：皆さんが修煉体験を交流することです。

師：高次元に達してから見えるこれらのものはすべて縁によるもので、次元の向上によるものです。このようなものは交流してはいけません。交流というのは、ただ皆さんが心性の修煉において如何に向上することだけです。われわれは正法修煉なので、複雑な環境の影響を恐れていません。

弟子：法輪功輔導站と現地の気功協会との関係を如何に正しく対処すべきでしょうか？

師：これはとても重要な問題です。私が先程言いましたが、原則としては現地の気功科学研究会、人体科学研究会あるいは気功協会の人、我々の管理の仕事に参加してはならず、法輪功輔導站の責任者、輔導員になってはいけません。しかし我々は彼らとの関係をよく協調しなければなりません。なぜなら、今中国気功科学研究会には、明文された規定があり、つまり直属する功派は修煉において本派の先生により自ずから管理しますが、地方行政において彼らの管理に属します。しかし、我々には行政管理はなく、功派の管理も非常に緩やかな管理なのです。我々は輔導站の責任者を彼らの所に届けを出したり、正式的な会議があれば我々の責任者を参加させたりするのは構いません。しかし、もし我々の学習者を誘って他の事を行なえば、それは我々の規定に符合しない場合、我々には行ないません。これらの事は彼に明確に言ってもいいのです。もし彼らは何らかの有益な活動を企画し、他の問題に及ばず、体操をするようなもので、何百人のような大衆的な活動なら、各功派が集まって、幾つかの動作を行ない、どのチームがよくできるかを競い合って、そして優勝者を選出して奨励します。これはあくまで体育事業の発展を促進するための行為であり、体育活動なので、参加しても構わず、問題ありません。われわれの功派を利用して他の事を行なうなら、それははいけません。このことを関係者に明言すればよいでしょう。

地方の関係部門への届け出は、彼らの所に登録してもよいです。登録したにしても大した活動はありません。ほとんどあまり関わらないのです。たまにどの気功師が講習会を開く時、参加するように呼びかけられますが、信じるか、信じないか、学習者が自分で把握すればよいです。彼らに呼びかけられても、学習者は自分で行かなければ、それだけの問題です。人体科学研究会はあまりこれらの事に関わらないのです。広州の法輪功総輔導站はすでに広州市人体科学研究会に登録しています。現在ではなく、かなり以前にすでに登録しました。何かの活動があれば我々の責任者は参加してもよいです。それは問題ありません。つまりこのような関係です。大連のような、多くの地区の気功科学研究会と我々との関係は非常によく、彼らの中に多くの人は法輪功を修煉しています。こうして我々法輪功の活動の展開、大衆の煉功に対してとても便利な条件を提供してくれました。障害はなく、これは非常によいです。つまり如何に彼らと関係をよく協調できるかの問題で、我々は原則をしっかり守り、つまり法輪功に規定した原則は我々が堅持しなければなりません。他の事情に至っては、取るに足りない些細なことなら大した問題にはなりません。

弟子：僧侶や居士にどう勧めたら良いでしょうか？

師：時間の推移に従って、彼らは恐らく最後に取り残されて認識するようになります。今から見ればほぼこのような形勢です。先に法を得るものはすでに全部得ました。将来の状況を見ましょう！ 当時私が出山した時、この事に関して、明確に私に言いました。これらの人はそれらのことがもう確実に存在していないことを分かった時、むなしく感じるようになるでしょう。一部の人は還俗するかも知れず、一部の人は法輪功を修めることになるでしょう。このような問題が現れるはずです。これは暫く後の事です。居士ならまた解決しやすいです。居士は社会において往々にして気功を学んでみたい、あれこれ、外へ捜しに行つて、法輪功に出会えたら学びたいければ、本当にのめり込んだら、つまり法に対して理解でき、真に認識できるなら問題ないです。すでに出会ったので、学び続けていけば、きっと認識できます。重要なのは法を学ぶことです。彼らをまとめて法を学んでください。

弟子：精神異常の人に対してどう対処したら良いでしょうか？

師：この問題について次のように対処しましょう。もしその人の話の様子や立ち振る舞いが異常であれば、これは間違いなく法輪功を学ぶ要求に符合していません。このような問題が現れた人は、おおよそ次のような状況です。一つは彼自身の根基が良くないかも知れません。もう一つはこの人は根基がいいが、執着心のために放下できな

いものがあるから、良くないものを招いてしまったのです。この二つの原因でもたらされたことにほかなりません。彼に説明して、放下でき、分かってくれば、それで良いのですが、分からなければ、われわれも仕方ありません。もちろん、最も有効な強制的な方法が一つあります。もしこの人が非常に良く、周囲に影響も大きいならば、我々は彼の状態に合わせて、皆一緒に彼に向かって本を読んで、彼に学びたいかどうかを聞いてみて、彼が学びたいなら、我々は彼と一緒に本を読み、皆さんは彼を囲んで本を読んで、彼に向かって読みましょう。本を読む時、部分的に選択して読んでもいいです。彼は精神がおかしいので、それが魔を招き、魔を生じたのではありませんか。彼に向かって本を読み、彼に聴かせて、彼自身も読んで理解します。彼の主元神が強くなれたら、目が覚めてきます。分かるようになったら、目が覚めるようになるでしょう。もし彼が目覚めずに、しかも我々の力を牽制すれば、この人によって我々の学習者が影響されないようすべきだと思います。おおよそ精神がしっかりせずに、おかしくでたらめな話を言ったり、あるいは自分がどんなに高いかを言ったり、あるいは摩訶不思議なあいまいな話を言ったりする人は、きっと精神に異常があり、この人にきっと問題があります。これらの人に対し、もし輔導員であれば、すぐ止めさせなければなりません。もし一般の学習者であれば、我々は注意してあげて、それでも直らなければ、煉らないように勧めましょう。彼が煉ろうとするなら、皆さんは誰も彼の言うことを聴かないで、誰も彼のそばに近づかないようにしてください。誰もこのような人に活動の環境を提供しないでください。環境がなければ、その魔はやる気が無くなるのです。彼の話聴く人がなければ、彼は我々の法を破壊できず、彼もやる気が無くなるのです。

弟子：『文芸の窓』の問題について。

師：『文芸の窓』の事について私はすでに彼らにこの問題を話しました。編集者から原稿の提供者まで、彼らの目的は法輪功を破壊しようということではなく、法輪功を宣伝したいのです。しかし彼らは往々にして文芸の角度に立ってものを書きます。文芸作品なら、編集したり、誇張したり、随意に發揮したりして、任意に行なうことができます。私はすでに彼らに言いましたが、できるだけわれわれのこの法を理解したうえでしてほしいのです。この原稿の提供者はすでに何回か講義を聞いたことがあり、しかし彼が一回講義を聞いた後、とても素晴らしいと思って、とても感動したので、すぐ書き始めました。しかし彼は深く理解できず、しかもその後の数回の聴講は、それを書くために聴いていたので、メモを取るのに気を取られて、結局よく聴き取れず、深く理解できなかったのです。最初に提出した原稿はそれほど大きな問題がなかったのですが、その編集者はただ数回講義を聞いただけで、気ままに編集を加えたり、勝

手に直したりしたので、面目が全く変わって、仕上がったものはそんな様子になってしまったのです。しかしはっきり言えるのは、彼らの出発点は法輪功を破壊したいということではなく、これは間違いのないことです。それにしても我々に一定の影響をもたらしたことは確かです。私はこう思います。彼らの出発点は良いもので、破壊しようということではなく、ただ言葉の使い方や想像力で発揮されたものは法輪功の要求に符合していない部分があります。もちろん、このものを私は見ず、一冊も見ませんでした。我々は学習者にはっきりとこの事を言うておきます。それを我々の修煉のよりどころとしてはいけません。我々の修煉のよりどころは現在出版された法輪功の本であり、正式に発行された本あるいは私の講義の録音です。私自身が修煉していたそれらのものに関しては、適当な時期になれば、私はそれを書くつもりです。今書くつもりはありません。今は法を伝える時期で、書き出したら人々は信じても信じなくても構いませんが、学習者はそれほど高い認識がない時、ある種の神秘的なものや機能などを追求するかも知れません。その他に、理解のできない者はあなたはこの……と思うかもしれません。

弟子：どのように学習者を組織して体験交流を行なうかについて。

師：われわれは選択的に、事前に彼が何を話すのかを確認した方がよいです。特に大型の交流会を開く時、必ず発言の原稿を審査しなければなりません。一つの注意すべき問題があり、もしある学習者が一言間違っただけを話してしまったら、我々のこの事に問題をもたらすことになるかもしれません。

弟子：寄付のことについて。

師：私は先程言いましたが、もし彼の営業状況が非常によく、会社の規模もかなり大きければ、彼が賛助したければ、或いは彼は国外から来た者で確かに経済力があり、彼が我々に賛助を与えようとしても、我々の各地の輔導站は受け取らないでください。彼は力添えしたいのなら、この状況が現れたらどうしたらいいのでしょうか？ 皆さんは彼に研究会へ連絡させればよいです。我々は統合して安排し、まとめて修煉の拠点を建設します。将来学習者はあっちこっちへ走り回らなくてもよく、幾つかの地区で、北部地域や南部地域でわれわれは幾つかの修煉の拠点を作ります。今まで我々は一切寄付を受けたことはありません。

弟子：煉功の動作の問題について。

師：更に高い次元に突破した時、如何なる動作もなくなり、ただ座禅するだけです。佛家にしても、道家にしても、いずれも座禅するだけです。それは完全に自動的に功を形成するようになり、自動的に上へ伸びていきます。あなたが心性を高めさえすれば、その功が伸びていきます。くれぐれも注意してください。一旦他の動作が現れたら、必ずそれを排斥しなければなりません。学習者にはっきり説明してください。先生が教えていたのを見えた人がいますが、それは偽物です。私は絶対このように皆さんに教えるわけがありません。

弟子：手印を真似て結ぶことについて。

師：その手印を真似ないでください。なぜでしょうか？ その手印は私が学習者に語った言葉です。私が今日話した言葉と同様に、あなたは私の角度に立ち私の話を語ってはいけないことと同じ道理です。

弟子：広東からの話ですが、ある人が「私は法輪功の第何代目の伝承者です」、「李洪志と同門です」と自称しています。

師：この人はもしかしたらめちやくちやな憑き物に取りつかれているかも知れません。お金を稼ぎたいとか、法輪功を破壊したいとか、全部この類のものです。皆さんにはっきり言いますが、この世において法輪功を伝えているのは、私一人しかいません。法輪世界の他の誰であっても、彼はここに下りてきて法を伝える勇氣はありません。この事を皆さんにはっきり言っておきますが、つまりこの事を行なう他の人は誰もいません。私の同門兄弟なども存在しません。皆さんはすべて輔導站の責任者なので、私は皆さんに少し高いことを話してもいいのですが、我々のこの法輪功は、他の功派と違い、私が今生で誰それについて学んだということはありません。皆さんは読んだと思いますが、本の中に私には師父がいる——全覚法師等々、また何らかの法師がいると書いていますが、これはどういうことなのかを皆さんに教えましょう。この全覚法師および八極真人等々、これらの人ですが、皆さん知っているように、天象がこの一步に進んだ時、あるいは歴史のある段階でこの大きな事を行なう時、すべての歴史がこの一步にまで進んできて、あるいは発展の進む過程に現れた現象は、すべてこの法のためであるかも知れません。そうすれば、この過程の中ですべての魔は全てこの法を破壊するためのものであるかも知れません。つまり、我々は今日この一步まで歩んできたので、私が生まれた時、すぐ悟りが開かれるわけにはいかず、開かせてもらうわけにもいきません。そうなれば、人を濟度することができず、私はやるべきこともできなくなります。この段階においては私の以前のものを私に提示してくれる、彼

の方式で私に悟りを開かせる人が要ります。この人はつまり私の言った全覚法師です。悟りを開いた後、私自身のものが分かりました。その後、半分閉ざされる状態でまた他のものを学びました。私自身のものは動かされていません。多くの方は私が来たことを知っており、この人も私に良いものをあげたい、あの人も私に良いものをあげたい、いずれも私に彼の一門のものを承認してもらいたくて、将来彼が保護され残されることを望んでいるにほかなりません。つまりこういうことです。我々はここで少し高いことを話しました。もちろん良いものにも、悪いものにも、それを量る方法が必ずあります。良いものは必ず保護されるし、悪いものは取り除かれるかもしれないのです。しかし本当にこの法輪功を伝え、この事を行ない、つまり真に法輪功この一門のものを代表する者は私しかいません。他に誰かいるはずはありません。

弟子：広西省で輔導站を設立したいのですが。

師：宜しいです。そこに今学ぶ人がどれくらいいますか？ 百人あまりですね。広州の学習者はあなたたちを手伝い、あなたたちと相談して、輔導總站を設立することを手伝ってもらいます。あなたたちはまだ日が浅いので、しばらくの間、広州に頼んで代わりに管理してもらってもよいです。将来あなたたちが独自に活動できるようになったら、独立すればよいです。

法輪大法北京輔導總站による録音

北京法輪大法輔導員会議での法を正すことに関する意見

李洪志

一九九五年一月二日

皆さん新年おめでとうございます！

お正月休みなのに会議のために皆さんに集まってもらったのは、この会議を開かなければいけないからです。多くの学習者はすでに知っていますが、私は間もなく国外に行って功を伝えることになっています。時間の余裕がありませんので、やむなく皆さんに集まってもらいました。というのは、幾つかのことを皆さんに話さなければならぬからです。そうでなければ、今すでに幾らかの兆候が現れており、これによって我々大法の健全な発展が影響されるかもしれません。

まず法輪大法の伝播の状況について話します。皆さんが知っているように、我々のこの法輪大法の全国各地での影響は比較的大きいものです。今気功界の指導者、また各地の多くの気功組織、各省や市の気功科学研究会はみな次のような感じになっています。つまり、他の気功グループはみな沈滞気味になっているのに対し、法輪大法だけは上り調子の勢いをなしており、しかも発展は非常に速いのです。これは各地の気功科学研究会や気功管理部門の責任者が言ったことで、私が言ったことではありません。これによって一つの問題が明らかになりました。何の問題でしょうか？ つまり、我々大法の発展は益々速くなり、人数は益々多くなっているということです。こんなに速く発展できるのは、二つの方面の原因があると思います。その一つは、多くの気功は偽物であり、人を騙すもので、道徳を重視しないので、一回か二回人を騙すことができても、時間が長くなれば、人々は分かるようになります。これが一つの方面の問題です。もう一つの原因は、我々法輪大法が伝え出されてから、我々は学習者に責任を負い、社会に責任を負うことに基づいて、多くの人に本当に受益させることができ、多くの人々が本当に大法の修煉の中で社会の気風に良い促進作用を発揮できました。ですから、非常に良い効果が得られました。つまり法輪大法の伝播は非常に速く広がっており、現在より多くの人々に認識され、ますます広く伝わっています。しかし、ここで私ははっきり言いますが、良い形勢の中から我々自身の不足も見えています。これは確かなことです。我々の各地の輔導員や多くの煉功者、及び一部の古い学習者の多くの行為は大法の要求から大きくずれています。これはある程度、法輪大法を破

壊し、一種の破壊作用を果たしています。我々は一人の学習者として、一人の法輪大法の修煉者として、特に輔導員の仕事を担当している場合、周りの人はあなたを一人の個人と見なしておらず、一人の普通の煉功者と見ていません。あなたがいかなることを行っている時も、周りの人は常にあなたを一人の法輪大法の修煉者と見なしており、法輪大法の形象を代表していると思っています。これは非常に重要なことです。全国各地では多くの人々は法輪大法の素晴らしさを知っており、その素晴らしさは心性の修煉を重んじることで、それは最も根本的な問題を明らかにしたからです。法輪大法の修煉者はみな心性を重んじるので、周りの人々は法輪大法を修煉するあなたたちを観察しており、あなたたちの一挙一動を注目しています。あなたの行動に問題があれば、人々があなたたちは口で言うだけで行いは伴っていないと思っています。もしあなたたちが口で良いと言っても、実際はその通りでなければ、人々にこのような感覚を与えてしまいます。私に言わせれば、これは良くないことです。

先程、私が言ったのは功を伝える状況です。我々もこのような状況が見えたので、この会議を開くことにしました。それと同時に私は外国に行く前に必ず皆さんにこの問題を話さなければなりません。なぜなら、北京で法輪大法を修煉する人数がわりと多く、一定の影響があるからです。私が外国に行って功を伝えることは国内で功を伝えることと同じです。皆さんが知っているように、私は今日東北に行き、明日西南に行き、明後日南方に行き、それからまたあちこちに行ったり来たりして、いつもこのように回っているではありませんか？ 外国に行っても同じです。地球を一周回っても二日しかかかりません。私がどこかに行ったら永遠に戻らなくなるわけではありませんが、多くの人はこのように考えているようです。また「李洪志が去ったら、私が大王になれる」と言う人がいます。どんな考えを持つ人もいます。

われわれ法輪大法の修煉は人の心性の修煉を重んじるので、あなたの一挙一動が修煉者の基準に符合しなければ、われわれの学習者はみんなそれを察知することができます。しかし、一部分の人はこれらの間違っただけの傾向、誤った表現を明確に認識することができず、これは学習者の多くの執着心、顕示心、各種の心が取り除かれていないためにもたらされたことです。皆さんはこの法の素晴らしさを知っており、この法が人を済度する役割を果たすことができることも知っています。それでは考えてみてください。この法は人を済度することができますが、なぜ人を済度することができるのでしょうか？ なぜ人を良くなるように変わらせることができるのでしょうか？ その先決条件としては、あなたが良くなりたくなければ、誰もあなたを済度することはできません。しかも、あなたが良くなるということは、あなた自身が良くなりたかったからです。故に一挙一動でも真の修煉者の基準に符合しなければなりません。こ

これは非常に厳粛な問題です！

ある人はその顕示心が非常に目立っており、このまま続けていけば、法を破壊しかねず、その他一部の講習会に参加したことがない人や各煉功場の人に間違った認識をもたらし、場合によってはこれらの人もその人に追随して訳も分からずでたらめなことを行うかもしれません。ここで話しているのは、一人の輔導員としての責任の問題です。輔導員の責任はとても重要なのです。私は広州へ功を伝えに行く前、こう話したことがあります。つまり「輔導員の責任は寺院の住持に劣らない」ということです。なぜこのように言うのでしょうか？ 本当に高次元へ功を伝えることは、つまり人を済度する問題です。本当に修煉に専念している人は、彼も真に修煉している人であり、ただ彼は宗教の中で修煉していますが、われわれ大多数は社会のこの形式の中で修煉しているのです。いずれも修煉する人なので、みんな一緒に煉功し、一緒に切磋琢磨し、一緒に向上する面においては、その責任者、つまりその輔導員はお寺の住持と同じ役割をしているのではありませんか？ 私に言わせれば、末法時期には、われわれ法輪大法の学習者の心性は和尚の心性よりも高いのです。それでは、われわれの輔導員は寺院の住持、方丈よりも高いはずですが、我々の一部の輔導員はこの要求に達しているのでしょうか？

もちろん、我々在席の皆さんの中に講習会に参加したことがないのに輔導員になった人がいます。これは一つの問題です。しかし、この点に関して我々は反対しません。将来全国各地の煉功者がみな講習会に参加してからはじめて輔導員になれるようなことは不可能です。重要なのはあなたが輔導員としての基準に符合しているか、法に対してどの程度まで理解できているかのことです。もし言葉づかいや立ち居振る舞いさえも修煉者らしくなく、大法の修煉者らしくなければ、このような人は輔導員になってはいけません。われわれの修煉の目的はとても明確なので、つまり高次元へ修煉できることです。これについて講習会でわれわれはすでにはっきりと説明しました。考えてみてください。道を得たその真人、あるいは佛家が言ったその佛、菩薩は、あなたのような言葉づかいをするのでしょうか？ あなたのような不純な思想があるのでしょうか？ あなたのようなやり方で物事をするのでしょうか？ もちろん、われわれは皆さんに対してこんなに高く要求しているわけではありません。皆さんはあくまで修煉中の人です。しかし、あなたは厳しく自分を要求すべきではありませんか？

大多数の学習者、大多数の輔導員はみな非常によくできており、大きな貢献をしまし、皆を集めて学習することに苦勞しています。われわれはみな自発的に修煉に

来たので、あなたに官職を与えたり、成果を約束してあげたり、お金を儲けさせたりすることはありません。われわれは何の権力もなく、やらなければいけない義務もなく、いくら給料を貰えるということもありません。皆さんはみな自発的に無償で働いており、熱意と法に対する敬愛によってこの事を行っているのです。そうであれば、なぜわれわれはこの事がよく行われなんでしょうか？ 先ほど私が話した講習会に参加したことがない人に対して、将来われわれは定期的に新しい学習者あるいは輔導員に対して養成訓練を行う必要があります、必ずこうしなければなりません。さもなければ追いついて来られないのです。古い学習者が一人もいない地区もありますが、それにしても輔導站を作らなければなりません。その場合、彼らに対して必要な養成訓練を行わなければなりません。もちろん養成訓練はこれからの事ですが、あなたが講習会に参加したことがあるかどうかに関わらず、我々の要求としては、今からすべての輔導員はこの法をよく理解できるようにしなければなりません。われわれの能力のある人、若くて精力旺盛の人は、年を取って記憶力が良くない人を除いて、皆さんはこの本を暗記すべきです。私が提出したことはかなり高く、要求したことはあまり高すぎたかもしれませんが、多くの地区で、多くの学習者がみな非常によく暗記できており、法を学ぶ時に本が要らなくなり、みな暗唱できます。この人たちに比べてみれば……私は故郷が東北にありますが、いつも北京に滞在しており、北京は研究会の所在地でもあり、私がここで行なった講習会の回数も割合多く、つまりわれわれの現在の基礎はここにあるのです。ですから、われわれ北京の学習者は率先して模範の役割を果たすべきだと私は思います。本来ならこの率先して模範の役は北京の学習者が果たすべきですが、現在全国各地の学習者はみなすでに学び始めました。

法を学ぶことはどんな良いことがあるのでしょうか？ それはつまりわれわれの学習者が問題にぶつかったら自分で解決できることになるのです。もう一つは、もし誰かがでたらめなことを行うなら、学習者は自らそれを識別できることになるので、邪なこと、でたらめなことを行おうとする人はそれができなくなり、周りに許されないのです。今後我々は規範を設けて、あなたが法輪大法を修煉するならば、あなたが我々のこの大法の中で修煉したければ、あなたは法を学ばなければなりません。ただ動作を煉るだけではわれわれは認められません。これは皆さんに対する要求が高くなったわけではなく、この事はすでにひどくわれわれのこの法の名誉を傷つけたからです。動作だけを煉って心性を修めず、社会において何の配慮もせず、やりたい放題、常人の中で常人の行為よりも良くなく、私に言わせればこれはいけないことです。ですからこのような要求を出しました。

われわれの一部の学習者は顕示心を取り除かれていないため、このような様々な情

況が現れました。例えば、常に自分を顕示したい人がいます。私はここでわれわれ輔導員のことを指しており、これは輔導員の会議だからです。私が学習者のことを指摘しても、学習者には聞こえないので、ここではわれわれ輔導員のことだけに話しています。顕示心が取り除かれず、この中に存在している一つの主要な原因はわれわれの多くの輔導員は法に対する理解が非常に低く、一般の学習者にも及ばないからです。これによって一つの問題が生じます。つまり学習者が分からない問題にぶつかった時、以前には本を読まず、学ばず、本を読んでも続かず、そうすると次のような事が現れます。つまり彼はさまざまな解決できない問題にぶつかったら、輔導員に聞きに行きます。輔導員は聞かれると、われわれの輔導員自身の心性の問題で……輔導員も法を学ばず、本を読まず、法に対する理解は中途半端なのです。それによって次のように思う学習者がいます。「もし私が答えられなかったら、私は威信を失ってしまい、皆さんを呼び集めて一緒に煉功することが難しくなるのではないか」。もちろん、目的はこの法を護るためかもしれませんが。つまり皆さんを呼び集めて一緒に煉功することはやりにくくなるのではと心配しているのです。そのために一部の輔導員は自分がまだ分かっていない問題に対して勝手に結論を下し、でまかせで話し、あるいは自分の感覚に頼って話してしまうのです。これは実質上、法を破壊することであり、非常に嚴重に法を破壊することです。私が以前この問題について話したことがあり、自分の感覚に頼って、自分のいる次元で悟ったことに頼ってこの法を解釈してはいけません。この問題についてすでに明確に説明したのではありませんか？ つまりこういう問題です！ ですから我々の皆さんはくれぐれもこの事に気を付けてください。

皆さんの目的は良く、この法を護るためです。自分の威信を高めるためではなく、「皆さんを呼び集めて煉功することができなくなれば、自分が仕事をうまくできなくなる」と心配しており、このような目的に基づいているかもしれません。しかし、私は皆さんに教えますが、この問題を解決する唯一の方法、唯一の方法は、あなたがこの法を会得し、この法を深く理解することです。それができれば、人に聞かれたら、あなたはこの法に従って説明すれば、すなわちこの法を講じているのです。機能の状態の各種の現われに関して、説明しなくてもよいのです。「さまざまな機能には万種類に上る機能の表現形式があり、どうやって説明してあげるのですか」と言えばよいのです。各種の状態、この状態、あの状態がありますが、あなたが自分を一人の煉功者とするなら、あなたはそれらのことに構わなくてもよいのです。ある状態はあなたが感じ取ることができですが、ある状態はあなたがまだ感じていないうちにすでにその段階は過ぎてしまいました。その機能は万種類にも止まらず、身体の中でちょっと動けば感じられます。その機能の中には強大な電気、強大な磁気を含んでおり、まだ他のものがあり、それらのものが動くときあなたに感覚があり、非常に敏感なのです。

さまざまな状態、また進化によって生じた各種の生命体、これらのことをどうやって解釈してあげるのでしょうか。これらのことは解釈してあげなくてもよいのです。「これらのことはすべて正常な反応で、みな良いことです」と言ってあげたらよいでしょう。もし法を深く理解できたら、われわれは法に基づいて説明してもよいです。われわれは以前ずっとこの法を守りたく、皆さんに多く解釈してあげたいのですが、しかし、皆さんがよく理解できないことを心配していました。その主な原因はわれわれが法に対して深く理解できておらず、故に人に説明することができず、説明できないから面子を失うことに恐れ、でまかせに話してしまうからです。そういうことは嚴重にこの法を破壊することではありませんか？

この顕示心がもし発展していけば、個人の名利に対する追求を助長するはずで、それは元々名利に対する追求から生じたものだからです。更に発展していけば、自分の勢力を形成し、自分はボスになるでしょう。そうなれば、「あなたたちはみな私の言った通りにしなさい！ 李洪志さえも何かをする時、私の言った通りにしています」と言うでしょう。いずれも学習者は知らないのです、彼は勝手に言うのです。甚だしきに至っては、彼は「李洪志も魔だ！ 私の言ったことこそ正しい」と言うかもしれません。現在このような人がすでに一人現れたのではありませんか！ これらの問題が現れたら非常に深刻なことです。われわれのこの法の中で、われわれの今在席の輔導員の中、われわれ北京のこのところで、このような事件はもう二度と現れるべきではないのですが、それでもやはりまだ現れました。このことはわれわれが法に対する理解が非常に浅いことを物語っているのです。そのために、現在何人かの人は過激なことを行い、非常に問題になっています。また一部の人は盲目に彼を崇拜しています。これらの事に関して、われわれはそのこと自体を問題視しており、人を指して言っているのではなく、つまりその事だけを言っているのです。皆さんはくれぐれもこれらの問題に注意しなければなりません。

もう一つの状況はわれわれの輔導員の中で現れており、つまり一種の事を為す心です。これは歴史上にかつてなかったことで、今日のこの特殊な状況下に現れたことで、特殊な歴史時期に現れたことです。なぜこの状況が現れたのでしょうか？ 歴史上にわれわれ中国人、または世界の他の地区の人々もみな同じですが、すべて家庭を中心としていたのです。しかし現代人、特にわれわれ中国人はみな仕事を持っており、一生の間仕事を続けてきたので、もし仕事が無くなったら精神が潰れてしまいそうになります。故に、このような状況が現れ、われわれのこの法輪大法を一種の事業として行くと、多くの輔導員はこのような心を抱いています。彼も法は素晴らしいと分かっており、そうでなければ彼はこのようにするわけではないのですが、その前提は間違い

なく、彼は素晴らしいと知っています。しかし、彼は如何に法をよく学び、法をよく認識し、如何に法の中で自分を高めるという事を講じるのではなく、一種の事を為す心を抱いているのです。自分がすでに晩年に入り、今すでに退職しており、あるいはもうすぐ退職するので、する事がなく、今回する事が見つかって楽しくなり、しかもこの功も素晴らしいから、だと彼はこのような心を抱いています。皆さん考えてみてください。このような考え方は、われわれの法の要求からあまりに離れたのではありませんか？ われわれはこの法に責任を持たなければならない、あなた個人の感情に責任を持つものではありません。あなたは自分がする事がないため、心を寄せるところがないため、やることを見つけないと思ひ、そうではありませんか。これは一つのとても目立つ問題です。どんな考えを持って法に対処するのか、これはとても厳粛な問題です！

人が修煉し、人が真に高次元へ修煉するのは、それは即ち他人を済度し自分自身を済度する問題です。あなたがこの思想の要求について来られなければ、あなたはこの仕事をうまくやり遂げることができません。そうではありませんか？ 私は重ねて強調しており、全国各地でこの問題について話したこともあり、われわれはこの事を一つの事業団体、一つの経済実体、あるいは一つの企業部門としてやってはいけません。私はよく次の例を挙げますが、釈迦牟尼は当年法を伝えていた時にも、人がこの形式の中に陥ってしまうことを警戒していました。その時まだこれらの問題に及ぶことはなく、ただ名と利に対する追求の問題だけでした。釈迦牟尼はあなたにそれを絶たせるため、あなたを深山の中に連れていき、山の洞穴の中に入って修煉し、何もあなたに持たせず、物質上から絶たせて、人の各種の執着心、名利への執着をすべて捨てさせるようにしました。しかし我々は常人社会の中におり、皆さんは常人社会の中で修煉しており、みな自発的に修煉しているのです。実は私はここで皆さんを批判するつもりは全くなく、ただ皆さんの修煉に対して責任を持つため、あなたにこれらの高次元への修煉にひどく影響する障害を指し示しただけなのです。しかし我々は一人の輔導員として、責任の問題があり、もしあなたはよくできなければ、そのグループの人は皆あなたによって誤った道に入るかもしれません。もしそのグループの人が皆あなたによって誤った道に入ったら、自分がどうなるかは別として、あなたはこのグループの人を駄目にしてしまうかもしれません！ 私はよくこの問題に触れ、この事を為すという心を指摘しています。もちろんそれにはそれなりのいいところもあり、我々はこの関係を正しく対処しなければなりません。皆さんは誰でも事を為したいという心がなく、誰も輔導員になりたがらなければ、我々の仕事もうまく進むことができなくなります。皆さんはこの事をしたい熱情を持たなければなりません、しかし出発点はこの法のためでなければいけません。法を学び、法を得、法を広めて人を済度す

るためなので、出発点は専ら何かの事を為すためにしてはいけません。この点において我々には不足があり、我々はよく反省すべきです。

今後われわれ輔導員は必ずこの法を深く理解しなければなりません。そうすればこれらの問題は解決できると思います。それらの講習会に参加したことの無い学習者も含めて必ず法を深く理解しなければなりません。ですから、われわれの輔導員に対する基準も高いのです。また、個人の感情に頼って対処する人もおり、「我々二人は仲が良く、我々二人は以前から仲が良いので、彼を連れてきて輔導員にさせます」と、このようにこの問題に対処してはいけません。必ずわれわれの中のよく勉強できた人、よく修煉できた人にこの仕事をさせるべきです。ここで皆さんに対する要求は高いかも知れませんが、地方の状態に関して私は知っていますが、何と云ってもここは北京であり、われわれの法輪大法研究会もここにあり、中心はここにあるので、この事がうまくできなければ他の地区にも影響を与えてしまいます。

これ以上多く話したくありません。何と云ってもそれらは不足の面ばかりですから。皆さんを批判するつもりはありませんが、話したことはやはり不足の所です。この会には関係者以外の人を参加させないのも、今後の皆さんの仕事に影響を及ぼすことを心配しているため、関係者以外の人を参加させず、われわれ輔導員だけを参加させました。我々の輔導員が模範を示して、それらの事をよくできれば、我々の功派の建設、今後の順調な発展は、問題がないと思います。

また「李洪志が外国に行って、もう帰らないかも知れない」という噂があります。この話を言う人は私を一般の常人と同じように見なしています。私が外国に出て、そこで少しお金を稼いで持って帰って、あるいはそこに永住すると思われています。私はそのような人ではありません。皆さんが知っているように、私は国外に親戚がおり、外国に出ようと思えばいつでも出られるし、そこの生活もここより良いのです。しかし私はこれらのものを追求しておらず、名誉や利益、享樂などこれらの事をいずれも追求しておらず、それらは私にとって何の意味もありません。しかし一部の人がこのことを知らず、このような考え方を持っているかもしれません。私がいなくても、一部の地区ではこのような問題が現れるかもしれません。修煉を指導するため、私がいなくても、一切の事はすべてわれわれ法輪功研究会によって統一に決定し、皆さんを率いて修煉するのです。以前研究会が打ち出したすべての決定はみな私の同意を経ており、私がどこにいても、彼らが決定を打ち出す時に必ず電話やファックスを通じて私と連絡を取ってから決定するのです。もう一つのことですが、私はすでに彼らに言いましたが、これも研究会自身に対して一つの試練です。つまり私がいなくても、う

まく皆さんを率いることができるかどうか、これは彼らに対する試練でもあります。もちろん問題はないと私は思っています。なぜなら、彼らは私に付いている時間がかなり長いので、私のやり方、私のやりたいこと、法を広げるために全体的にやろうとする事に対して、彼らは比較的によく知っているからです。ですからここで明確に言いますが、私がない時、研究会が打ち出した決定は、全国各地の輔導站がすべて従い、行わなければなりません。一人の輔導員としては更に垂直模範の作用を果たすべきです。

輔導員に話題を戻して話しますが、われわれの多くの人はそのを一種の肩書としていますが、われわれは皆さんに常人の中の職位、職務の名称を呼ばせないのは、つまりこのことを避けたいからです。輔導員は何の官職でもありません。更に言えば、もしあなたが煉功場で人に威張るなら、その人が顔を背けてあなたを相手にしなければ、あなたはなす術もありません。あなたはさらに強く言うなら、相手は「私は煉功に来なければいいのでしょうか」と言うかもしれません。ですから我々は何の権力もなく、皆さんは奉仕する気持ちでボランティアでこの事を行っており、皆のために良い事を行っているのです。ですから我々は仕事のやり方においても少し注意すべきです。何かの権力でも、何かの職位でもないのに、輔導員を取り替えることはいつでもできると思います。このことに執着してはいけません。「私に輔導員をやらせるならやりませんが、輔導員をやらせなければ、私は一般の煉功者として皆と一緒に煉功すればよい」という覚悟を持つべきです。実際は、輔導員は奉仕の仕事にすぎず、あなたに輔導員をさせたらあなたは必ず円満成就できるということでもありません！　そういうことではなく、ただ皆のためにより多く貢献し、より多く魔難を受け、多く仕事を行うだけです。多くの地区にもこの状況が現われ、輔導員が取り替えられたら意気消沈になり、甚だしい場合は人を束ねて派閥を結成する人もいます。このような事は法輪大法の中に現われるべきではないと私は思います。修煉の人はこのような事をやっているのですか？　私は我々の輔導員に対して言っています。我々はこのレベルでこれらの事を話しています。これらの事はあまり重く見てはならず、決して重く見てはいけません。

しかし、それらの真に我々のこの法を傷つけた人に対して、彼は誰であっても構わず、そのような人が現れたら、すぐ取り替えなければなりません。我々は学習者に対して何の要求もなく、あなたが学びたいければ学ばよく、学びたくなければ、それも仕方ありません。しかしあなたが学ぶなら、我々はあなたに責任を持たなければならず、あなたに教えなければなりません。一人の輔導員としては同じようにしてはなりません。あなたが良いようにできなければ、周りにも影響を及ぼし、他の人を妨害し

てしまうからです。ですから、でたらめなことを行う人が現れたら、すぐ取り替えなければなりません。ここで正式に皆さんに言いますが、四季青公園の煉功場のある学習者は、一時期のやり方にたいへん問題が多かったのですが、今になっても彼は自分の誤りを認めていません。もちろん我々は彼が誤りを認めることを求めています。これらの事は彼が自分で直すべきですが、未だに彼は改める兆しがありません。しかもその影響は非常に良くないと聞いています。彼は私に対して、表面上からも裏からも、私に対して関係ありませんが、彼はこの法に影響したため、もう彼に輔導員をさせてはいけません。例えばある人は、「私が佛だ、私は誰それからやってきたのだ、私の法輪は家ほど大きい」、あるいは「私は李洪志よりも強い」と言っていますが、彼は何を言っても構わず、私も彼に干渉しません。しかし法輪大法輔導員の基準に符合しなければ、それではいけません。我々は彼を取り替えなければなりません。今後問題がなくなったら、また彼に站长をさせるかもしれません。我々は一時的な事で人の未来を判断してはいけません。つまりこういう問題です。ここでは誰かを批判し、誰かを責める意味はありません。我々は事に対して問題を言っており、人に対して言っているわけではありません。つまり例を挙げているだけです。他に触れていないところに、このようなことはありますか？ もちろんあります。ただそれほど突出していません。

その他に、私が前回すでに話しましたが、つまり我々は必ず一つの法を学ぶ形勢を起こさなければなりません。必ずそうしなければなりません。法を深く理解して、この法を深く理解することができれば、誰かがでたらめにやろうと思ってもその環境が得られなくなります。彼の一念、一言に対して、あなたがすぐ彼の言ったことが正しいかどうか分かります。そうすれば、彼はまだでたらめなことができるのでしょうか？ 邪なことやでたらめなことができないはずです。必ずそうなるのです。

皆さんは皆この法が素晴らしいと知っていますが、実は、私は毎回の講習会で異なる角度から話しているのです。ある人は「私が聴いた先生の今日の講義はこう言われたのですが、別の講義では先生はあの様に言われた」と言いました。実は同じ問題ですが、私は異なる角度から話したのです。しかし私が毎回説いた法は、あなたの今後の修煉の中で、あるいはあなたの今後の向上の中で、あるいは異なる時期にこの本を読む時に、あなたを指導するものがすべて含まれており、全部この本の中にあることにあなたは気づくはずです。この法の中には多くの異なる角度、異なる成分、異なる状態で説いたものが含まれていますが、私は全部一つの状態でそれを説き出しました。ですから、あなたが理解していけば必ず収穫が得られます。皆さんがしっかりこの法を学べば、問題ないはずだと私は思います。私の第三冊の本——『轉法輪』

はもうすぐ出版されます。その中に私が説いた内容がすべて含まれており、比較的全面的なもので、もうすぐ出版されます。最も早くこの本を読むことができ、最も早く受益できるのはやはり北京の学習者です。皆さんは法を多く学び、よく法を理解しなければなりません。

私があれこれ話しましたが、目的は皆さんが真に向上できるためであり、そのために皆さんにこれらのことを話したのです。こんなに急に皆さんを呼び集めたのは、皆さんが将来の修煉過程の中でうまく把握できず、あるいはよく理解できず、あるいは私があなたを正しい道に導くことができず、途中で挫折してしまうことを心配しているからです。そうなれば、皆さんに申し訳ないと思います。ですから、皆さんを参集して、再度この事を説明しました。修煉の事は皆さん自分の事であり、将来誰かが落ちて、誰かが駄目になっても、私のところでは特別に何もしてあげられません。「私から見ればこの人は悪くない」と言っ、あるいは私にその状況を説明したからと言っても、われわれは特別に何かをしてあげて、あなたを上がらせる、これはいけないことです。皆さんが知っているように、私が今日伝えたものは法であり、この法は宇宙の法です。もし私がこの法に従って行なわなければ、私は率先してこの法を破壊するのではありませんか？　ですから完全に皆さんの自ら修めることによるのです。法は素晴らしく、人を濟度することができ、人を救うこともできます。ただ皆さんが如何に法を理解し、如何に法を認識するかにかかっています。皆さんを呼び集めたのは、これらのことを話したいからです。くれぐれもこの会議は私が皆さんの不足を見たから、皆さんを叱責したいという会議だと見なさないでください。そうではありません。一部の問題は即時に指摘したほうが後に指摘するより良いと思います。我々の各地の輔導駅の站长、或いは輔導員の中に、問題がある人を見たらすぐ責任者の役をやめさせました。この人は猛反省して、徐々に自分の問題を認識して、改めて修煉し始めました。站长や輔導員を担当するかしないかに関わらず、彼は同じように最後まで修煉できます。猛反省したので、かえって彼にとって非常に良かったのです。彼は自分でも自覚できたので、ずっと修煉し続けています。一部の人は、我々は再三に彼に機会を与えましたが、彼はどうしても悟らず、最後にはもう間に合わなくなって、彼はすでに完全に落ちてしまい、魔のような状態に変わりました。これは教訓です！

私は真っ直ぐに話をするのが好きなので、遠回しは好みません。最近のこの時期、我々の輔導駅にしても、分站にしても、各煉功場の輔導員にしても、確かに多くの仕事を行いました。それによって、われわれのこの法は今日こんなに大きな影響があるようになりました。もちろん、法が素晴らしいということはその主な一面ですが、皆さんが多くの貢献をして、この法を護り、この法を宣伝するのも重要な一面です。実

はこの法は、私に言わせればつまり宇宙の法であり、皆さんもこの中におり、この法の中に含まれています。そうであれば、この法はあなたたちのものでもあります。この法を護るかどうか、この法を宣伝するかどうか、この法を広めるかどうか、将来この法に同化するかどうか、すべて皆さん自身の事です。私はただこの法を説いて、この正しい道に皆さんを導いています。これは私が行うことです。真に将来圓滿成就になるのは、それはあなた自身が修めたことによるものです。

皆さんの時間をあまり多く使いたくありません。本来多くの方は先生が輔導員の会議で高次元へのものに関して何を説くのかと聞きに来たので、追求、執着、知識を探索する心を抱いて来たのです。これは非常に良くないことだと思います。私はもう多く話しません、これくらいにしたいと思います。皆さんは何か問題があれば、特別な問題があれば、少し時間を残して、問題を出してください。北京総輔導站は写真を撮るように段取りしていますが、後で各輔導站、各分站も皆さんを集めて写真を撮ってもよいです。皆さんと一緒に写真を撮っても構いません。これから皆さんは何か特別な問題があれば提出してください。私の話はこれくらいにしましょう。

また一部の学習者が各煉功場を見て回ってみたいということをお聞きしましたが、各煉功場を見て回ることも良いことで、互いに連絡を強め、相互に経験を学び、これも良いことです。しかし一部の方は別の煉功場に行く時、一種の顕示心を抱いているようです。「私はあれこれのことを知っています」と噂を伝え、あるいは「これらの事をあなたたちは知っていませんが、私は知っています」と言いふらして、いつもそうして……潜在的な僅かなそのような兆候があります。僅かですが、この法を利用して自分を持ち上げようとしています。これも顕示心なのです。明確に自分を持ち上げるつもりではなく、そうではありませんが、ただ僅かな顕示心があるだけです。この顕示心は修煉者にとって非常に有害なものです。

弟子：悟りを開いていない人はなぜ法身がありえるのか、と尋ねる学習者がいます。

師：悟りを開いていない人は注意してください！ 悟りを開いていない人はもし修煉が佛の次元に達したら法身もありえます。しかし我々学習者の中に今は一人もおらず、他の功派の気功師を含めて一人もいません。私の知っている限り法身があるのは私一人しかいません。夢の中で我々の輔導員、我々の站長、また他の何かを見た人がいますが、それはあなたの考えとあなたのこの空間場が合わさり、あなたの空間場との対応関係によって映し出されたもので、これらのものを利用してあなたの空間場の範囲内に映し出されたそのような一つの状態です。その他に、一定の程度まで修煉できた

ら、もし鍵をかけていなければ分身することができます。つまり彼の主元神、身体は分身することができます。しかし、それはすべて小手先のもので、とても低い次元のやり方です。

弟子：ある人は自分が韋馱菩薩だと自称し、先生から学習者に植え付けられた法輪を取り出すことができると話しています？

師：それは彼自身の心から魔が生じたことで、自分の心で演化したもので、彼自身が想像したものです。彼は取り出したのでしょうか？ 取り出したのは彼自身が想像したものです。彼の空間場範囲内で自分が想像した影です。彼は何もできません。韋馱菩薩と自称しているのでしょうか？ 私は皆さんに教えますが、すでに皆さんにこの事を話したことがあります。末法の時期に高次元の生命でさえも劫難の中にあります。保護すべきものはみな保護されましたが、保護されていないものはみな爆発とともに壊滅され、今誰もいなくなりました。多くの方は観音菩薩を見ましたが、その像を持って開眼する学習者もいます。皆さんに教えますが、人が佛を拝むその瞬間に現れた心は最も慈悲で、最も善良な、最も良い心なのです。あなたのこの心を護るために、あなたに観音菩薩の形象を見させたのです。実はすべて私の法身の現れです。以前の講習会で私はすでにこの問題を話したことがあります。

法輪大法北京輔導総站による録音

再版の言葉

『法輪大法義解』は当初出版した時、主に輔導員の素質と輔導能力を高めるためでした。一般の新しい学習者が受け入れられなければ、大法に損失と妨害をもたらすので、発行の範囲を縮小させました。

全国の弟子が法を学び実修することを展開してから、皆さんは大法に対する理解を深めました。実修を通じて大法の弘大さと次元の向上との緊密な関係を実際に感得し、認識も著しく向上しました。この状況下で、私は『法輪大法義解』を再版発行することにしました。ただし皆さんは一つの傾向に注意すべきです。つまり、大法の中で新奇を探し求めてはいけません。確かに絶えず私がまた何を説いたのか、また何か新しい本が出版されたのか、また何か新しい指示があったのか……等々を探している人がいます。心が動ぜず着実に修めなければなりません。実は更にいくら経書を出しても、いずれも『轉法輪』のための補助材料にすぎません。真に修煉を指導するのは『轉法輪』しかありません。その中には常人の次元から無比に高い次元までの内涵が含まれており、あなたが修め続けさえすれば、『轉法輪』は永遠にあなたが修煉して向上することを指導できます。

『轉法輪』は文章の表面上においてきらびやかではありません。甚だしきに至っては、現代の文法に符合しないこともあります。しかし、私がもし、現代的な文法でこの大法の本を整理したなら、一つの重大な問題が現われます。文章の言語構造は規範的で美しくても、さらに深く、さらに高い内涵はありえないのです。それと言うのも、現代の規範的な語彙では、大法のさらに高い異なる次元での指導と法の各次元での現われを示して、学習者の本体と功の演化ならびに向上のこの種の実質的な変化をもたらす術が、まるでないからです。

この『義解』も同様に皆さんが『轉法輪』をよく勉強できるように補助材料として出版したのです。大法弟子が法を師として妨害を排除し、堅実に修めるよう希望します。これがすなわち精進です。

李洪志